

第四十五回

日本古武道演武大会



日時 令和四年二月六日(日)
会場 日本武道館

◆主催 公益財団法人日本武道館・日本古武道協会
◆後援 スポーツ庁・NHK・読売新聞社
◆協賛 日本武道協議会・全国都道府県立武道館協議会

源流
ここに集う



武道

教育・健康・教養を三本柱に、役に立つ「武道人間学」の情報を満載！

毎月28日発行 定価556円(税込) 定期購読 1年間6,666円(税、送料込)



巻頭カラー連載

巻頭リレーエッセイ …… 保阪正康 (2022年2月号掲載)
色紙に書く座右の銘 …… 佐藤浩市 (2022年2月号掲載)
日本の名城 …… 加藤理文、萩原さちこ、小和田泰経
武士の精華 武具光耀 …… 九州国立博物館 望月規史

今月のニュース



第43回日本古武道演武大会



本日の大会記事は、3月号(2月28日発行)に掲載予定！
(写真は2020年の掲載記事です)

武道の源流の伝統奥義を披露

本日の大会記事は、3月号(2月28日発行)に掲載予定！
(写真は2020年の掲載記事です)

私の稽古法 …… 各道の現役選手を中心に、自身の経験に基づいた稽古法や大会前の心構え等を紹介。2022年2月号は柔道・角田夏美氏が執筆。

マンガ・武道のすすめ …… 田代しんたろう氏が描く「日本武道ヒストリア」シリーズ。武術の起源と進化の歩みを深く掘り下げる歴史ロマン

日本古武道協会のひろば …… 毎月、日本古武道協会が、その活動状況等を報告。



発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第四十五回

日本古武道演武大会

□主催

公益財団法人 日本武道館
日本古武道協会

□後援

スポーツ庁
読売新聞社

NHK

□協賛

日本武道協議会
全国都道府県立武道館協議会

国庫補助事業

目次

大会会長挨拶……………	〈公財〉日本武道館会長・日本古武道協会会長	高村 正彦	3
大会委員長挨拶……………	〈公財〉日本武道館理事長・日本古武道協会理事長	白井日出男	4
祝 辞……………	文部科学大臣	末松 信介	5
大会次第……………			6
大会役員……………			8
古武道功労者……………			10
日本古武道協会加盟流派全国分布図……………			12
特別寄稿「日本古武道の魅力」……………			14
出場流派紹介……………			
小笠原流弓馬術……………			20
諸賞流和……………			21
溝口派一刀流剣術……………			22
天然理心流剣術……………			23
澁川一流柔術……………			24
田宮流居合術……………			25
示現流兵法剣術……………			26
関口新心流柔術……………			27
竹生島流棒術……………			28
兵法二天一流剣術……………			29
根岸流手裏剣術……………			30
氣樂流柔術……………			31
柳生新陰流兵法剣術……………			32
北辰一刀流剣術……………			33
柳生心眼流甲冑兵法……………			34
本體楊心流柔術……………			35
関口流拔刀術……………			36
荒木流拳法……………			37
大東流合気柔術……………			38
無比無敵流杖術……………			39
天真正伝香取神道流剣術……………			40
無雙直傳英信流居合術……………			41
天神真楊流柔術……………			42
鞍馬流剣術……………			43
陽流砲術……………			44
欠場流派……………			
心形刀流剣術……………			45
佐分利流槍術……………			46
初實剣理方一流甲冑拔刀術……………			47
肥後古流長刀……………			48
竹内流柔術 腰廻小具足……………			49
沖繩剛柔流武術……………			50
伯耆流居合術……………			51
楊心流薙刀術……………			52
琉球王家秘伝本部御殿手……………			53
琉球古武術……………			54
日本古武道協会活動紹介……………			56
日本古武道協会加盟流派……………			64

挨拶

第四十五回日本古武道演武大会が、ここ日本武道館において、全国各地に伝わる古武道三十五流派の出場を得て、盛大に開催されるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

我が国伝統の古武道は、自らの身を守る護身の術として誕生し、一千数百年の歴史の大河の中で、武士の生死をかけた戦いの場における闘争の術として磨かれ、戦国時代を経て平和な江戸期に入ると武士の心身鍛錬、人間修業の「文武両道」の道として全国各藩において独自の発展を遂げ、体系化されました。その後、明治と昭和の激動期を乗り越えて、今日まで全国各流派縁の地で保存継承されてまいりました。

古武道は、武技の修錬による心身の鍛錬はもちろんのこと、武士道の伝統に由来する正義、勇気、克己、礼節などの精神を養う人間形成の道として現代武道に継承されており、日本が日本らしくある

大会会長

(公財)日本武道館会長
日本古武道協会会長

高村 正彦



ために、また武道文化発展のために、日本人の心に根ざした古武道の普及、継承は今後ますます必要であると確信するところであります。

本日は、日本を代表する古武道三十五流派の奥義を心ゆくまでご堪能いただき、先人の遺した技と心に思いを致し、古武道の保存・継承に益々のご理解、ご尽力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

終わりに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を願うとともに、本大会の開催に当りましてご尽力を賜りました関係の諸団体、各位に深甚の感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

挨拶

大会委員長

(公財)日本武道館理事長
日本古武道協会理事長

臼井日出男



新型コロナウイルス禍を乗り越えて第四十五回日本古武道演武大会が、全国各地に伝わる三十五流派の出場を得て、公益財団法人日本武道館と日本古武道協会の主催により、本日、日本武道館において盛大に開催されますことは、大変意義深いことであります。

日本古武道協会は、日本武道館の提唱により、昭和五十四年二月十七日、古武道の中央統括機関として、全国各地に伝承されてきた主要流派が大同団結して設立されました。

現代武道の原点である古武道は、我が国の長い歴史と伝統の中で培われ、全国各地に継承されてきた重要な文化財であります。今日、古武道は、その技法の修練を通じて心身を錬磨し、豊かな人間形成を目指す道として、国内のみならず海外においても高く評価されており、各流派も多くの海外支部をもち、数多くの門弟を得て、講習会、交流会などを行い、その輪が世界に広がっていることは誠に同慶の至りであります。

今、戦後七十余年が過ぎ、「德育」軽視の教育を押し進めてきたわが国において、欠けているものが三つあると思います。

一つは「日本人としての誇り」、いま一つは「他者に対する思いやり」、最後の一つは「活気、元気」であります。わが国伝統の古武道を基軸に、日本国民が誇りをもち、他人や弱者を思いやり、元気に満ちた生き方を取り戻す必要があると痛感しているところであります。

本大会は、全国各地に伝承される古武道の保存、継承を目的に、昭和五十三年より毎年開催される、日本古武道の「技と心」を披露していただく、わが国最高峰の古武道演武大会であります。

本日は、脈々と伝承されている古武道三十五流派による奥義の数々をご披露いたします。

結びに、大会開催にあたりご尽力をいただきました関係諸団体、各位に心から感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

祝 辞

大会名誉顧問

文部科学大臣

末松 信介



第四十五回日本古武道演武大会が、多数の古武道流派の参加を得て、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

現代武道の原点である古武道は、我が国の長い歴史と伝統の中で培われ、今日まで継承されてきた日本文化であり、単に勝敗や技術

の巧拙を競い合うのではなく、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、豊かな人間形成に寄与するものです。こうした文化としての古武道が、国内のみならず、国や地域の枠を超えて幅広い世代に親しまれ、「道」の精神が広がっていることは、誠に喜ばしいことです。

本大会は、全国各地に伝わる古武道の中から厳選された流派による演武を通して、長い歴史と伝統の中で培われてきた「技と心」を広く一般に紹介し、古武道の保存伝承に資する大変意義深い大会であります。

新型コロナウイルス感染症の影響により活動が制限される中、各流派の代表として参加される皆様が、日頃の鍛錬の成果を存分に発揮し、今後の古武道の振興に寄与されることを大いに期待しております。

結びに、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら本大会の開催、運営に御尽力されました公益財団法人日本武道館及び日本古武道協会をはじめ、関係の皆様方に深く敬意を表しますとともに、本大会の成功を祈念し、お祝いの言葉といたします。

大会次第

開会式 午前十時三十分

一 開会宣言

(公財)日本武道館理事・事務局長
日本古武道協会常任理事

吉川英夫

二 国歌清聴

三 主催者挨拶

(公財)日本武道館会長
日本古武道協会会長

高村正彦

(公財)日本武道館理事長
日本古武道協会理事長

臼井日出男

四 来賓祝辞

古武道功労者表彰式
演武 午前十一時

第一部

演武始め

小笠原流弓馬術

諸賞流和

溝口派一刀流剣術

天然理心流剣術

澁川一流柔術

田宮流居合術

示現流兵法剣術

関口新心流柔術

竹生島流棒術

兵法二天一流劍術
根岸流手裏劍術

休憩

第二部

氣樂流柔術

柳生新陰流兵法劍術

北辰一刀流劍術

柳生心眼流甲冑兵法

本體楊心流柔術

関口流拔刀術

荒木流拳法

大東流合気柔術

無比無敵流杖術

天真正伝香取神道流劍術

無雙直傳英信流居合術

天神真楊流柔術

鞍馬流劍術

演武納め

陽流砲術

閉会宣言

日本古武道協会理事・事務局長

内田 康介

閉
会

※時刻は予定

大会役員

大会会長

高村 正彦

日本武道館会長／日本古武道協会会長／日本武道協議会会長／元外務大臣

大会名誉顧問

末松 信介

文部科学大臣

大会顧問

稲川 泰弘

全日本剣道連盟会長／日本武道館理事

植芝 守央

合気会理事長／日本武道館理事／日本武道協議会常任理事

江渡 聡徳

武道議員連盟会長／日本武道館常任理事／日本古武道協会常任理事／日本武道協議会常任理事／衆議院議員

川島 一浩

少林寺拳法連盟会長／日本武道館理事／日本武道協議会常任理事

川端 達夫

日本武道館常任理事／元衆議院議員

河村 建夫

日本武道館常任理事／前衆議院議員

笹川 堯

全日本空手道連盟会長／日本武道館理事／元衆議院議員

佐藤 浩市

全日本なぎなた連盟会長／日本武道館理事

塩谷 立

日本武道館常任理事／日本武道協議会理事／衆議院議員

中山 成彬

日本武道館常任理事／日本武道協議会理事／前衆議院議員

番匠 幸一郎

全日本銃剣道連盟会長／日本武道館理事

前田 晃伸

日本放送協会会長

増田 規一郎

全日本弓道連盟会長／日本武道館理事

南 和文

日本相撲連盟会長／日本武道館理事

室伏 広治

スポーツ庁長官

森 英介

日本武道館常任理事／日本武道協議会常任理事／衆議院議員

山口 寿一

読売新聞グループ本社代表取締役社長

山下 泰裕

全日本柔道連盟会長／日本武道館理事

山谷 えり子

日本武道館常任理事／参議院議員

大会委員長

臼井 日出男

日本武道館理事長／日本古武道協会理事長／日本武道協議会理事長／元法務大臣

大会実行委員長

吉川 英夫

日本武道館理事・事務局長／日本古武道協会常任理事／日本武道協議会常任理事

大会実行副委員長

内田 康介

日本古武道協会理事・事務局長

大会委員

浅野 有三

全日本弓道連盟副会長／日本武道協議会常任理事

網代 忠宏

全日本剣道連盟副会長／日本武道協議会常任理事

飯篠 快貞

日本古武道協会常任理事／天真正伝香取神道流剣術第二十代宗家

市野 保己

全日本銃剣道連盟副会長／日本武道協議会常任理事

菊池 邦光

日本古武道協会常任理事／荒木流拳法第十七宗家

栗原 茂夫

全日本空手道連盟副会長／日本武道館評議員／日本武道協議会常任理事

小澤 智

日本古武道協会常任理事／北辰一刀流剣術代表

竹内 藤十郎

日本古武道協会常任理事／竹内流柔術腰廻小具足相伝家十三代目

藤堂 良明

日本古武道協会常任理事／筑波大学名誉教授

長尾 進

日本古武道協会常任理事／明治大学教授

中里 壮也

全日本柔道連盟専務理事／日本武道館評議員／日本武道協議会常任理事

東恩納 盛男

日本古武道協会常任理事／沖縄剛柔流武術代表

安井 和男

日本相撲連盟専務理事／日本武道館評議員

吉井 美恵子

全日本なぎなた連盟専務理事／日本武道館評議員／日本武道協議会常任理事

吉川 常隆

日本古武道協会常任理事／鹿島神當流剣術第六十五代宗家

（五十音順・敬称略）

古武道功労者

日本古武道協会では、平成22年度より新たに『古武道功労者表彰規程』を制定し、協会加盟流派の中から永年古武道の保存振興に寄与し、特に顕著な成果を挙げた個人を表彰し、その功績を顕彰いたします。



栄えある令和3年度古武道功労者には、古武道功労者表彰審議会において、全会一致で承認された、心形刀流剣術小林強代表、氣樂流柔術第十九代宗家飯島文夫の両氏に決定いたしました。

心形刀流剣術 代表

小林 強

昭和14年3月4日生



《経歴》

昭和14年三重県生まれ。昭和27年に柔道入門し、心形刀流手習い始める。昭和34年弓道入門。昭和45年心形刀流保存赤心会入門、平成4年「三重県平成文化賞」表彰。平成22年に亀山藩御流儀心形刀流第五代小林正郎師範役より第六代師範役を継承する。令和元年日本古武道協会理事に就任。令和2年「亀山市文化財保存・継承」表彰し、現在に至る。

《功績・指導歴》

- ①昭和27年心形刀流手習いを始め、昭和45年「心形刀流保存赤心会」に入門し、江戸末期に亀山藩に創建された心形刀流亀山演武場で、父である小林正郎亀山藩御流儀心形刀流第五代師範役の薫陶を受け、以来、51年間にわたり修行に励み、平成22年に第六代師範役を継承し、今日まで亀山の地に伝承される心形刀流の心を正しく引き継ぐことに努め、文化財である古武道の保存伝承に尽力した。
- ②昭和26年に亀山市無形文化財指定、昭和50年に三重県無形文化財指定を受け、保存継承に努めた。
- ③公益財団法人日本武道館・日本古武道協会主催の日

氣樂流柔術 第十九代宗家

飯島 文夫

昭和17年8月4日生



《経歴》

昭和17年群馬県生まれ。昭和35年に王統流空手道に入門（日本武道館主催第1回全日本古武道演武大会出場流派）。昭和51年、氣樂流柔術第十八代宗家新井道次郎先生に入門。昭和55年に氣樂流柔術第十八代宗家新井道次郎先生より第十九代宗家を継承する。平成19年、本間念流免許（後継者となる）。平成11年に王統流空手道第三代宗家を継承。平成12年荒木流拳法目録。令和元年、兵法法神流流儀伝承会の会長、副会長より、門人への教授を許可される。同年、日本古武道協会理事に就任し、現在に至る。

《功績・指導歴》

- ①氣樂流柔術（戸田流・氣樂流・三化無敵流の三流相伝免許）の新井道次郎第十八代宗家に入門以来、47年にわたり氣樂流の修行に努め、第十九代宗家を継承し、自宅内の尚武館本部道場において、門人の育成に邁進するとともに、流儀の保存・伝承に尽力した。
- ②氣樂流柔術のほか、地元群馬県に伝承する王統流空手道、本間念流、荒木流拳法、兵法法神流などの古武道各流派の習得にも取り組み、研鑽を重ねるとともに、各流派の文献資料の散逸を防ぐため、伝書、口伝書等の収集にあたるなど、文化財としての古武道の技法や文献資料の保存・伝承に努めた。
- ③昭和53年に日本武道館で開催された第1回全日本古武道演武大会（日本武道館主催）における氣樂流柔術の出場演武を始めとして、今日まで公益財団法人日本武道館・日本古武道協会主催の日本古武道演武大会に出場するほか、群馬県内外において公開演武を行い、広く氣樂流柔術の周知をはかることも、伝統文化である古武道の普及発展に努めた。
- ④古武道の保存振興に、永きにわたって顕著な成果を挙げた（昭和55年本協会入会）。
- ⑤氣樂流柔術第十九代宗家継承以来、自宅内の尚武館本部道場（前橋市）と伊勢崎支部道場（伊勢崎市）において、それぞれ週1回、正しい技法と同時に収集した伝書等の文献資料に基づき、鎖鎌、契木等各種武器の伝来など、先代から受け継いだ流儀を正しく伝承すべく、門人の育成にあたっている。また、氣樂流柔術のほか、本間念流、兵法法神流の指導も行っている。

本古武道演武大会をはじめとして、鹿島神宮・下鴨神社・明治神宮・伊勢神宮・熱田神宮での奉納演武や三重県下の剣道大会等において模範演武披露を行っている、伝統文化である古武道の普及振興に努めた。

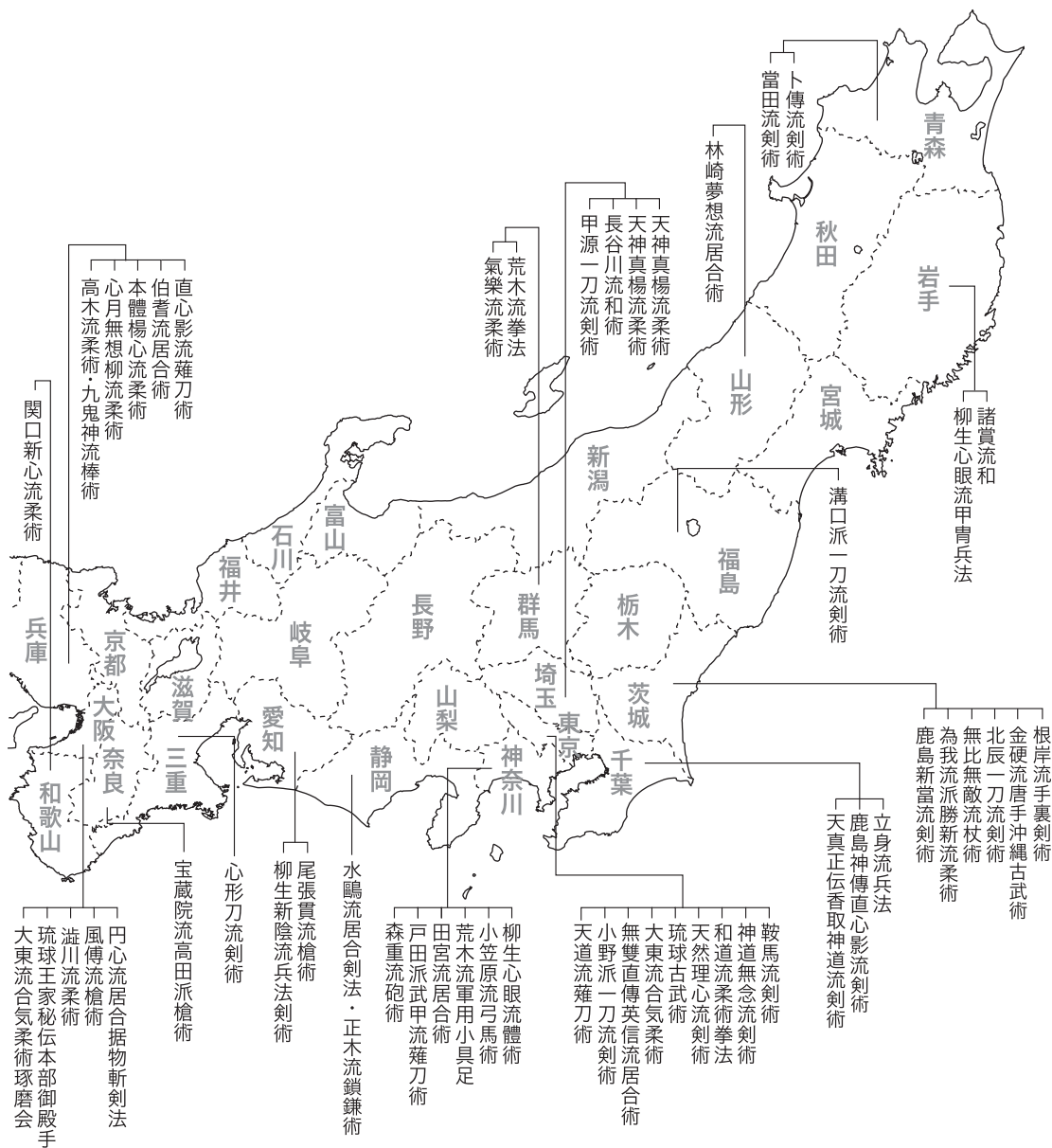
④古武道の保存振興に、永きにわたって顕著な成果を挙げた（昭和55年本協会入会）。

⑤平成22年に亀山藩御流儀心形刀流第六代師範役を継承以来、亀山演武場において、心形刀流の心と技の流儀を守るべく、年中無休で指導にあたり、心形刀流の心をそなえた門人を育てるべく、後継者の育成と文化財の保存振興に努めている。

古武道功労者 受章者一覧

平成22年度	笹森 建美 (小野派一刀流剣術 第十七代宗家) 竹内藤十郎 (竹内流柔術腰廻小具足 相伝家十三代目)
平成23年度	森 恕 (大東流合気柔術琢磨会 総務長) 加藤伊三男 (尾張貫流槍術 第十三世継承者)
平成24年度	米原 亀生 (関口流拔刀術 第十五代宗家) 高橋 厚吉 (諸賞流和 第六十八代宗家)
平成25年度	小笠原清忠 (小笠原流弓馬術 第三十一世宗家) 園部 正美 (直心影流薙刀術 第十八代宗家)
平成26年度	井上 彰二 (起倒流柔術 代表) 菊池 邦光 (荒木流拳法 第十七代宗家)
平成27年度	加藤 紘 (立身流兵法 第二十二代宗家) 吉川 常隆 (鹿島新當流剣術 第六十五代宗家)
平成28年度	飯篠 快貞 (天真正伝香取神道流剣術 第二十代宗家) 小澤 智 (北辰一刀流剣術 代表)
平成29年度	小野尾正治 (森重流砲術 代表) 柳生耕一厳信 (柳生新陰流兵法剣術 第二十二世宗家)
平成30年度	東恩納盛男 (沖縄剛柔流武術 代表) 関口 芳夫 (関口新心流柔術 第十三代宗家)
令和元年度	波止 成徳 (神道夢想流杖術 代表) 小川 武 (神道無念流剣術 代表)
令和2年度	勝瀬 善光 (水鷗流居合剣法第十五代宗家・正木流鎖鎌術第十二代宗家) 昭和16年静岡市の自宅水鷗流本部碧雲館道場に生まれる。父の第十四代宗家勝瀬光安景正の指導により、剣道・杖道・居合道・水鷗流薙刀剣法居合、組居合小具足脇差鎖鎌術を学び、第十五代宗家を継承。令和元年日本古武道協会理事に就任、現在に至る。
	小山 秀弘 (ト傳流剣術 第十二代宗家) 昭和9年青森県生まれ。昭和32年弘前大学卒業後、38年間教員として青森県立高校に勤務。31年国民体育大会・剣道に初出場、以後3回出場。45年第19回東北六県剣道選手権大会個人優勝。47年剣道教士取得。62年オーストラリア建国200年祭全世界古武術演武大会にて親子3代でト傳流剣術を演武。平成5年ト傳流剣術第十二代宗家を継承。12年剣道八段位取得。21年ト傳流剣術が弘前市無形文化財に指定。令和元年日本古武道協会理事に就任、現在に至る。

日本古武道協会 加盟流派全国分布図



古武道は、その歴史や発生の経緯がさまざまであり、流派によって種々の特色を持つている。古武道流派の発生については、平安末期や室町期という説が有力である。その源を考えると、人の歴史とともに存在した闘争術にまで遡ることになるだろう。

武の技術は原始的な闘争のなかから生まれ、それは武器の発生・進化とともに錬磨され、伝承されたと考えられる。たとえば、剣の源流として知られる「鹿島の太刀」は、神話の時代より鹿島神宮の神官たちに伝わる刀法といわれる。中条家に伝承された中条流、竹内家に伝承された竹内流腰廻など、また、「イエ」や「寺社」といった集団の中で発展し、伝承されてきた技術の体系といえる。

江戸期に、武家が古武道の主たる擁護者となったことは確かだが、農民や町民たちもまた古武道を愛し、その発展を支えてい



る。天真正伝香取神道流、竹内流、馬庭念流など、流儀武術の草創期に発生した流派の宗家たちが、武家への仕官を拒み、農村に居を構えて民間に武芸を指南したことは興味深い。これらの流派は、武家からも高い評価を受けて多くの門弟を得ながら、地域では農民、町民を分け隔てなく門弟に取り立て、指導してきた。古武道は武家のものであると同時に、こうした農村や市井の人々に親しまれた側面も持つっており、伝承された地域独特の風俗を伝える地域文化とみることもできる。

現存する古武道諸流は、必ずしも発祥地に連綿と伝承されたわけではない。特に明治以降、古武道は修行者が激減し、伝承の危機に瀕している。そのなかで志を持つ伝承者が各地に移動し、命脈を保った流派も少なくない。

日本古武道の魅力

古流武術研究家 横瀬 知行

■古武道の多様性

現在行われる様々な武道は、その源流を江戸期以前に興った古武道に求めることができる。大まかには、明治期前に行われた武術の各流派を「古武道」と称し、明治期以降に成立したものを「武道」または「現代武道」として区別する考え方が一般的である。

とはいえ、現代の武道に比べ、古武道はその歴史や発生の経緯が様々であり、流派ごとに個性的な特色を持っている。例えば、現代武道である剣道と、古武道である剣術流派の関係を考えてみると、現代武道としての剣道が一つであるのに対し、その源流となった古武道の剣術流派は数多い。現代剣道で学ばれている日本剣道形は、戦前の大日本帝国剣道形が原形といえる。その大日本帝国剣道形制定時の調査委員会には、神道無念流、心形刀流、北辰一刀流、小野派一刀流、田宮流、新陰流、山口流、直心影流、鞍馬流、無刀流、貫心流、無外流、津田一伝流といった古武道流派の代表者が委員として参加している。参加した委員たちは、各流派の技法を持ち寄って統一した形をまとめたため、その編纂には多大な苦労があったと言われている。

現代武道は競技としての側面を持ち、技術や目的の統一を行いながら発展してきた。競技として成立するためには、競技者を公平に評価するための、共通した技法とルールとの制定が不可欠である。技術内容の統一は、必然の流れといえるだろう。これに対し、古武道は多種多様な歴史と技術的背景を持ち、その多様性が一つの特徴といえる。現代武道が「武道」として明確な目的と術技を持ち、一つの目標に向かって修行を進めるものであるのに対し、古武道は目的も術技も統一



竹内流に伝わる鎧組討の技法

されていない。

戦国時代さながらの甲冑戦闘を伝える流派もあれば、殿中における制圧の技法を伝える流派もある。技巧の粋を追求する流派もあれば、数多の技法を無用としてひたすら心の錬磨に向かう流派もある。武術である以上、護身は共通した目的ではあるが、その方法論は極めて多様。混沌と言っても差し障りないかもしれない。混沌である故に、現代では不合理と見える部分もあるかも知れないが、伝承される術技や教えは幅広く、時代の変化に柔軟に應じる教えを見つけ出すこともできる。一見して古くさいように思える古武道の術技が、現代の世においてもハッと気づかされる優れた身体操作の技術を伝えていることがある。伝書に記された教えが、現代社会で行き詰まりを感じたときの心を救う教えにもなる。長い年月の間に、生死を分かち極限状態の中で見つけた教えは、現代においても眩しい光を放っている。古武道流派を見続けることで、そんな技術や教えに触れる経験は少なくない。

■古武道が伝えるもの

古武道は、その発生経緯から闘争の技術であり、護身そして体育的な面を多く持つ伝統文化といえる。しかし文化として発展した歴史の中から、直面する現状にに応じて、人がどのように生き、対処すべきなのかという術を伝える、きわめて深遠な教えを多く含んでいる。

生死を分かつような極限の状況下で、人はどのように考え、行動すべきなのか。限られた身体と能力を駆使して、現状にいかに対応していくのか。武芸を伝え、人を育てていくためには、何を重視すべきなのか。そうした先人の教えは、何代にも亘って人を媒体として蓄積され、伝承されてきた。古武道は今も昔も人から人へと受け渡されるものであり、あくまで先師の導きと修行者本人の気付きの中で伝承される。



鹿島神流剣術の形稽古

古武道の代表的な修行形態に「形稽古」がある。武術の形は攻防の動作を示した一定の動作で組み立てられており、これを反復することで流儀の技を学んでいく。試合稽古が十分にできなかった時代、形稽古が古武道の修行形態の中心であったことは確かであるが、それは形の動作を覚えることを目的とはしていない。

技術の要諦を「形」に凝縮して伝授する方法は、古武道に限らず、歌道、華道、能楽、茶道といった日本の芸道一般にみられる教授方法といえる。形は先人が自らの体験や工夫の中から生み出した一連の動作を、定形化したものと考えられる。芸道の中で伝えられる所作は、どれも複

雑で深奥な術理を含んでいる。それを伝えるためには言葉や単純な動作の反復だけでは伝えきれない場合が多い。「形」という一連の所作が器となり、伝えるべき術理を効果的に伝授することができる。

こうした「形稽古」という教授方法は、西洋の科学的なスポーツトレーニングとは大きく異なっているように思う。スポーツにおけるトレーニングでは、目標とする身体動作や技術を部位や局面に分けて分類し、極力単純なものに純化していく傾向がある。理想とする姿勢をフォームとして固定し、強化すべき課題を個別のトレーニングで対応していく。近代の自然科学的な思想が、そこには色濃く感じられる。これに対して日本の古武道は、個別より全体を重視し、天地自然の理との同化を目的とする思想が根底にある。だから部分的に個別の動作を反復的に修行することはあっても、形に含まれる一連の動作はあくまで一つのまとまりとして考えている。

古武道の稽古では、形を途中で止めることを嫌う。形を打ったら最初から最後まで一定の流れの中で行うことが大切であり、形の一部分を取り出して分析をしてしまえば、形が伝えようとしている間や気の配りといった極めて感性的な教えを伝えることができなくなる。複数の動作を全体で捉え、身体動作や精神の在り方といった複雑な作業を一つの技として捉え、修行していく。形を部分ではなく全体として捉えていく技術観も、日本古武道の特徴であろう。

江戸柳生の祖、柳生但馬守が著した『兵法家伝書』には、新陰流の勢法（形）を列挙した後に、形の意味について述べている。

「右の数々を能々習ひ得て、此中より、千手万手をつかひ出すべし。三学九ヶなど云ふは、大体を云ふ也。此道をよく得てより、太刀の数を云ふべからず」

流儀が伝える形はあくまで大体のものであり、大切なのは形を通じて得た術理を応用し、実戦に臨むことである。形の動作を複数覚えても意味は無く、柳生但馬守も「太刀の数を云ふべからず」と戒めている。

形稽古において、動作の順序を覚えることは、稽古の準備ができた段階に過ぎない。例えば形を稽古していくうちに、思うように身体が使えないことに気付く。ここで自分が動きやすいように形を変えてしまえば、形の要求を無視することになり、形が伝えようとしている術理を身につける機会を失うことになる。たとえ

身体が動かなくても、形に含まれる動作を繰り返しながら、形が身体に何を要求しているのかを理解し、それを実現できるように自分を変えていく。これが「形を錬る」という行為であり、形が伝えようとしている術理（身体の使い方や、我と彼の間合いの感覚等）に気付く、自得することが重要となる。たとえば師が事細かく体遣いの勘所を教えてくなくても、それが修行者の感覚に響かなければ伝わらない。

■稽古を通じて流祖に出会う

自分自身の身体と折り合いをつけ、術理に気付くためには何をすれば良いのか。それは自分自身と対峙しながら、自己鍛錬を重ねる他に無い。師より授けられた形を繰り返し、流儀が伝える基本鍛錬を重ねていくことである。

最古の柔術といわれる竹内流の流祖・竹内久盛は一人稽古を重ね、夢中のうちに異人から小具足の術を授けられたと伝えられている。竹内流に限らず、古武道流派が伝える流伝には、流祖が神秘体験の後に妙術を悟り、武術に開眼する話が多く伝わっている。竹内流の場合、実際に修験者のような異人に武術を授かったと考えることはできるが、一人稽古の後に武術の奥妙を悟り、それを異人に仮託したとも考えられる。自己鍛錬の末の気付きは、修行者にとって神の啓示や異人からの伝授に等しい、神秘体験といえるだろう。

剣術等の武器術は、得物を使うことで自主稽古を行いやすい。そのため、一人稽古を積み重ねて開眼した話は多く伝わっている。

示現流を創始した東郷重位が、師の善吉和尚より天真正自顕流を学んだ期間は僅か六カ月であった。京都で自顕流を学んだ重位は、薩摩に戻り柿の巨木を相手に立木打を続けて示現流を興している。善吉和尚の教えを受け、立木打の一人稽古によって妙技を自得していった。

直心影流にも巨大な振り棒を使う稽古が伝わる。体重ほどもある振り棒は、腕力だけでは振り続けることは不可能であり、足、腰、胴体、腕といった全身を使って振る。昭和に直心影流を伝えた山田次朗吉は、六十キロある振り棒で二千回の素振りができるまでは組太刀を習わなかったという。

剣を扱う武術の中でも、居合術では一人で演じる形を伝えている。立身流は居

合を含む総合武術であるが、抜き形を一定数繰り返す「数抜き」の稽古を伝えている。立身新流を学んだ福沢諭吉は、自著のなかで数抜き千本を抜いた記録を伝えている。また、佐倉藩伝立身流十九世・加藤久は、数抜き三万本を抜いた話が伝わっている。

柔術では、相手を替えながら一定の数を稽古する数稽古等の稽古法が伝わっている。数稽古の様子について、諸賞流七十代柳原正弘師範は次のように語っている。「夕方の五時から始めて、終了したのは翌日の明け方五時でした。数稽古の途中では『一体いつになったら終わるのか』と途方に暮れた気持ちになり、次第に意識は薄れ、力も入らなくなります。この数稽古を行うことで、技の理合が無意識のうちに身体に備わるのではないかと思うのです」。

木刀を取っての立木打や素振り、居合形の数抜き、そして柔術の数稽古。いずれも共通するのが、繰り返し行う苦行の中で自己と向かい合い、身体意識と肉体の葛藤の中で気付きを得るということだ。数打、数抜き、数稽古といっても、何回やれば気付きを得られると決まっているわけではない。それが単純なスポーツトレーニングとは、絶対的に異なる点である。

流儀が伝える技の中にどっぷりと浸かり、意識と身体を駆使して術理を探索していく。やがて得られる気付きの瞬間は、何度も、何段階にも亘って訪れる。それは稽古を介して創始者が求める術理と出会う瞬間でもある。

流儀の師を通じ、流儀が伝える術理を得て、創始者と出会うこと。兵法二天一流の故今井正之第十代宗家は、流儀の修行について「当流では、形稽古を通じて武蔵先生との出会いがなければなりません」と語っていた。二天一流が伝える形の中で、流祖の宮本武蔵は今もなお生きており、稽古を通じて宮本武蔵に出会うことで、初めて二天一流の伝承を得たことになる。二天一流における宮本武蔵、新陰流における上泉伊勢守や柳生宗厳、一刀流における伊藤一刀斎、竹内流における竹内久盛等は、いずれも流儀の形や伝書を通じ、求めた術理を伝えようとしている。稽古を通じ、流祖たちが伝えようとした術理に気付いたとき、それは流祖に出会えた瞬間といえる。遙かな時代を超え、流祖に出会うことができる。古武道を学ぶ者が味わえる、大きな愉しみといえるだろう。

■生涯続く気づきと自己練磨の道

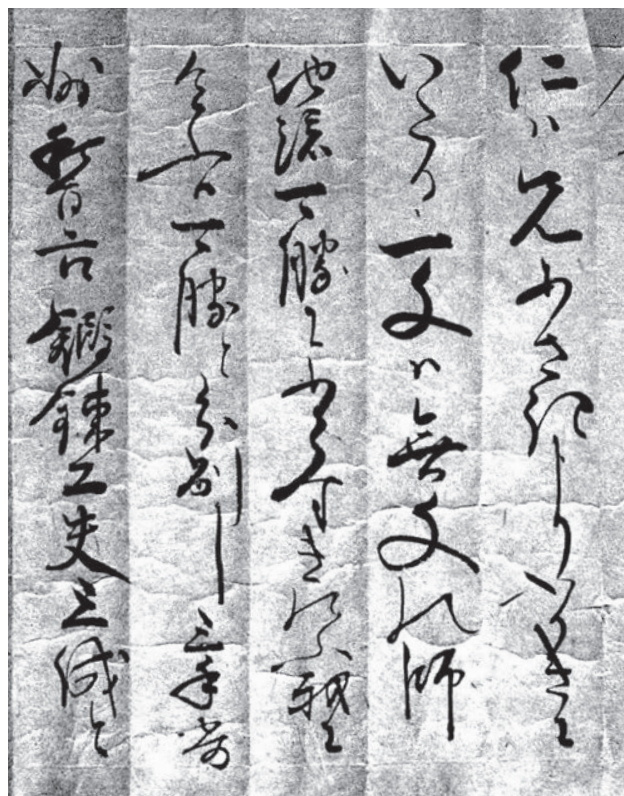
流儀の師を介し、術理を通じて流祖に出会う。そしてまた、自分の心と身体に對峙して修行を続けていく。その目的は、誰かとの争いではなく、自己と向かい合い、心と身体を磨き続ける作業となる。

柳生新陰流『兵法家伝書』では、「かたんと一筋におもふも病也。兵法つかはむと一筋におもふも病也。習のたけを出さんと一筋におもふも病、かからんと一筋におもふも病也。またんとばかりおもふも病也。病をさらんと一筋におもひかたまりたるも病也。何事も心の一すぢに、とどまりたるを病とする也。此様々の病、皆心にあるなれば、此等の病をさつて心を調ふる事也」とあり、真劍勝負において人が心に抱きやすい迷いを具体的に述べている。生死を賭けた極限状態を前提とする武術においては、身体動作と共に精神の在り方が重要であることは容易に想像できる。その問題を心法として、伝承者たちは真劍に考え、答えを探していたのである。

「胸には何事もなくして、又何事成共なせば、やすやすと成る也。鏡の常にすんで、何のかたちもなき故に、むかふ物のかたち、何にてもうつりて明らかなるがごとし。道者の胸の内は、鏡のごとくして、何もなくして明らかなる故に、無心にして一切の事一つもかく事なし。是只平常心也。」

さまざまな病に囚われず、「胸に何事もない、鏡のような状態」が大切であると『兵法家伝書』は説いている。言い換えれば「無心」であることが大切であり、極限ともいえる緊張状態の中で無心を保つ工夫が、新陰流の説く心法ということになる。

古武道において無心を求めるのは、宗教的な悟りを求めるのが目的ではなく、闘争という緊張状態の中で、自分の心が思い通りに働かなくなるのを克服するためである。極めて現実的な目的のために、自己の内面において心の本質を探究した結果得られた答えであった。必勝の技も、心の病に罹っては何の役にも立たない。真劍勝負の経験から心の大切さを感じた武芸者たちは、剣の理を完成させるためにも技法と心法の一体を図り、心の問題に深く立ち入る必要があったのだらう。そのために、仏教、神道、禅、儒教といった思想、宗教の理念を借りながら、



柳生石舟斎宗厳「柳生家憲」

古武道は精神の内面に関わる独自の解釈を打ち出していた。

日本の武術家たちは、闘争の技術を追求し、真劍勝負における「勝つ理」を追求した結果、悟りや解脱といった宗教的境地の精神世界を構築していた。それはストレスや葛藤の多い現代の社会でも、私たちの向かうべき指針となるはずだ。

『一文は無文の師、他流勝つべきに非ず。昨日の我に、今日は勝つべし』とは、柳生石舟斎宗厳の言葉である。他と争わず、自身と對峙し、昨日の我に今日は勝つ。古武道の魅力は、生涯続く自己練磨の中で、今を力強く生きる道にも見出すことができるのではないか。

◇

◇

『日本古武道協会四十年史』第三章第一節の原稿を一部抜粋し掲載

■資料協力：竹内藤十郎氏、吉川常隆氏、柳生耕一厳信氏

▽横瀬 知行（よこせ・ともゆき）

1963（昭和38）年、東京都生まれ。古武道技術・文化の伝承をライフワークとしている。月刊「武道」において「日本の古武道」「古武道の技と心をたずねて」「武道の源流を訪ねて」を連載。主な著書に『日本の古武道』（日本武道館）。

書籍のご案内

日本古武道協会設立 40 周年記念

『日本古武道協会 四十年史』

日本古武道協会は、設立 40 周年記念事業の一環として、(公財)日本武道館の全面協力を得て、『日本古武道協会四十年史』(DVD2 巻付・A4 判・箱入・352 頁)を令和元年 6 月に刊行しました。

本書は、当協会の 40 年の歴史と組織・事業を、貴重な資料と豊富な写真・映像で振り返るとともに、加盟全 77 流派の全容を網羅した構成となっており、古武道の一千数百年に及ぶ長い歴史に立って、40 年にわたる歩みを集大成した記念誌です。

全 42 回大会の演武写真、記念すべき第 1 回大会や昭和 57 年古武道パリ演武大会の映像など…

40 年の歩みを
貴重な資料と、
豊富な写真・
映像で振り返る



特別付録 DVD2 巻付

【日本古武道協会四十年史 目次】

- ◎刊行の辞 高村 正彦 日本古武道協会会長
- ◎刊行にあたって 白井日出男 日本古武道協会理事長
- ◎口絵 (カラーグラフ 24ページ)

◆第一章 日本古武道協会40年の歩み

- 第1節 歴史 第2節 組織
- 第3節 事業 第4節 写真で綴る40年の歩み

◆第二章 40周年記念特別座談会

「日本古武道協会設立40周年 歴史、現状と課題」

- 高村 正彦 日本武道館・日本古武道協会会長
- 白井日出男 日本武道館・日本古武道協会理事長
- 三藤 芳生 日本武道館・日本古武道協会常任理事
- 小笠原清忠 小笠原流弓馬術第三十一世宗家
- 加藤伊三男 尾張貫流槍術第十三世継承者
- 竹内藤十郎 竹内流柔術腰廻小具足相伝家十三代目
- 吉川 常隆 鹿島新當流剣術第六十五代宗家
- 森 恕 大東流合気柔術琢磨会総務長

◆第三章 日本の古武道

- 第1節 日本古武道の魅力 横瀬知行(古流武術研究家)
- 第2節 剣術の系譜 長尾 進(明治大教授)
- 第3節 柔術の系譜 藤堂良明(筑波大名誉教授)

◆第四章 日本古武道協会加盟流派紹介

- 第1節 加盟流派全国分布図
- 第2節 加盟77流派紹介(五十音順)

◆第五章 資料編

- 第1節 会則 第2節 役員名簿・組織図
- 第3節 加盟流派一覧 第4節 年表
- 第5節 事業一覧 第6節 古武道功労者一覧
- 第7節 古武道関連書籍

◆編集後記 三藤芳生日本古武道協会常任理事

◇特別付録 DVD収録内容

- 第一巻 日本古武道協会40年のあゆみ
- 第二巻 加盟77流派紹介

《本書に関するお問い合わせ先》

日本古武道協会 事務局

TEL: 03-3216-5114 FAX: 03-3216-5388

住所: 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2番3号



出場流派紹介

（演武順）



おがさわらりゅうきゅう 小笠原流弓馬術



第三十一世
小笠原 清忠

〒251-0037
神奈川県藤沢市鶴沼海岸2-17-4
☎(0466) 34-4089

抱負

新型コロナウイルス感染拡大が二年にわたり続いております。一時も早く終息いたしますよう祈願しての百々手の式を執行いたします。

由来

当流は、鎌倉時代に源家の糾方きうほうを受けた小笠原長清によって創始された。長清は、頼朝公が鎌倉に幕府を開くと、父の加賀美二郎遠光に従い、糾方の伝師範として頼朝公の糾方師範となった。時に文治3年（1187）、長清26歳の時である。

長清は父とともに流鏑馬、奉射、また鶴岡八幡参拝の次第など、故実を基に新しい武家儀式を制定した。

20代貞政は、徳川8代將軍吉宗公のとき、糾方師範と同時に騎射目代を命じられ、新しい流鏑馬を家伝の書を参照し制定した。

28代清務は、15代將軍徳川慶喜公の師範として騎戦調練法を作り、旗本の調練にあたった。明治12年（1879）には吹上禁苑で流鏑馬など天覧を賜った。翌年、將軍家の許しにより神田に弓馬術礼法小笠原教場を開く。

30代清信は伊勢神宮、鶴岡八幡宮など各社の神事に奉仕し、儀礼文化学会設立にも努めた。現在、31代清忠が継承している。



流儀の特徴

小笠原家は礼法の家として広く知られているが、本来は弓馬の武術であり、礼法は家伝の弓馬術の基本動作をまとめて武家社会の作法としたものである。

將軍家のみの御留流として、当家のみが継承していたため巷間ちやうかんに流布することがなかった。当流では、礼法、弓術、弓馬術の3つを修めることが必要であり、その修業の過程を大事としている。今回の演武は、百々手の儀式を披露する。

演武者

後見	三十一世	小笠原 清忠
射手	宗家嫡男	小笠原 清基
射手	重藤弓格免許	鎌形 佐知夫
射手	重藤弓格免許	星 達郎
射手	重藤弓格免許	田 丸 達 男
射手	相位弓免許	佐 藤 昌 二
射手	相位弓免許	飯 島 陽 一
介添	重藤弓格免許	星 野 真理子
介添	修善弓免許	宇田川 照子
矢取	三品藤弓免許	鎌形 雅子

演武内容

百々手式

百々手式は祈願・魔性退散または祝事・祭事に際して行われ、弓箭きうせんを本尊ほんそんに勧請かんじようし、酒肴しゅぎょうを供えて執り行う儀式である。

射場は的までの距離を21杖または25杖（46mまたは55m。1杖は弓1張分の長さ）にとるが、場所により適宜変更される。

使用する的は直径5尺2寸の大的を用いる。中心を小眼といい、白色で直径1尺2寸、次の黒は4寸9分、白4寸2分、黒2寸、白4寸2分、一番外の黒は4寸7分と幅がそれぞれ決められている。今回は半的を使用する。

装束は直垂ひきたてを着用し、百々手射手は引立烏帽子ひきたてえぼしを、諸役は風折烏帽子かざりえぼしを被り、介添は小素襖こすおうを着用し、侍烏帽子を被る。女子は水干を着用する。

甲矢、乙矢二本引くことを一手というが、これを十人の射手が各十手ずつ、合計百手射ることから百々手式といわれる。式は、本来は百々手射手が、前弓後弓各々揃って奉射を行う。今回は前弓が揃って立ち出て式退所へ進み、前弓は三、五、七と、奇数歩進み出て、一番前の射手より順次雨垂れ拍子に的に当たるように射放つ。

活動状況

当流は、小笠原家に伝わる弓術、弓馬術、礼法の術技について習得を心がける方に対して稽古を行っている。各地の神社などにおいて弓術、弓馬術、礼法の儀式を、神事、奉納行事として年間50数カ所で行っている。平成21年2月には小笠原教場を支援する団体として、NPO法人小笠原流・小笠原教場を設立し、嫡男小笠原清基を理事長として一般への啓蒙活動を行っている。

稽古場及び支部

騎射稽古場

鶴岡八幡宮研修道場、杉並大宮八幡宮、賀茂御祖神社、奈良春日大社、日光乗馬クラブ

礼法稽古場

鶴岡八幡宮研修道場、梨の木神社、NHK青山・NHK京都・NHK大阪・朝日カルチャーなど

歩射の支部は各地域に所在している。
教場 世田谷区南烏山

文化財指定

当流奉仕の京都賀茂御祖神社（通称、下鴨神社）の「たぎ糺の森流鏑馬神事」は、京都府の無形文化財に指定されている。

諸賞流和

抱負

日本武道館・日本古武道協会様に古武道を守っていただき、地方でコツコツと道場で守って稽古をしているので、本当に励みになります。また、一番の大きな舞台である日本武道館で演武することが、私たちの一番の励みになります。弟子たちと元氣よく演武したいと思います。

由来

平安時代に坂上田村麻呂が清水観世音に祈願して、夢想の中に和を伝えられたのが夢想観世流で、彼が開祖であると伝えられている。源頼朝が鎌倉に幕府を開いたとき、勅使を饗応するため角



宗家

高橋 厚吉

〒020-0033
岩手県盛岡市盛岡駅前北通6-51-1006
☎(019) 651-9902

打つ。

③棒捫

相手の棒が振り下ろしたところに体をかわし、棒をおさえて当身を入れ、倒して棒で急所を打つ。

④谷渡

二人に棒で腰を打たれるのを押さえて当身を入れる。

⑤貳人詰

二人に押さえられ、はじめの相手を蹴りと刀で切り落として、次の相手をその刀で返しながらか切り落とす。

(小具足(変手))

⑥踏落

腕を中に入れて喉を突く。

(小具足(手づまり))

⑦踏落

腕を押さえられて払って喉を突く。

(ほぐれ)

⑧調子

相手に倒され一瞬の隙を突いて足で急所を蹴る。

⑨大殺

相手の太刀を瞬時にかわして当身を入れて足をすくって投げる。

⑩大杉倒

後ろから目つぶしを入れて足を引いて倒す。

⑪投の形

小手乱 柔道の巴投げに似ているが、ほんとは投げて頭から落とす。

活動状況

今年でオランダの柔術協会と交流して37年目。平成15年9月に、盛岡の道場メンバー10人ほどとともにオランダに行き、国際交流を行う。

秋には盛岡市郷土芸能祭に参加し、稽古の成果を披露している。

稽古場及び支部

○橋市道場

〒020-0032 岩手県盛岡市夕顔瀬町9-26

☎(0196) 22-2642

・日曜日 午前9時30分〜12時

文化財指定

○昭和54年8月1日 盛岡市指定無形文化財に認定。

演武者

印可本傳 高橋 厚吉
印可本傳 熊谷 弘志
免許本傳 佐藤 智之
免許本傳 山本 忠博
免許本傳 主濱 泰晴
免許本傳 宮原 博光

演武内容

(立合)

①大殺(1) 相手の太刀を瞬間にかわし、当身を入れて倒す。最後は逆手で極める。

②山落 目潰をかけて肩を押し足を払って倒し、拳骨で急所を

流儀の特徴

諸賞流和はめつぶし、肘当、前がり、手刀、三味線がせを主体としてわざができています。〴〵一般にかえしわざという、裏の形は荷鞍という防具をつけて行う。

系譜

田村利宗—藤原元吉—名護屋久行—毛利宇平太国友—岡武兵衛庸重—松橋宗年—田中正之—高橋京三—高橋厚吉—熊谷弘志—柳原正弘—佐藤智之

みぞぐちは いっとうりゅうけんじゅつ 溝口派一刀流剣術



流派代表
長沼 悟詮

〒965-0817
福島県会津若松市千石町3-43-302
☎(0242) 88-0090

抱負

古武道演武大会で演武をさせていただくことは誠に名誉なことであり、感謝を申し上げます。

本日披露させていただく形は体捌き、足捌きを左右に転化し、打太刀が終始攻めて勝つ技は他に見られない大きな特色があります。この形に秘められている心と理合と礼節を現すことができるように頑張ります。

打太刀は常に攻め、受ける太刀は全て切る太刀、突く太刀となる実践的剣法である。必ず勝つという強い精神力と相手の力を利用し、最後に勝ちを納める高尚な技が表れている左右転化出身の秘太刀をご披露申し上げます。

由来

一刀流は伊藤一刀齋景久を始祖とする。景久は小野次郎右衛門忠明に伝え、忠明は小野派と称した。忠明は溝口新五左衛門正則に伝えた。これを溝口派といった。皆一刀流の流れである。正則はこれを伊藤政盛に伝えた。政盛はかつて、会津に來て枝松公忠に伝えようとしたのであるが半ばにして会津を去っていった。公忠は、池上文左衛門安通に伝授した。しかしその奥義を尽くすことは出来なかったのである。その後、安通は藩公の命によって、江戸に出て、水島玄益について学んだのであるが、溝口派の真伝ではなかった。そこで安通は研究すること多年にわたり、大いに発明するところがあった。一応、溝口派と称しているが、他の溝口派とは大いに異なる点が多かったという。故に会津藩は池上安通をもってその始祖としている。当時溝口派の稽古は、秘して他見を許さなかったが戦後、全日本東西対抗剣道大会で故和田晋と故好川忠が初めて一般に公開したのである。

系譜

伊藤一刀齋景久—小野忠明—溝口正則—伊藤政盛—枝松公忠—池上安通（安道）—池上安廉—町野重勝—町野重祥—町野秀虎—町

流儀の特徴

溝口派一刀流左右転化出身の秘太刀五本、小太刀三本の形からなっている。この組太刀は打太刀が仕太刀に勝つ剣法となっており、左右の動きに重点が置かれ、終始攻めて勝つ技は他に見られない大きな特色がある。しかも五本といってもそれぞれ表と裏があり十本の形からできている。また、打太刀は常に先々とする身となり、退くことを知らず、受ける太刀は皆切る太刀、突く太刀となりすべてが実践的剣法で袈裟斬り逆袈裟斬りに変化する。

演武者

打太刀 流派代表 長沼 悟詮
仕太刀 星 充

演武内容

土勢 相下段で間を詰め、打太刀が突き、仕太刀が薙し突き返すところを打太刀が左（右）に転身して袈裟に斬る。

火勢 打太刀は左上段、仕太刀は平晴眼で互いに進み、打太刀が真向に切り下ろすところを仕太刀は抜いて真正面を斬るが、打太刀はこれを下より転身して刃をええして双手を薙ぐ、その後袈裟に斬る。

木勢 打太刀は八相、仕太刀は平晴眼で間を詰め寄り、打太刀が真面に斬り下ろすところを、転身しつつ踏み込み突いて袈裟に斬る。

金勢 打太刀は脇構え、仕太刀は中段で打ち間まで進み、さらに打太刀は攻め込み、仕太刀は苦しさの余り真向より斬りかかるところを転身して打太刀が胴に斬り止めの袈裟斬り。

水勢 互いに中段で勢いよく間を詰め、真向より斬り合う。双方退いて間合いをとる。繰り返し行い鏢競

活動状況

若松城（鶴ヶ城）内にある武徳殿を道場として、毎週水曜日に、長沼悟詮流派代表により指導を受けている。二十歳代から六十歳代と年齢層は厚いが、この流派の特色でもある左右の動きが激しいため、技を会得することは困難であり、永い年月と努力が必要である。形の稽古希望は誰彼問わず行うことができる。県外からも問い合わせが多く稽古に来る人がいる。

稽古場及び支部

○会津武徳殿道場 毎週木曜日（午後7時～9時まで）



てんねんりしんりゅうけんじゅつ 天然理心流剣術



十代宗家
平井正人

〒181-0011
東京都三鷹市井口1-17-31
☎(0422) 31-1725

抱負

第45回日本古武道演武大会の開催を祝し、心よりお喜び申し上げます。

関係各位の並々なぬご尽力に敬意を表します。また、出場要請をいただき誠にありがとうございます。

第2回大阪大会参加以来、この大会が日頃の稽古の励みであり、目標です。他流派の先生方の気魄に満ちた演武を間近で拝見し、肌で感じられることも有意義であります。

永年修練してきた技を演じることが古武道振興の一助になればと念じて演武させていただきます。

由来

当流は、遠江出身の近藤内蔵助長裕こんどうくらのすけながちかが諸国を漫遊して修行し、常陸にいたって鹿島新當流を学び、鹿島神宮に参籠し、術の極意を授かり、また、その上に創意工夫をこらし、創始されました。その後、江戸葉研堀に道場を開き、そのかたわら、相模国や武蔵国に出稽古に赴き流儀を広めた。とくに三多摩地域に広まって、多くの先達、門人を輩出しています。

系譜

近藤内蔵之助―近藤三助さんすけ―近藤周助しゅうすけ―近藤勇いさむ―近藤勇五郎ゆうごろう―桜井金八―近藤新吉―加藤伊助―平井泰輔―平井正人

流儀の特徴

当流は、剣術、柔術、棒術に気合術を加えた統合武術です。常に真剣勝負を想定した捨て身の剣術体系で、いかなる相手に対しても動じない、極意必勝の実践を教え、自然に逆らわず、天に象どり、地に法り、以って剣の理法を究める事から、天然理心流と命名されています。

太い木刀を使い根こん（魂）と力の尽きるまで切り結び、最後に止めをさす。気をもって相手の心を奪い、すかさず技をほどこす、実戦向きで朴訥な剣法です。

演武者

平井 正人 常田 貞行 小林 恵子 松本 賢司
須田 英宏 平本 輝彦 大泉 雄都

演武内容

切紙 表木刀、柄杓、鐙捌、奏者
目録 小具足
中極位目録 居合、立合

活動状況

古武道演武大会参加のほか、郷土ゆかりの地にて演武、交流会等多数。

稽古場及び支部

本部

天然理心流本部事務所 三鷹道場

〒181-0011 東京都三鷹市井口1-17-31

☎・FAX (0422) 31-1725

毎週金曜日 午後5時～7時

日曜日 午前10時～午後1時

支部

八王子道場（読売カルチャーセンター内）

毎週土曜日 午後1時45分～3時45分

横浜道場（読売カルチャーセンター内）

毎週土曜日 午前10時15分～午前11時45分



しぶかわい ちりゅうじゅうじゅつ 澁川一流柔術

抱負

広島は澁川一流柔術です。

澁川一流柔術は基本となる形のグループである「履形」を習得後に、異なる状況ごとにその形を応用させ稽古する体系となっています。

本日は基本となる「履形」から四つの形を選び「込入」「吉掛」「四留」「拳匪」「打込」「御膳捕打込」といった異なる状況の中での「履形」の形の応用を演武いたします。

由来

澁川一流柔術の流祖・首藤藏之進満時は、彼の叔父で宇和島藩浪人と伝えられる宮崎儀右衛門満義に連れられて広島藩安芸郡坂村に居住した。藏之進は宮崎儀右衛門を師として澁川流および難波一甫流を習得し、さらに武者修行の途上、浅山一伝流をも習得して、三流をもとに「澁川一流柔術」を創始した。

ある日、広島城下に出でいた首藤藏之進は5、6名の広島藩士と争いになったが、澁川一流柔術の業でこれを難なく退けたところ、たまたま居合わせた松山藩士がこの見事な働きを見て、その藩士の推挙によって松山藩に仕えることになったと伝えられている。これは天保10年ころのことと伝えられているが、この後、首藤藏之進は小玉平六と名乗り、松山においても澁川一流柔術の教授を行ったが松山での伝承は途絶えた。

明治維新以降は親族のいる広島県安芸郡坂村にたびたび帰り、広島藩の門弟にも澁川一流柔術を伝え残し、明治30年、89歳で松山において没している。

師伝によれば、澁川一流の流名は首藤藏之進が修行した三つの流派の流名に由来し、合わせると澁川一甫一伝流となり、この意から「澁川一流」と命名されたと伝えられている。

系譜

首藤藏之進満時―宮田友吉國嗣―車地國松政嗣―畝重實嗣昭―森本邦生嗣時

流儀の特徴

澁川一流柔術の形は徒手に対して徒手や懐剣、三尺棒、刀などの仕掛けに応じる術と、棒術（互棒・小棒・三尺棒・半棒・六尺棒）、十手術、分童術、鎖鎌術、居合術などの得物を用いる術から成り立っている。

形は400ほどあるが、その特徴はすべての形に飾り気がなく、素朴で単純な動きで相手を制するところにある。

形は受の仕掛けの方法によってグループ分けされており、初めに稽古する履形（受が中段または下段を突いてくるのを制する形）の35本の形が全ての形の基本となっている。

それぞれの形のグループの多くには「礼式」があり、その中に受を制することなく、押し返すのみの動作がある。これは澁川一流柔術の理念が人と争わないことにあるということを表している。形の稽古のほかに鍛錬法として棒抜けや枕引きなども伝えられている。

演武者

代表・免許皆傳上極意 森本 邦生

初傳 林 大介

初傳 堂元 慎介

初傳 鈴木 享昇

初傳 松田 淳至

演武内容

「履形」礼式・裏投・巻返・返投・捻付

「込入」裏投・巻返

「吉掛」裏投・巻返



代表
森本 邦生

〒738-0034
広島県廿日市市宮内1480
☎(080)1908-0206

活動状況

出雲大社奉納演武
広島護国神社奉納演武
廿日市天満宮奉納演武

稽古場及び支部

○本部（広島県）
廿日市市スポーツセンター
1武道場

廿日市市立七尾中学校柔剣道場

澁川一流柔術・無雙神傳英信流抜刀兵法
大石神影流剣術

○世田谷支部（東京都）

○横浜支部（神奈川県）

○名古屋西支部（愛知県）

○北大阪支部（大阪府）

○呉中央支部（広島県）

○久留米支部（福岡県）

○オーストラリア パース支部

○米国 エルパソ支部

○トリニダード・トバゴ支部

ホームページ <http://kanoukan.jindofree.com>



田宮流居合術



代表
妻木 達夫

〒2550-0853
神奈川県小田原市堀之内103-1
☎(0465) 37-8601

抱負

日本武道館は武道を志すものの聖地ともいべき施設であり、ここで演武できることはたいへん名誉なことであります。普段の稽古の集大成として真剣勝負でのぞむ決意であります。

田宮流居合術は、伊予西条藩において田宮神剣流として大成した武術であります。先代妻木正麟が当家に伝わった居合術を心血を注いで研鑽し、継承してまいりました。我々はこの田宮流の術技を後世に伝えていくべく、努めております。

この大会に参加することも流派継承の一環ととらえ、大会に向け、修行をしていく所存であります。

由来

田宮流は約400年前、田宮平兵衛業正を流祖として伝わった徳川紀州藩の武芸である。田宮流には古田宮、紀州田宮、新田宮の3派があったが、古田宮は5代目で絶え、紀州田宮流となった。「紀州田宮流は田宮大人の正伝となす」という伝書がある。

この紀州田宮流が、伊予西条藩に伝わり、田宮神剣流となり大成した。伊予西条藩は紀州家の分家であり、紀州大納言頼宣の次男頼純が藩主として寛文10年2月に入部以来、紀州田宮流は西条で発達した。妻木家中興の祖、妻木只右衛門元敬は紀州藩で「不識院軍学（軍法）指南」であったが、藩主入部の際、付け人として西条に移住し、その子妻木順次郎元貴が寛政9年8月、この紀州田宮流を宗家として継承し、代々妻木家に伝承、第14代妻木正麟を経て、妻木達夫を流派代表として今日に至る。

系譜

田宮平兵衛業正（流祖）—田宮対馬守長勝（二代）—江田儀左衛門—三宅集意（四代）—栗本半蔵—三野伴五郎高満（五代）—豊田仲左衛門—豊田近左衛門—妻木順次郎元貴—妻木信平元—妻木平之丞元茂—妻木恰元成—妻木興太郎元厚—妻木義雄元誠—妻木正麟元信—妻木達夫（当代）

流儀の特徴

「表の巻」十一本、「虎乱の巻」十四本からなり、形を基本として統一された刀術である。すなわち形学びは、鞘口の切り方、鞘手の働き、柄手のかけ方、手はば、手の内の締め緩め、切り手、請け手、ぬけ手、運剣の法、足はば、左足のはたらき、打ち方、突き方、外し方、止め方などそれぞれ理合を明らかにし、進退動静、微に入り細をうがち、その技は理法に透徹、事理合一を習いとする。「美の田宮」「位の田宮」と称えられた。

演武者

代表 妻木 達夫

（門下生） 小野 信義・石川 定・清水 新也

吉池 映治・高橋 学・三宅 文正

演武内容

稲妻 我と対坐の敵が立ち上がって右斜め前方より上段から斬らんとするので、すばやく立ち上がりながら敵の肘に抜きつけ、さらに真つ向から斬り下ろして勝つ。

押抜 我の左に座している敵が抜こうとしている気配を察したので、すかさずその手を柄で打ち、敵がひるんで後退するところを右脇腹に抜きつける。さらに敵が私の足に抜きつけてきたので、私は飛び違いでかわしつつ水月を突いて勝つ。

除身 対坐の敵が突然立ち上がりつつ抜き打ちに来るのをただちに受け流して、敵の右側頭部に斬りつける。

敵がこの一撃にひるんで後退するや、追いつめて水月を突き、倒れたところを真つ向から斬り下ろして勝つ。

胸の刀 対座した敵が、突然右手で私の胸倉をつかみ押し倒そうとするので、すばやく太刀を抜き上げながら、敵の右腕を切り、つづいて左腕に抜きつけ、さらに倒れたところを真つ向（体のどこでもよい）から斬り下ろして勝つ。

柄外 対座している敵が突然私の差している太刀の柄をつかん

で奪い取ろうとするので、我はすばやく柄頭を握って奪い取ろうとする方向に突き出したのち、敵を右脇に引きずり、さらに逆をとって倒す。そして倒れた敵の顔面に抜きつけたあと、胴に斬り下ろして勝つ。

突留 対座している敵が、突然太刀を抜いて突こうとするので、我はすばやく柄で敵の太刀を押さえたあと、敵の足（腹）に抜きつけ、さらに真つ向から斬り下ろして勝つ。

稽古場及び支部

神奈川県小田原市堀之内103-1 田宮流正麟館

☎(0465) 37-8601

毎週月・金曜日 午後7時～9時

毎週土曜日 午後2時～6時

○支部

横浜元山会、川崎木曜塾、秦野支部、東京浅草支部、東京武蔵野支部、愛媛県西条支部、横須賀神明会

文化財指定

愛媛県西条市長を名誉顧問として「旧西条藩田宮流居合術保存会」が昭和62年9月5日発会、昭和63年9月5日付告示第一号により「西条市無形文化財」に指定された。



じげんりゅうひょうほうけんじゅつ 示現流兵法剣術



第十三代宗家
東郷 重賢

〒892-0842
鹿児島県鹿児島市東千石町2-2
☎(099) 226-1233

抱負

江戸時代初めから薩摩武士の魂としてこの地で受け継がれてきた示現流兵法。記念すべき第45回日本古武道演武大会への参加が叶い喜んでおります。この2年厳しい環境の中門人たちと伝統文化の継承にチャレンジして参りました。多くの方々のご支援で門外不出とされてきた薩摩藩御留流示現流兵法第13代宗家を継承して早や8年となりました。これからも日本の誇る武道文化継承の大切さを噛みしめながら400年余にわたり一子相伝で伝承して参りました流儀名に恥じぬよう門人一同精一杯の演武につとめさせていただきます。

由来

示現流兵法は、東郷藤兵衛肥前守重位を流祖とする薩摩藩独特の兵法で、今日においても鹿児島県の精神文化に強い影響を与えている。重位は、はじめタイ捨流を学び、20数歳でその極意に達した。天正15年(1587)、第16代太守島津義久公に従って上洛した際、天真正自顕流の奥義を極めた京都天寧寺の善吉和尚と邂逅し、強いて教えを乞い、修行すること半年余、奥義の相伝を受けた時が28歳であった。天正17年、薩摩に帰った重位は、屋敷内全部の木を打ち枯らすほど心技を練ること3年、タイ捨流と天真正自顕流の精髓を総合渾和して示現流兵法を編み出した。

重位44歳のとき、初代薩摩藩主・第18代太守家久公より薩摩藩剣術師範役を命ぜられ、「示現流」と命名された。さらに10代藩主・第27代太守斉興公は「御流儀示現流」と称するように命ぜられ、門外不出とされた。

以来400余年、時世に迎合せず、当初そのままの姿で一子相伝され、現在第13代宗家東郷重賢に伝承されている。

系譜

流祖 東郷藤兵衛肥前守重位―重方―重利―実満―実昉―実乙―実位―実明―重矯―重毅―重政―重徳―重賢

流儀の特徴

蜻蛉と呼ばれる独特の構えから激しい気合とともに打ち下ろされる示現流の太刀筋は、「一の太刀を疑わず、二の太刀は負け」の教え通り、一旦刀を抜いたら攻撃こそ最大の防御とする、最初の一太刀にすべてをかける厳しさを伝えている。普段の稽古では、ユスと呼ばれる硬い木を切ったものを木刀として用い、防具は一切着けない。

また、立木と呼ばれる身の丈ほどの椎の木などを地中に立て、実戦を想定して左右から激しい気合とともに、打ち込みの稽古が続ける。古人は朝に三千、夕に八千という激しい稽古を続けたと伝わっている。

演武者

デュルソ・アンリ、高橋 幸司、藤村 亨、東郷 重賢

演武内容

燕 飛 示現流の奥義十二の打を織り込んだ最初に習う基本の型。仕太刀(ツケ)が示現流の極意十二の打からなる技法で構成され、打太刀(ダシ)はタイ捨流の技に由来する。

小太刀 脇差などの短い刀で相手に立ち向かう初度の型
再起・三太刀 多人数の敵を相手に戦う時を想定した初度の型
持掛 ここから両度の型で、示現流の極意一打ちの技
長木刀 薙刀、槍などの長い武器に対する一打ちの技
段の型より 初段(立・双・越)、二段(寸・満・煎)

段の技からは無声(声を出さずに)の打となる。相手の一瞬の動きに呼応してすかさず切り込んでいくもの

活動状況

○稽古日

毎週土曜日午後6時〜9時

示現流兵法所史料館の開館時間(火曜・日曜の午前10時〜午後5時)内の一人稽古は自由

○年間事業

毎年4月20日大阪住吉大社で開催の島津家初代忠久公誕生記念祭や5月25日開催の薩摩義士頌徳慰霊祭などの各種記念式典での奉納演武、7月開催の鹿児島県古武道大会、鹿児島神宮や京都下鴨神社など全国各地で開催の日本古武道演武大会などへの参加、夏休みなどにおける示現流体験教室の開催など。

稽古場及び支部

○示現流兵法所

〒892-0842 鹿児島県鹿児島市東千石町2-2
示現流兵法所史料館内

☎・FAX (099) 226-1233

メール info@jigen-ryu.com

ホームページ http://www.jigen-ryu.com/



せきぐちしんしんりゅうじゅうじゅう

関口新心流柔術

第十三代宗家

関口 芳夫

〒640-8413
和歌山県和歌山市島橋東ノ丁1-20
☎(073) 455-7021



抱負

当流は開祖関口柔心氏心が紀州藩祖徳川頼宣公より藩の御流儀指南を仰せつかつて以来400有余年、和歌山の地で関口家により相伝されてきました。明治維新や大東亜戦争など、伝承の危機においても宗家のもと門弟一丸となって流儀護持に努め、平成22年3月16日には和歌山県無形文化財に指定されました。本大会出場を機に一層の修練に励み、江戸時代より伝承された武術文化の心と技を多くの方々に知って頂けるよう努めて参ります。

由来

流祖関口弥六右衛門氏心は慶長3年(1598)、今川義元の一旗関口外記氏幸の子として生まれる。氏心は幼少より武芸、組討の術に秀で、今川氏滅亡後、諸国を武者修行。独自の研究により捕手、組討技術を解明した。「柔らかな力の使い方」を原理に物に応じて逆らわない心と体のあり方を説き、柔による技術を体系化、武芸向上は日々新たな心により生まれるとして関口新心流と称えた。



氏心は晩年柔心と号する。柔心には三男(氏業、氏英、氏曉)があり、共に父に劣らず秀技で、その中でも3代氏英は「柔聖」とまでいわれ、その子孫は代々紀州藩御流儀指南として江戸時代三大柔術流派の一派となった。8代氏敬は紀州藩大御番に出仕するとともに、『柔口伝心持』などの伝書を著し、当流の理合探究に努めた。10代氏胤は長州征伐に参加するなど幕末維新の激動期を生き抜き、波乱の中、当流を守り伝えた。のち、大日本武徳会にも参加し、明治39年(1906)には大日本武徳会柔術形選定委員に任命された(大日本武徳会範士)。11代万平は和歌山に関口新心流道場「親武館」を開設し、多数の子弟を養成した。12代芳太郎、13代芳夫が道統を受け継ぎ、現在に至る。

系譜

関口弥六右衛門氏心(一六代) 八郎左衛門氏業(三六代) 万右衛門氏英(四六代) 弥太郎氏(五六代) 万右衛門氏一(外記氏元) 万平氏記(六六代) 万右衛門氏敬(七六代) 万之丞氏賢(八六代) 柔心氏胤(九六代) 万平氏柔(一〇六代) 芳太郎氏中(一一六代) 芳夫氏広(一二六代)

流儀の特徴

関口新心流は柔術・居合術・剣術の三つを根幹とし、特に「柔らかな力の使い方」を原理に着目して、これを組討技術に生かし、自ら「柔」と称している流派である。

柔とは、敵の力をわれにして

ふりし柳の心なりけり

故に柔術一本目楊柳を当流の本体とする。

各種の武器で戦っても最後は組討となるので、武士は組討を重視すべきであるとし、組討における力の用法は「楊柳」が示す「柔の理」が最もよいとする。

演武者

宗家 関口 芳夫 免許 山中 聡
免許 関口正太郎
裏 北口 隆

演武内容

柔術の部

「手続・八本」「撓合・八本」「四つの捕・四木」「固・七本」「立合・六本」「組合・十本」「自己の誤・七本」「車捕・十六本」「小具足・二十本」

○手続

楊柳、肘金

○撓合

奏者取 突込、飛違

○立合

前後の投(前)

○組合

四ツ手(一)、(三)

○自己ノ誤

外足

○小具足

押突、踏違、返り取、突脇差挟取

稽古場及び支部

○新心館本部道場

〒640-8413 和歌山県和歌山市島橋東ノ丁1-20

○新心館兵庫県支部道場(兵庫県西宮市)

新心館東京支部道場(東京都杉並区)

文化財指定

平成22年3月16日

和歌山県無形文化財指定



ちくぶじまりゅうぼうじゅつ 竹生島流棒術



第十八代宗家
松浦 寛澄

〒856-0807
長崎県大村市宮小路3-1937-2
☎(0957) 55-1686

抱負

第45回日本古武道大会に参加させていただくことを大変光栄に存じます。竹生島流棒術の起源は八百数十年前の源平合戦であります。現代まで絶えることなく伝承されてきた先師の苦勞と努力は並大抵ではなかったと思います。門弟も日本武道館で演武することを一つの目標として稽古しておりますので、日頃の練磨した技を発揮できますように頑張りたいと思っております。

由来

竹生島流棒術の流祖は難波平治光閑で、琵琶湖の竹生島弁財天を信仰し、長刀一流を夢想奉得した。今から800余年前（寿永3年頃）の源平合戦に出て、その長刀で働きを極めたが、戦いの最中に長刀の込本から折れ、柄ばかりになりながらも、その残った柄を長刀の手で使い、大勢を討ち取ったという。それから棒を編み



出した。これはひとえに弁財天の冥恩であるとして、竹生島流棒術と名付けられた。棒の前身である長刀は難波流といい、流祖難波平治光閑は摂津の人で2代宗家も摂津、3代目からは出羽庄内（山形県）に伝わり、現在の宗家に継承されている。なお、17代の時から長崎県に移転している。

系譜

難波平治光閑―竹内文左衛門―佐藤里右衛門―佐藤七兵衛―梶原久三郎―大戸亦助―井上祐平―村上文六―上野和吉―大屋喜八―大屋作右衛門―関弥次兵衛長明―岩瀬一心斎重周―松浦政次郎好易―松浦良夫易信―松浦寛澄

流儀の特徴

800余年の古い形そのまま敏速と手数少ない極致の技で急所をつき、敵を倒さなければならない。そのためには心と気合いと技が冴え、合体して棒を真剣以上に強いものに到達できるよう修練せねばならない。そして、一本一本の極致を得て臨機応変、相手の出方に対処できる修行を要する。

演武者

宗家 松浦 寛澄 免状 松浦 利英
免状 橋口 英雄
書物 ミヒヤエル・ラインハート

演武内容

表の形六本
これは基本の形である。基本技には滝流し、つつ立て、五輪砕き、臍砕き、ししこうらなど組み合わせる。この基本の形が完全にできなければ、

裏の形に入ることはできない。

裏の形六本

これは表の形から変化して手数の少ない極致の技で敵の急所を素早く攻める技で、実践の技である。形即真剣である。

散の形

これは棒が座っているところに太刀が切りかかり、これに対する棒の技である。

提げ

太刀が正面から切りかかるのを素早く太刀のつばを押さえ、急に反対から平に払って、棒を大きく振り、敵を攻め、身を縮めてすきをみせ、敵を誘い下から上から打ち、最期に臍を払う。

活動状況

本部道場では毎週土曜日午後6時から稽古を行い、老若男女が修練を続け、地元のほか、福岡市からも休むことなく通い続けている。地方では神社仏閣への奉納演武、日本武道館での演武を目標にし、技の稽古のみにとどまらず、免状内の解説や内容の研究、古文書の解説、真髓、探求の勉強会も行っている。

稽古場及び支部

○本部道場

〒856-0807 長崎県大村市宮小路1 昊天会館
毎週土曜日 午後6時

○山形県鶴岡支部

毎週金曜日 午後7時

○東京支部

土曜日 午前9時

○連絡先

〒856-0807 長崎県宮小路3-1937-2
☎(0957) 55-1686

兵法二天一流剣術



第十二代宗家
加治屋孝則

〒803-0824
福岡県北九州市小倉北区板櫃町20-2 102
☎(070) 5454-5593

抱負

武道によって心身を鍛えることは、とりわけ困難な時代を生きる者にとって重要かつ意義のあることだと考えます。武蔵先生の云われる『千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす』の精神で養った技をご披露させていただく所存です。

由来

流祖は宮本武蔵藤原玄信である。幼少より剣に志し、その鍛錬は生死を超えたものであった。60余度の勝負にも一度も敗北しなかった。30にして己の剣を振り返り、「わが兵法至極にして勝にあらざ」と自覚し、大いなる世界に立った。なおも深き道理を得んと朝鍛夕錬し、50にして実相円満の兵法二天一流を創始。実相円満とは六道輪廻のこの世界そのままをありがたく戴く空する兵法だというのである。兵法を得道して忽ち巖の如くなりて万物うごかざる所がその心である。武蔵の著『五輪書』『独行道』『三十五ヶ条』は今も世界中で愛読され、百世の指針とされている。刀法に太刀勢法、小太刀勢法、二刀勢法などが伝承されている。

系譜

宮本武蔵藤原玄信—寺尾求馬助信行—寺尾郷右衛門勝行—吉田如雪正広—山東彦左衛門清秀—山東半兵衛清明—山東新十郎清武—青木規矩男久勝—清長忠直政実—今井正之信勝—岩見利男玄勝—加治屋孝則香玄

流儀の特徴

当流においては兵法は心の修行にあると説き、心ができなければならぬ、心のもとだと説いている。また兵法は利方即ち悟りをひらく方便だともいっている。心ができなければ勝負には勝てないというのである。刀法の特徴は相手の剣を知って剣を見ず、即ち相手の剣がまだ動かない前を打って勝つ機前の太刀である。

演武者

一 刀太刀勢法

打太刀 宗家 加治屋孝則 仕太刀 免許 月森 慎悟

二 刀太刀勢法

打太刀 免許 月森 慎悟 仕太刀 宗家 加治屋孝則

演武内容

小太刀勢法

一、指 先 右片手下段の構より進み、打太刀の面に来るを見切つて右にかわし、そのまま喉を刺す。

二、中 断 小太刀を右手肩の高さ、刀先を敵の顔面につける中断の構で進み、打太刀の面に来るを小太刀を太刀の下からくぐらせながら左にかわし、小太刀を頭上にかぶり小手を切る。相手の右腕をとり水月を刺す。

三、受 流 下段の構より進み、足をやや斜前に踏み出し、面に来るを左に受け流し、左手で打太刀の刀の柄をとりながら同時に左首すじを切り、さらに水月を刺す。

四、文字 構 小太刀を斜右に構え、小太刀で面を防ぐ小手を防ぐ。右足前の文字構より打太刀間に入り、面に来るを左に受け払う。打太刀払われ右胴に打ち込む体を右に開いて小太刀で受け、相手の右腕を押さえて手許に入り喉を刺す。

五、張 付 小太刀右片手下段の構より進み、三步目の足を出すと同時に小太刀で敵の太刀を相手の右腕をとりながら右に張り落とし、水月を刺す。

六、流 打 下段の構より進み、足を右前に踏み出し体を右にかわし受け流し、首を袈裟に切り返す。打太刀に受け止められる体を退いて下段となるを、打太刀又面に打ち込んで来るを、左側に踏み込み体を左にかわしながら右に受け流し、左足を踏み出し相手の右腕を取り首を右袈裟に引き切り、小太刀を腰にとり体を進めて水月を刺す。

七、合 先 横刀の構より進み、右足の三步目を出すと同時によ

り早く相手の打ち込む太刀を見切つて左に払いながら刺し、刺しながら払い敵の喉を刺す。

五法勢法（二刀勢法）

おもて次第 第一の事 中段に構え相手の打ちくずしに来る太刀を外し、さらに面に来る腕を下から張る。

おもて次第 第二の事 上段に構え相手の打つて来る太刀を打ち押さえ、さらに面に来るのを十字に受けて切り落として切る。

おもて次第 第三の事 下段に構え相手の攻撃を下から張り、相手がさらに面に切つて来るのを小太刀で押さえ、二の腕を切る。

おもて次第 第四の事 左脇構に構え相手の打ちかけて来る太刀を太刀で下より相手の手を張り、さらに打つのをさらに張る心でそのまま我が肩の上にすじかに切り上げ、左袈裟に切り下げる。

おもて次第 第五の事 右脇横に構え敵打ちが来るを我太刀で突き、さらに打ち来る我が太刀をすじかに上げ、直ちに切る。

活動状況

令和元年

8月17～21日 二天一流ヨーロッパセミナー（ドイツ）

8月18日 厳島神社奉納演武（広島 厳島神社）

10月6日 鹿島神宮奉納演武（茨城 鹿島神宮）

10月25日～27日 二天一流カナダセミナー（カナダ）

稽古場及び支部

北九州市 小倉北区

・三郎丸市民センター

毎週月曜 19時～21時

・富野市民センター

毎週木曜 19時～21時



ね ぎ し り ゆ う し ゅ り け ん じ ゅ つ 根岸流手裏剣術



第七代宗家
早坂 義文

〒301-0005
茨城県龍ヶ崎市川原代町4073-2
☎(0297) 85-3477

抱負

前宗家齋藤聰先生が逝去され9年の月日が流れ、江戸期の手裏剣の討法が現代のピッチング投法とは違うことを齋藤先生の写真で示し、その文化の違いを明確にしたい。

特に討法にあつては、独特の直打法があり、敵を仕留めるため、討つと云う言葉を使っている。源流である願立流を初め、齋藤先生が保存に当たった手裏剣術関連の武術を後世に伝えるため努力していく覚悟である。

由来

開流根岸流手裏剣術は江戸末期、上州小天狗といわれた剣術の名人、安中藩荒木流剣術四代師範根岸松齡が、水戸藩北辰一刀流剣術師範海保帆平より願立流手裏剣術（流祖松林堀也斎）の伝を受け、これに新工夫を加えたため、以後根岸流と称せられるようになった。根岸流の源流となった願立流剣術（香取真魂流飛刀術）は、仙台藩をはじめ東北諸藩に伝わったが、仙台藩は代々上遠野家（今埜家）に伝承され、明和・安永の頃に上遠野伊豆広秀という手裏剣術の名人を出した。上遠野伊豆の手裏剣話については、只野綾女が文化14年に書いた『奥州波奈志』に載っているが、この手裏剣術が仙台藩主伊達慶邦興夫人孝子およびその父水戸烈公の手を経て海保帆平に伝わった。このときまでの願立流の手裏剣は頭髪の左右に4本ずつ刺せるほど細く小型軽量のものであった。しかし、根岸松齡が、これを太く重く改良したものである。

系譜

〔元祖〕松林堀也斎：上遠野伊豆―海保帆平―根岸松齡
〔流祖〕根岸松齡（安中藩士）―利根川孫六（館林藩士）

―成瀬関次：齋藤聰：早坂義文

流儀の特徴

手裏剣術の打法には直打法、反転打法および回転打法の三方法がある。直打法は手裏剣の鋒先を前方に向け、回転させずに打つものであり、反転打法は手裏剣の鋒先を手前にし、一八〇度反転させて打つ技法である。また、回転打法は車剣形の手裏剣を打つ技法である。根岸流は直打法である。

演武者

七代宗家 早坂 義文
目録 池永 泰雄
バーバー 出人

仕方

手裏剣術打法の基本形で卍字、刀字、直指の形がある。それぞれ三拍子、二拍子、一拍子で打つ形である。卍字の形は手裏剣術に即した體を作るためのものであり、刀字、直指の形は次の仕掛方につながるものである。

仕掛方

フリースタイルの戦闘形であり、応用動作である。その中でも機を見て動きながら打ち、あるいは早打ちする動作それぞれ烏舞、陰陽争という。

座打ちの心構え

他流儀の事 上遠野流打針温故知新流（円明流）

活動状況

1月 各種武道始め参加
2月 日本古武道演武大会参加
3月 板橋区赤塚公園梅祭り古武道演武会
4～5月 各地区の古武道大会参加
7～10月 各種講習会参加
11月 龍ヶ崎市アグリフェスタ演武参加

稽古場及び支部

○本部道場

〒301-0005 茨城県龍ヶ崎市川原代町4073-2

○支部

・鎌倉支部（バーバー出人）
・九州支部（池永泰雄）
・沖縄支部（譜久原朝彰）



きらくりゅうじゅつ 氣樂流柔術

抱負

第1回より参加させていただき、第45回日本古武道演武大会に出場でき大変光栄なものと存じます。

生死をかけた戦いから、長い歴史の中で各時代に合わせて今日まで引き継がれてきたことを考え、社会正義に活かすことが武道であると、心身錬磨に努め、門人を指導しています。

由来

「戸田流」「氣樂流」「無敵流」の三流相伝となっているが、この三流を総称して氣樂流と呼んでいる。戸田流は、戦国時代の末期、前田利家の家臣、戸田越後守を祖としている。戸田は富田とも称し、江州佐々家の支族で、越前に移住し数代を経て朝倉家に仕え、



第十九代宗家
飯寫 文夫

〒379-2106
群馬県前橋市荒子町1170
(027) 268-2760

演武者

宗家 飯寫 文夫
門人 川島 輝之
門人 反町 明大
門人 大塚良太郎
門人 船田 清

演武内容

棒術

- (1) 初本目
- (2) 二本目
- (3) 三本目

柔術

- (1) 通違
- (2) 撫
- (3) 雷

稽古場及び支部

○尚武館本部道場

〒379-2106

群馬県前橋市荒子町1170

☎(027) 268-2760

毎週月曜日 午後8時半〜10時

○伊勢崎支部道場

毎週木曜日 午後8時半〜10時

流儀の特徴

臨機応変 有心無心
戦国時代から続く総合武術であり、臨機の闘法が考案されている。

《道歌》

太刀影か それかあらぬや 夕暮の
雲洩れ来たる 月影の空
勝負とは たたざる先の 勝負にて
うつつは打たざる 切るは切らざる

戸田内記
戸田隼人
斎藤次大夫―中根角兵衛
渡辺左右衛門―金沢新五兵衛
渡辺兵右衛門
渡辺林内
絹川久右衛門―蛭川菊右衛門―飯塚
臥竜斎―児島善兵衛―五十嵐金弥―斎藤武八郎―長沼綱吉―新井
平馬―新井数馬―新井道次郎―飯寫文夫



柳生新陰流兵法剣術



第二十二世宗家
柳生耕一厳信

〒463-0015
愛知県名古屋市守山区西島町10-1
柳生会
☎(052) 792-7116

抱負

武術は命をかけた戦いの中から発生し、やがて江戸時代を通じて修身の道へと昇華された武道となり、この国の長い歴史の中で育まれた文化の結晶となりました。

我々は、心身一如で行う古武道の稽古鍛錬を通して、日本の伝統文化の精神を学び、古人の英知を現代社会に活かしていく責務があります。

本大会の参加が、我々の日々の修行の一層の精進に資するものと期待しています。

由来

室町末期、上泉伊勢守信綱は愛洲陰流より「転」（まろばし）を工夫して新陰流を創始した。信綱に師事した柳生石舟斎宗厳は「無刀の位」を開悟して第二世を継いだ。宗厳の長男厳勝の子、兵庫助利厳は祖父石舟斎の薫陶を受け、異才が開花し第三世を継承した。元和元年に尾張藩主徳川義直の兵法師範となり、太平の時代に即応する「直立たる身」―自然体―の兵法を確立し、上泉流祖以来の剣の理と刀法に根本的な改革を加え、当流を大成した。利厳の子、連也厳包も天才的な達人で「尾張の麒麟児」と尊ばれ、



系譜

上泉信綱―柳生宗厳―柳生利厳

道統は尾張柳生家代々の師範と尾張藩主徳川家の協力によって正しく伝承されて、第二十二世宗家柳生耕一厳信に至っている。

流儀の特徴

心身ともに「無形の位」を本体とし、千変万化する相手を明らかに観て、その働きの従って無理なく転変して勝つ自在の刀法、則ち活人剣である。太刀を全身の働きによりのびのびと遣い、刀身一如、臨機応変、自由活発に働く神妙剣を目指している。流祖以来の剣理と刀法が正しく体系的に完備している。

演武者

星川 宣慎 柳生耕一厳信
鈴木 泰充 柴田 幸芳
竹内 孝幸 洲上 俊顕

演武内容

上泉信綱創案の当流の代表的な太刀の一つである。「一刀両段」「斬釘截鉄」「半開半回」「右旋左転」「長短一味」の五本から成り、「待」の剣理を具現したものである。

試合勢法

尾張柳生独特の刀法で、徳川中期に作られ、基本的なものから実践的なものまで多種多様にして、二百本余りある。

燕飛之太刀

上泉信綱が愛洲陰流の「猿廻」より発展させ「燕飛」「猿廻」「山陰」「月影」「浦波」「浮舟」の六本の太刀として完成した。これを序・破・急の調子により連続して遣う。懸・待・表・裏の刀法が円転滑脱、流れる如く自在に展開する。

活動状況

6月第2日曜日にかけ1泊2日の全体合宿を行う。
口伝書などの解説を行う講道を含み、宗家直伝の稽古形態をとる。

稽古場及び支部

名古屋柳生会

・名古屋市天白スポーツセンター他
毎週火曜日・木曜日 午後7時〜9時
・名古屋市露橋スポーツセンター他
週末月2回 午後3時〜6時

東京柳生会

キリンレモンスポーツセンター 火曜日 午後6時半〜9時
中野産業振興センター他 日曜日 午後2時〜5時

関西柳生会

豊中市武道館「ひびき」土曜日 午後1時〜4時

安城柳生会

正武館道場 水曜日 午後8時〜10時

柳生会米国

劍禅道場（ニューヨーク）土曜日 午後1時〜4時

香港柳生会

Ap Lei Chau Sport Center 月曜日・金曜日 午後8時〜10時

柳生会

柳生新陰流兵法剣術オフィシャルサイト
<https://yagyushinkage-ryu.jp/>

【連絡先】坂 保行

〒463-0015 名古屋守山区西島町10-1
☎(052) 792-7116

【連絡先】西澤 浩一（西澤建築士事務所）

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-33-14
☎(03) 3322-9200

北辰一刀流剣術



代表
小澤 智

智

〒310-0062
茨城県水戸市北見町2-26
☎(029) 221-4729

抱負

現代剣道に最も近い古武道の一つと言われている当流は、流祖千葉周作の時代から組太刀と剣道具を着装した撃剣とが並行して修行されていたとされます。

由来

水戸の地に北辰一刀流が伝承されたのは、流祖千葉周作成政が水戸九代藩主徳川斉昭公の招聘により、水戸藩校弘道館において教授したことに始まる。水戸東武館館祖小澤寅吉政方はその教えの下、免許皆伝を受けた後自らも弘道館の剣術方教授として活躍した。明治維新による弘道館閉校後、寅吉は士風喪失を憂い明治7年、自邸内に東武館道場を創設し「文武不岐」の精神を後世に遺すべく子弟を養育した。今日第七代館長小澤智に至り、当流が水戸市無形文化財の指定を受けるなど、脈々とその技と精神を受け継いでいる。

系譜

千葉周作成政—小澤寅吉政方—小澤一郎弘武—小澤豊吉—森山繁雄—小澤武—小澤智

流儀の特徴

流祖の教え「夫れ、剣は瞬息 心気力一致」「氣は早く、心は静か、身は軽く、目は明らかに、技は激しく」を基本とする。

特に太刀組の一本目「切り落し」は相手の攻撃に対し、気で攻め防御と攻撃を一刀で行う当流の極意である。また「なやし入れ突き」「三隅によける」などには安全で合理的な太刀捌きでもあり、今日の日本剣道形にその応用技が組み入れられている。小澤寅吉の弟子である内藤高治、門奈正などが形制定に努力したものと考えられ、何百流もあった武道の流派の中でも最も現代剣道に近いものと言われている。

演武者

中目録（剣道七段） 兼子 勝喜
中目録（剣道七段） 桐原 英夫

演武内容

- ①太刀組 木刀と鬼籠手を使用する43本中「一ッ勝」他10本を演武
- ②小太刀組 数本を演武

活動状況

- ①県や市の要請による演武
- ②公共放送への協力演武
NHK「鶴瓶の家族に乾杯」に出演
- ③武道体験希望者、見学希望者に対する道場での演武
- ④海外演武（2016年オーストラリア連邦派遣団に参加）

稽古場及び支部

○本部道場 一般財団法人水戸東武館

〒310-0061 水戸市北見町2-15

☎(029) 221-4729

毎週火曜日、土曜日に稽古

○支部 ①水戸市見和3-609-1 高山道場

②常陸大宮市照田1072 照弘館

③鉾田市鹿田900-28 善哉館道場

④水戸市河和田1-2480-4 水戸北辰館



柳生心眼流甲冑兵法



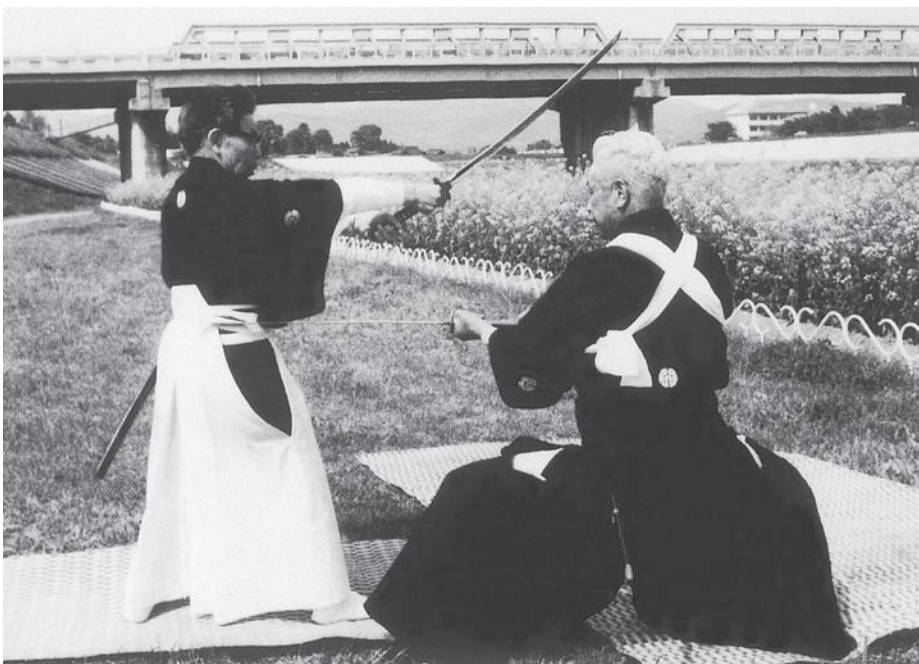
総本部長
星

國雄

〒021-0021
岩手県一関市中央町2-9-4
☎(0191) 23-7429

抱負

伝統と文化に満ち、幾多の名高い武道家を輩出した日本武道館において、演武をさせていただきますことを御礼申し上げます。
先人たちは師弟の切磋琢磨により武道の技と心を伝えて参りました。
私たちの流儀の形も「生きる」と「活かす」という二つの心を



もとに、力強く瞬時に動く身の動きにより、自他が生かされていくことを示しております。

至心に勤めさせていただきますので、どうかご高覧ください。

由来

寛永17年（1640）頃、仙台藩の武士、竹永隼人が各流の武道を修行し、奥儀を極めた後に、柳生但馬守宗矩に仕えて修行し一流派を開いて柳生心眼流の名を許可されたと伝えられる。

当流は伊達仙台藩62万石および江戸藩邸でも広く学ぶ者が多かった。一方、国許で学んだ者、帰国した者たちにも継承され、彼らは国境警備の役に当たった。このようなことから東北地方、特に仙台藩であった宮城県北部、岩手県南部に広く普及した。

竹永隼人が晩年、宮城県高須賀に閑居後も多くの門人を指導し、吉川市郎右衛門、中興の祖といわれた小山左門と続いた。また、多数の門弟の中より相澤東軒、さらには幕末にいたり、仙台藩養賢堂の武道教授となった名人、星貞吉と継承した。その子孫の星彦十郎が相伝を継ぎ、星國雄は彦十郎の四男で一子相伝者である。國雄は当流のすべての心技を継承して後継者の育成に努め、平成18年に逝去した。

現在は孫の星裕文が國雄を襲名し、門人とともに道統を守っている。

系譜

柳生但馬守宗矩―竹永隼人―吉川市郎右衛門―伊藤久三郎―小山左門行房―相澤忠之進東軒―千葉守弘―高橋義祐―佐竹森之助―加藤権蔵―星貞吉―星清右衛門―星彦十郎―星國雄―星國雄

流儀の特徴

柳生心眼流は攻撃ではない。相手の攻撃を待つ八点足、いわゆる無念無想の護身術で、相手の攻撃により初めて一瞬の間に、相手の術技を利用しながら諸道具を活用して、自分を守るため足手腰体を変化させて戦う技法である。

演武者

総本部長

星 國雄

古澤 伸一

浅野 篤

小原 良太

演武内容

鼻捻りの形

陣地の形

鎧通しの形

陣太刀の形

稽古場及び支部

総本部

支部

〇仙台支部

〇群馬支部

文化財指定

先代星國雄の尽力により、新田柳心館が昭和56年、宮城県無形文化財に指定された。また、南方心武館は平成2年に、南方町（現登米市）無形文化財指定を受けている。

〇仙台支部

〇群馬支部

〇仙台支部

〇群馬支部

〇仙台支部

〇群馬支部

〇仙台支部

〇群馬支部

〇仙台支部

〇群馬支部

〇仙台支部

〇群馬支部

〇仙台支部

〇群馬支部

〇仙台支部

ほんたいようしんりゅうじゅうじゅつ 本體楊心流柔術



第十九代宗家
井上恭一宗教

〒663-8233
兵庫県西宮市津門川町12-15
☎(0798) 35-1180

抱負

本體楊心流の草創は、江戸時代前期にさかのぼるとされています。爾来、絶えることなく人から人へと受け継がれた伝承を、日本文化の一つとして保存・普及する責任の重さを痛感する次第です。本大会には19代宗家の他に、いずれも長期間当流を修行した門弟のみを出場させております。先人より伝えられた「技と心」を表現できるように精一杯努力いたしたいと思っております。

由来

当流開祖、高木折右衛門重俊は、寛永12年に奥州仙台藩白石城主片倉小十郎の家臣である稲飛（稲富）家に生まれ、幼名を右門と称したとされる。彼は無刀流小太刀・鏡智流槍術などを学び、父の戒めの言葉であった「楊木は強く、高木は折れるぞよ」との言葉にちなみ、楊心流高木折右衛門と名乗ったという。折右衛門は剛力で有名でさまざまな伝説が残るが、平成5年には、旧白石領内で、折右衛門のものと伝えられ、守り続けられてきた墓所を確認し、墓前において奉納演武を行った。

2代を継いだ高木馬之輔重貞は、作州森家の秘蔵の家臣で、折右衛門と同じく大力で有名であったが、自らの未熟を悟り、竹内流入門し、体格や力に頼らない体術を工夫し、本體楊心流高木流と称するようになったとされる。

3代目は馬之輔の子息である高木源之進英重で、播州姫路藩本多家に仕え50石を受けた。この時に、4代を継いだ大國鬼平重信の開創した九鬼神流棒術が取り入れられ、幕末まで赤穂藩に相伝した。

第17代皆木三郎正教によりさらに研鑽・工夫が加えられ、第18代井上剛宗俊、さらに第19代井上恭一宗教に引き継がれた。

系譜

高木折右衛門重俊―高木馬之輔重貞―高木源之進英重―大國鬼平重信―大國八九郎信俊―大國太郎大夫忠信―大國鬼兵衛良定―大

流儀の特徴

柔術・棒術・小太刀術の三本柱を中心とする総合武道である。当流の特徴は、おおむね技が簡素で虚飾がなく、直接的・効果的な技術である点にある。徒手でも、あるいは得物を持つても同様の体捌きで敵の攻撃に対応することができ、柔術六法（逆・投・締・当身・捕付・活）により、いわゆる「活殺自在」の境地を目指すものである。

演武者

宗家 井上恭一宗教
奥伝 大賀 唯至
参段 時岡アヤ子
参段 日野 好和

演武内容

小太刀、長棒、半棒、柔術の形

活動状況

各種武道大会での演武を中心に、海外指導にも力を入れており、国際大会実施の実績もある。現在海外8カ国に正式な支部・分支部が設置され、毎年巡回指導にあたっている。

稽古場及び支部

○本部道場（今津武道会道場）

〒663-8233 兵庫県西宮市今津出在家町10-5

☎(0798) 22-4892

※本部道場では、原則として月曜を除き、毎日稽古を行っている。



なお第1・第3月曜日の午後3時〜4時半は、大阪梅田の毎日文化センターで講座あり。
また、現在、兵庫県立武道館（姫路市）において、姫路藩古武道保存会の企画による「姫路藩古武道講座」が実施され、当流の講習が行われている。
○支部・分支部
・国内…兵庫県姫路、熊本県山鹿、大分県
・海外（8カ国）…アメリカ、イギリス、イタリア、エストニア、オーストラリア、スウェーデン、フィンランド、ベルギー

せきぐちりゅういあ 関口流抜刀術



第十六代宗家
松岡 秀樹

〒861-5280
熊本県熊本市西区松尾2-27-43
☎(096) 329-4367

抱負

第45回日本古武道演武大会を開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

この日本武道館にて、関口流抜刀術の演武ができることは非常に光栄であると心得ます。先師より代々受け継がれてきた・伎・品格・文化を、日頃から切磋琢磨し精進しています。

本日は、その修行の成果を皆様に披露できることに感謝申し上げます。

今後、後世に継承するため尚一層努力してまいります。

由来

関口流抜刀術の源は関口流武術にあり、その創始者関口弥六右衛門の長男氏業を流祖とする。元禄年間、肥後藩士井澤長秀が参勤交代で江戸詰の折り、氏業の高弟洪川伴五郎より関口流の抜刀の部のみを修め肥後に伝えたのが関口流抜刀術の始まりである。

肥後細川藩は宝暦4年、細川重賢公により熊本城二之丸に文芸教授所時習館、武芸演習所東榭西榭が創建され、治世の要は教育にありとして文武振興、人材育成が図られるようになると、井澤長秀も武芸師範を仰せ付けられるに至り、関口流抜刀術は厚い庇護のもと大いに普及し、肥後流居合とまで称されるようになった。井澤長秀は鉄砲組頭であったが武だけでなく文は垂加神道で知られた山崎闇齋に学び、神道・国史・地理にも明るく、『武士訓』『俗説弁』などの著者としても知られている。

系譜

関口流祖
関口弥六右衛門氏心抜刀流祖—関口八郎左衛門氏業元—洪川伴五郎—井澤長秀四代—井澤長勝—井澤長明—大里右金吾—井澤長保—井澤長常—谷長勝—包坂正常—谷永質—野田甚内—大石永勝—青木規矩男—米原亀生—松岡秀樹十六代

演武者

松岡 秀樹（宗家） 中山 洋一 林 憲一
上原 征二

演武内容

太刀ノ形
小太刀ノ形
懐剣ノ形

流儀の特徴

礼法や着装や所作には肥後藩の武士文化を色濃く伝えており、重ねの厚い肥後の刀の同田貫に適した飛違い切りと称する激しい斬撃法で、敵を圧する掛声を発する。

肥後細川藩では多くの子弟が関口流抜刀術と二天一流（武蔵流）を共に修めたといわれ、全て片手切りである事は同じである。

演武にあたっては、実際に相手（打太刀）を対座させて行う。正座は足の膝を大きく開いて座る武士の座り方である。

活動状況

熊本市の「お城まつり」にメインイベントとして郷土の伝承武術として披露のほか、各地の演武会に出場している。熊本地方だけでなく関東関西方面にも広く各支部からの演武出場を行っている。年1回各道場の合同研修会を熊本で行うほか、出張指導や交流も盛んである。

稽古場及び支部

○熊本道場

〒862-5280 熊本県熊本市西区松尾2-27-43
☎(096) 329-4367

<http://skgc-ninjindofree.com/>
見学希望の方はHPよりメールにてお問い合わせください



○名古屋道場

森 孝浩

○東京道場

中山 洋一

○長野道場「澄心館道場」

林 憲一

○大分道場

麻野 和巳

○滋賀道場

大西 秀雄

荒木流拳法

抱負

新装なった日本武道館での東京オリンピックも盛会裡に終わり、素晴らしい成果を収められた会場において、第45回日本古武道演武大会が開催されますことは、誠に意義深いことであり、当流派も本大会に参加させていただきますことは、誠に光栄なことであります。

また、昨今におかれましては、新型コロナウイルス感染拡大等により、練習不足の感がありますが、本大会参加につき、演武者一同誠心誠意演武する所存であります。



由来

今より400余年前、天正の昔より言い伝えがある。『武芸流派大辞典』、また『尾張藩武術集録』およびその他の文献等によれば、荒木流拳法は、遠く荒木村重の孫にあたる荒木夢仁斎秀綱より伝承された。古くは中国の拳法から発達した戦国時代天正の頃の遺産で、荒木夢仁斎の頃、実戦体験から武術として伝えられたものである。

この武術は現在から見れば原始的要素を多分に持っている。言いかえれば武術が剣術、柔術などに体系づけられる以前のもので、棒、鎖、小具足、長巻、刀術、拳法などが未分化のまま受け継がれている総合武術である。

系譜

荒木夢仁斎源秀綱—森霞之助勝重—山本嘉助勝久—竹内九郎右エ衛門勝吉—高橋儀右エ衛門森久—方坂九郎右エ門吉久—向井左次郎正久—小林藤左エ門常正—小峰文太武矩—栗原五百二正重—鈴木円太夫義直—大和兵内規重—新井富蔵忠好拳斎—菊池毅之進知方—大和彌藤次知和—菊池源吉和吉—菊池邦光

流儀の特徴

- 一、総合的な武芸の流儀である。
- 二、鎖鎌、乳切木等において鎖を使用する。
- 三、攻めが主体でなく、防御を基本とする。
- 四、各技も荒々しく実戦的、技の最後は必ずとどめを刺す。
- 五、棒、鎖、小具足、長巻、刀術、拳法などが未分化のまま、受け継がれている総合武術である。
- 六、荒木流拳法の理歌の一つに「稽古をば勝負するぞと思えなし勝負は常の稽古なるべし」としている。



第十七代宗家

菊池 邦光

〒372-0033
群馬県伊勢崎市南千木町2235-1
☎(0270) 26-11560

演武者

菊池 邦光 菊池 京一 西川 二郎
細野 桂一 鈴木 荒一 鈴木 崇史

演武内容

○棒術 一、入身 二、腹掃き 三、冠落し
四、二ツ掃き 五、返し棒
○乳切木 一、一つ打ち 二、飛び違い 三、足巻
四、太刀巻 五、首巻

○鎖鎌 居捕り 二本 一、玉あて 二、入身
立取り 三本 一、太刀取り 二、鎌にてあて身
三、首巻

○特徴 乳切木、鎖鎌の両技は、いずれも一メートル二十センチの鎖を使用する技であり、共に実戦的な技である。

活動状況

現在の稽古は、毎月第1・第3土曜日（昼間）自宅で、門下生の指導にあたっている。また、年間事業等については、各地方で開催される、各種の古武道演武大会に参加し、古武道の普及発展に努めている。

さらに海外への文化交流に対しては、日本武道団代表の一員として、これまでにフランス・モナコ・ニュージーランド・ポルトランド・ミネアポリス・ボストン・スペイン・カナダ・ブラジル・ロシアに渡り、国際文化交流を図っている。

稽古場及び支部

○道場所在地

〒372-0033 群馬県伊勢崎市南千木町2235-1
☎(0270) 26-11560

大東流合気柔術



本部長
近藤 昌之

〒130-0015
東京都墨田区横網1-12-31
☎(03) 3517-2448

抱負

新型コロナウイルスからの早期克服を願ひ、ここ日本武道館で一所懸命演武をさせていただきます。

由来

大東流合気柔術は、清和天皇末孫新羅三郎源義光を始祖に仰ぎ、甲斐武田家から会津の地に移り伝承する。大東流を継承した保科正之は殿中護身武芸である御式内を完成し、以来歴代会津藩主が継承し明治に至る。

幕軍の力手組長武田惣吉の次男武田惣角は、家伝の大東流柔術に加え、会津藩家老西郷頼母より御式内の秘奥を伝授された、こ

系譜

●大東流柔術

新羅三郎義光―武田義清他―武田国繼他―武田惣右衛門―武田惣吉―武田惣角―武田時宗―近藤勝之―近藤昌之

●大東流御式内（御敷居内）

保科政之―松平正容他―容保―西郷頼母―武田惣角―武田時宗―近藤勝之―近藤昌之

●大東流合気柔術

武田惣角―武田時宗―近藤勝之―近藤昌之

流儀の特徴

基本技は118か条裏表。居捕、立合、半座半立、後捕に大別される。相手を無力化する「合気」技法並びに一万数千といわれる技法の多様性が特徴である。

伝書

武田惣角・時宗より伝承されている秘傳目録・秘傳奥儀・秘奥儀・合気之術・合気二刀流秘傳・皆傳之事の六巻。

他に竹下勇海軍大將合気武術覚書帳、植芝盛平大東流合気柔術連続写真、久琢磨大東流合気柔術極意総伝全巻を伝える。

演武者

免許皆伝 近藤 昌之

秘伝奥義

白山 秀透
トゥルーデル・マーク
河野 純一
滝口 太士
味岡 巧磨

演武内容

基本技・合気技・剣と柔術・多人数捕

活動状況

国内外道場において稽古を行う。詳細は本部HP。
台東区リバーサイドスポーツセンター、靖国神社、明治神宮、鹿島神宮、日本武道館並びに本部、国内外支部での演武大会。国内外の支部への直傳会を開催し当流の継承に努めている。
大東流・大東流合気柔術・大東流合気武道の三名称で商標登録を取得している（第九・一六・四一類）。

稽古場及び支部

大東流合気柔術本部

東京都墨田区横網1-12-31
電話 (090) 3318-8793
<https://www.daitohy.com/>

支部・スタディーグループ

国内

葛飾・両国・世田谷・浜町・愛国学園・網走・帯広・旭川・札幌・金沢・長野・山梨・鹿児島

海外

アメリカ九拠点・オランダ五拠点・イタリア三拠点・ロシア三拠点・スイス二拠点・マルタ・スロバキア・イギリス・ドイツ・オーストリア・セルビア・ブルガリア・カナダ・オーストラリア・UAE他



無比無敵流杖術



宗家十五代
根本憲一唯之

〒311-1204
茨城県ひたちなか市磯遠原町31-2
☎(029) 263-6917

抱負

このたびは第45回日本古武道演武大会に出場の機会をいただいたこと、また、新型コロナウイルス感染症の広がる中、対策を取りながら開催いただくことに感謝申し上げます。日本武道館にて古武道演武大会が開催されることはこの上ない喜びであり、日頃稽古で磨いた伝統ある技を演武披露できることは誠に嬉しい限りであります。

現代武道の源流である古武道は日本の伝統文化であります。私どもの杖術は槍の名手であった流祖が折れた槍で戦った経験をもとに無始無終の悟りを得、無比流杖術を開眼したことにより始まりました。後に変化に富んだ武術として発達し、水戸藩の武芸者のみならず、民衆の自衛武術として近郷近在において栄えたこの伝統文化を途絶えさせることなく、次世代に引きつぐ使命感を持ち、古武道の保存と振興に努めます。



由来

流祖佐々木哲斎
徳久は槍の名手であり、関ヶ原の戦いにおいて、九尺の槍を使い激戦中、槍先が折れ、柄をもって奮戦。その後、日本60余州の大小の神々と摩利支天尊に祈願し、その霊験により無始無終の悟りを得て、無比流杖術を開眼した。日本開山無住所として

各地を遍歴し、後に6代目片岡宗吉景重が水戸藩に仕えて以後、この地を中心に伝承した。明和、天明の頃から水戸藩の武芸者のみならず、民衆の自衛武術として近郷近在において栄え、さらに秘儀が磨かれた。変化に跳んだ武術として発達し、無比無敵流杖術として隆盛を極め、旧平磯村の大内藤次郎は、旧中根村の10代目安弥八郎忠信に師事し、11代目を継承し、多くの門弟を育成。その後、13代根本卯之吉忠勝から14代目を継承した根本平三郎唯久は流派の保存と伝承に尽力、昭和46年9月21日付、那珂湊市無形文化財指定を受けた。56年に明武館道場を創立。平成6年11月1日付、ひたちなか市無形文化財指定を受け、現在では十五代を根本憲一唯之が継承して、子弟育成に鋭意努力し古武道の保存と振興に努めている。

系譜

佐々木哲斎徳久―野村甚左エ門尉勝忠―武田藤七郎重明―本多治左衛門尉―山田宇左衛尉―片岡宗吉景重―軍司次左衛門信三―安彌八郎忠信―大内藤次郎忠信―勝村惣七忠信―根本卯之吉忠勝―根本平三郎唯久―根本憲一唯之

流儀の特徴

一、構えは槍の操法が基本となり、身は半身、足は丁の字、打つと見せて引く、引くと見せて突く、突くと見せてさくる。
二、一に眼、二に気合、三に構え。
三、伝は以心伝心、千変万化、電光石火の一撃で倒す。

演武者

宗家 根本憲一唯之 判解 村木 浩治
師範 谷 啓二 判解 沢幡 伸男

演武内容

表の形 基本稽古
七 本 七つの形に変化し、打つと見せ下からさくり、敵を

倒す。

九 本 九つの形に変化し、打つと見せて引き、突きで相手

を倒す。

引 杖 身は半身にして杖を引きずるように構え、一で相手の

の剣を払い、二で小手を打ち、三で下からさくって

倒す。

突 杖 杖を突くように構えて、太刀が足を切つてくるところを半身に下がり、太刀を巻き上げ進み出て、

相手を倒す。

中位五箇条 表の形をくずし、太刀の連続的攻撃に対して杖を変

化自在に使い、太刀を殺して相手を倒す。

極意十ヶ條 相手の急所に一撃のもとに入り倒す。

活動状況

・毎年1月2日明武館道場開き儀式を行う。
・毎年4月第2日曜日明武館道場門人演武大会開催。
・日本古武道協会主催演武大会出場。
さらに海外文化交流として、日本古武道団一員としてこれまで、スペイン、トルコ、タイ、他に渡り文化交流を図る。

稽古場及び支部

○明武館道場本部
〒311-1204 茨城県ひたちなか市磯遠原町490
☎(029) 263-6917
・毎週日曜日 午前10時～正午
水曜日 午後7時～9時
○支部 ・茨城瓜連支部

文化財指定

○昭和46年9月21日付 那珂湊市無形文化財に指定
○平成6年11月1日付 ひたちなか市無形文化財に指定

天真正伝香取神道流剣術



第二十代宗家
飯篠 快貞

〒287-0017
千葉県香取市香取1827
☎(0478) 57-3161

抱負

第45回日本古武道演武大会の開催を心よりお慶び申し上げます。
また、第45回目の開催に関係各位のご尽力と参加させていただくことに感謝申し上げます。

演武者一同、日頃の修練の成果を精一杯演武し古武道の保存振興の一助となれば幸いです。

由来

「天真正伝香取神道流」は飯篠長威斎家直を流祖として下総国香取に伝承する武術である。

系譜

飯篠長威斎家直―盛近―盛信―盛綱―盛秀―盛繁―盛信―盛長―盛久―盛定―盛重―盛次―盛清―長照―盛照―盛重―盛房―盛貞―金次郎―快貞（現在）

流儀の特徴

戦国時代の流派であり、戦場で鎧を着用した技が多く、斬突の場所は甲冑の弱点、例えば、首、脇、小手の裏、腰の直ぐ上、内腿等を打つ。稽古中武器と武器が激しく当たっているが（実際は斬っている）、それは他から形を盗まれないためである。また、一本毎の形が非常に長くつくられている。

演武者

京増 重利 荒野 祥司
成毛 弘 櫻井 俊也

演武内容

居合術 剣術 薙刀術

活動状況

ゆかりある香取神宮での奉納演武や各地域で行われる演武大会に参加し古武道の普及に努めている。
稽古日は本部道場で第4日曜日、各支部にて週2日から3日の稽古を行っている。

稽古場及び支部

○本部道場

〒287-0017 千葉県香取市香取1827
☎(0478) 57-3161 飯篠快貞

○酒々井支部

☎(090) 1404-7656 京増重利
その他、国内外に支部がある。



無雙直傳英信流居合術



当流儀第廿一代
関口 高明

〒144-0051
東京都大田区西蒲田7-50-2
西蒲田ロイヤルハイツ802
☎(090) 8089-3201

抱負

第45回日本古武道演武大会に参加できることを我が一門を挙げて光榮至極に存じあげます。先師より継承する当流儀日本伝統武術技法は、我が国の歴史の中に息衝き伝承されてきた遺徳を「形」で表現。

私たちの祖先が汗と血を滲ませ培った英知や技術、その哲学的思想は、今を生きる世代に知恵を与え、生きる源動力を与える。

剣を納め、己を修め、心を極め、人の世の武の道を歩む人達のだ標となるよう日々修練をしてまいりました。争いではなく、和をもつて世界に平和をもたらされることを祈り、その心を一門一心で表演します。

由来

流祖は足利時代末期、永祿年間の奥州の住人林崎甚助源重信である。亡父の敵を討たんとし、林崎明神に祈願し、居合の妙理を悟り林崎夢想流と称し敵討ちを果たした。

此の流派は重信流とも称し、以来幾多の分流を生み、中でも第7代長谷川主税助英信は古伝の技に独創を加え、其の術が、精妙であった事から長谷川英信流とも呼ばれ、また無雙直傳英信流とも称せられた。

延宝2年第9代林六太夫安政が土佐藩に仕え、英信流は土佐に流布した。



以降土佐藩はこれを門外不出の流儀として庇護し、傳承してきた。第17代大江正路子敬が武道の衰退を憂慮し、全国に当流を流布、教伝に努力した。

土佐藩主の流れを汲む第18代山内豊健は「居合詳説」を発刊、第19代河野兼光は東京都豊島区に明武館を創設、第20代尾上政美これを継承、関口高明が第21代を継ぐ。

系譜

林崎甚助源重信^{初代}→田宮平兵衛業正^二→長野無楽入道權傳齋^三→百々軍兵衛光重^四→蟻川正左衛門宗續^五→万野団右衛門信定^六→長谷川主税助英信^七→荒井勢哲清信^八→林六太夫守政^九→林安太夫安政^十→大黒元右衛門清勝^{十一}→林益之丞政誠^{十二}→依田万蔵敬勝^{十三}→林弥太郎政敬^{十四}→谷村亀之丞百雄^{十五}→五藤孫兵衛正亮^{十六}→大江正路子敬^{十七}→山内豊健^{十八}→河野兼光^{十九}→尾上政美^{二十}→関口高明^{二十一}

流儀の特徴

当流儀は我が心中に敵を設けて、真剣を以て行う刀術である。修練に当たり仮想敵を想定して行う。また、相手を設けて真剣を抜き、太刀打ち、詰居合等の形を行い術技の向上をはかる。長きは短く短きは長く重きは軽く軽きは重く、大強速軽、刀の刃を上にして帯刀し抜刀は鯉口を見せず抜手を早く居合術の生命である必殺の鞘放れから抜き付け斬り下す。鰐元から八寸を残し一気に切つ先三寸の鞘手素早い納刀を決め納める。

刀操術に依り身体の運用をはかり心胆を鍛え練り磨く心術、高度の精神武術であり座居合（正座、立膝）立ち居合刀法がある。

当流儀道歌

居合とは 心に勝つが 居合なり
人に逆ふを 非力と知れ
わがみち乃 居合ひとすじ
ざつだんに 知らぬ兵法 人にかたるな
*居合修身を座右の銘とする

演武者

第廿一代宗家 関口 高明
尾形 明大 小島 恵子 中野 園子 中田 博久
尾上 政人 山崎 寛郎 竹内 香織

演武内容

当流儀より抜粋の居合術及び抜粋の当流組太刀を行う。

活動状況

東京在本部を中心に全国規模で、また国外でも広く伝承に努めその成果も当流武士道武術で敬愛の念をもち信義、矜持を一心で不變。世界の国々から賞賛を戴き益々ワンワールドワンファミリイを目差し普及に邁進している。

国内も真摯に修練を求める入門者に差別なく門戸を開き当流儀を指導、刀術を修練と併せ歴史文化、武道精神を幅広く教導し、心技体一如の人格形成を求め修練を行う。

流儀保存の伝承流布では日々の稽古に演武紹介、体験講習や講演を行い、武士道文化を正しく伝え技芸資質の向上、人格教養を高め文武両道の教導に成果をあげる。

当流儀を通し世界中の人々が敬愛の心を以て尊敬と友情友好を深め、当一門剣士が心を開き一心に真の世界平和、発展繁栄を願い精進している。

稽古場及び支部

*第廿一代道場本部高明塾

都内及び近県在の公共施設、体育館武道場、学校開放体育施設、その他有料民間企業施設を利用して稽古時間は午後6時〜午後9時、毎日修練を行っている。

*国外道場

世界の主要国を中心に全世界の国々に広く普及流布、さらに世界の隅々まで普及流布を展開継続を続ける。

天神真楊流柔術



第七代宗家
柴田 孝一

〒350-1137
埼玉県越市砂新田1-6-48
☎(049) 242-7098

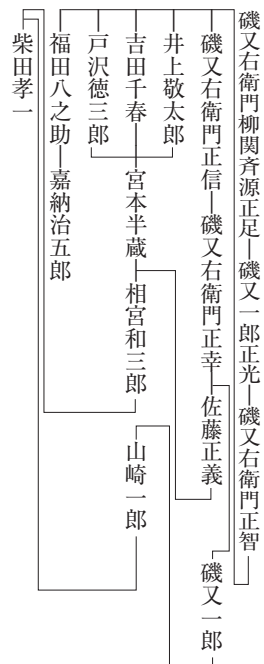
抱負

講道館柔道の源流である天神真楊流柔術を演武することができ、大変光栄に思っています。柔道の原点の柔術の技に興味をもっていただけたら幸いです。

由来

流祖磯又右衛門柳岡齊源正足は文化元年（1804）伊勢松坂に生まれた。文久3年（1863）59歳で没。紀州藩士で本名は岡山八郎治。15歳のとき楊心流の名人、一ツ柳織部義路の門に入つて楊心流を学ぶこと6、7年。師の死去により真之神道流柔術の達人、本間丈右衛門正遠の門に入り、約6年にして奥儀を究め、諸国を遍歴して各藩の名家先生と試合したが一度も敗れたことがなかった。また、江州草津にて門弟西村其と2人で100余人の無頼漢を相手にし、多年修練の秘術をもってこれを追散らし、人命を救った。さらに真の当の修業に多年心を砕き、ついに奥妙を極め、京都の北野天満宮に参籠、祈願し、楊心流と真之神道流を合一統合し、新たに天神真楊流を創始する。後に江戸に出て神田お玉が池に道場を開き、諸国の門人は5000余人に及んだ。講道館柔道の創始者嘉納治五郎は3代磯正智及び弟子の福田八之助に学んでいる。磯家が絶家したため、宮本半蔵が5代宗家を継承する。また、正幸弟又一郎（二男）山崎家、三郎（三男）青沼家の承諾を得、宗家を継承する。

系譜



流儀の特徴

相手の動きに従つて無理がなく合理的（投、絞、極、当）に相手を制す。
免許の道歌「捕われては水に浮く木の身をもてし浪にまかせつ風にまかせつ」

演武者

柴田 孝一 柴田 俊充 松浦富士雄 鷺尾 勉
有沢 誠 吉田 喜教 稲葉 義之 阿部 岳春
今野 賢太 阿部 智恵

演武内容

初段立会
突掛
引落
後捕
中段投捨
鐘木
刈捨
横車

拳突きをかわし、手の甲を持ち陰囊を蹴り甲を返し投げ極める。
拳打ちを受け、陰囊を蹴り前に引き落として極める。
後方から抱えられたとき、頭にて当て前方に投げる。
拳打ちを受け、足を払って投げる
拳打ちを受け、前後方に崩し後方に投げる
前後の帯を取られたとき、襟と肩を持ち足を払って投げる
後方に回り、耳当てをし後方に投げる
前襟と前帯を持ち後方に投げる
小太刀切付けをかわし、左右に引き分けに投げる

極意上段

蹴返
大殺
天狗勝
膝裏を蹴り倒し、後方から咽喉を絞め、足で横腹を蹴る
胸、腰、膝裏の三当て倒し咽喉を絞め、足で横腹を蹴る
肘内側で咽喉を手先で頸を圧絞め、肘で水月を突く

活動状況

- 東京都文京区江戸川橋体育館柔道場
東京都文京区小日向1-7-4
☎(03) 3945-4008 土曜午後3時半～6時
- 埼玉県川越市武道館柔道場
川越市郭町2-30
☎(049) 242-7220
・木曜午後6時半～9時
・土曜午前10時～正午
・日曜午前9時半～正午
- 山形県米沢市武道館
米沢市金池3-1-62
☎(0238) 23-0664 火曜午後6時～9時
- 併伝 浅山一伝流体術 戸塚派楊心流柔術
聖地京都北野天満宮で毎年奉納演武を行なっている
- 連絡先
〒350-1137 埼玉県川越市砂新田1-6-48
☎(049) 242-7098
- 支部 札幌・岐阜・大阪

稽古場及び支部



くら ま り ゆ う け ん じ ゆ つ 鞍馬流剣術

抱負

第45回日本古武道演武大会に参加させていただき光栄に存じます。この大会で演武させていただくことは、このうえない喜びであり、日頃の修練の成果を存分に発揮できる場を得たことを感謝しながら、鞍馬流出場者は全力で演武させていただきたいと存じます。本大会の開催にご尽力賜りました関係各位に心より感謝申し上げます。

由来

源義経（牛若丸）が、京都の鞍馬山で鬼一法眼に就いて修行し超人的な腕前に達した、との言い伝えがある。鬼一法眼が鞍馬の八人の僧兵へ武術を伝えており、これが鞍馬八流、京八流と呼ばれているが、確かなことはわかっていない。鞍馬と名のつく流派は剣・槍・棒・抜刀などいくつかあったが、剣術では将監鞍馬流だけとなった。

将監鞍馬流は、天正年間に大野将監によって創始され、幕末から明治にかけて、十五代宗家を継いだ柴田衛守が流派の中興の祖といわれている。柴田衛守は直参旗本出身で、18歳で免許皆伝。19歳で明治維新を迎え、明治12年四谷警察署の撃剣世話掛となり、東京四谷に習成館道場（勝海舟命名、1879年創設）を開いて門人を育て、大正4年大日本武徳会剣道範士、警視庁剣道主席師範をつとめた。衛守の子柴田勸（警視庁、貴衆両院剣道師範）と受け継がれた



が、昭和20年の戦災で習成館道場は焼失し、鞍馬流の秘伝書、古文書、武具など全て灰となってしまったのは誠に惜しい極みである。その後平成元年勸の子柴田鐵雄により道場は再興され、現在は鐵雄の子柴田章雄

が十八代宗家として鞍馬流と、東京にある個人の剣道場では一番古い剣道場習成館を継承している。

系譜

大野将監：林崎甚助：加藤玄蕃：金子助三郎—柴田衛守—柴田勸—柴田鐵雄—柴田章雄

流儀の特徴

鞍馬流の木刀の形は、蛤刃の太い木太刀を使って行い、気迫に富んだ発声をもって演武するのが特徴である。形は七本ありその名称は、正當剣、閃電、燕飛、青眼、変化、気相、水車である。形は一本目より三本目までは目録、四本目より七本目までは口伝の形でこの流派の奥義であり、返し技が多く、鎧の使い方に特徴があり、仕太刀の「後の先」の技を引き立てるように組まれている。一本目の正當剣は、現代剣道の正面打ちのお手本のようなものであり、五本目の変化は、「警視流木太刀の形」の二本目に採用されている捲き落とし技で、現代剣道においても大いに活用されている。鞍馬流居合は五本あり、その名称は一字、胸之位、戻り打、上段、地摺である。

教訓歌 器用をも得手も達者もたのむまじ

ただねり込みて功をつむべし
いさぎよく 猛く大きく 直かるは
是れぞ御玉の 人の真心

演武者

宗家 柴田 章雄
柴田 彩水 柴田 雄登 吉田 懷寛
松井 康一 渡辺 良雄

演武内容

居合五本 一字、胸之位、戻り打、上段、地摺



第十八代宗家
柴田 章雄

目録三本

正當剣

現在の剣道の正面打ちと同じような基本動作である。相青眼、仕太刀は打太刀が振り出した太刀を正面に振りかぶって、その太刀を真つ直ぐに打ち落とす。この動作を二回行う。

閃電

相青眼で構え、前半は正當剣と同じ動作を繰り返す。後半は打太刀は仕太刀の小手を攻める。仕太刀はこれを右鎧で応じ、大きく振りかぶって打太刀の太刀を真つ直ぐに打ち落とす。

燕飛

相青眼から打太刀は大きく振りかぶってから仕太刀の右胸を攻める。仕太刀はこれを一歩右足から踏み込んで右鎧で応じ、打太刀の太刀を制しながら大きく振りかぶって打太刀の正面を攻める。

口伝四本

青眼、変化、気相、水車

活動状況

現在の活動状況は、毎週月、火、水、金、土曜日の夕刻より習成館道場で現代剣道と併せて鞍馬流の稽古を行っている。木刀の素振り、形稽古だけでは手の内ができない、と考え防具を着用した竹刀剣道と居合も行いながら、技量・人物に応じながら、鞍馬流を指導している。

浅草日本古武道大会（4月）、靖国神社春季（4月）・秋季（10月）例大祭・みたま祭（7月）、京都下鴨神社奉納演武（5月）、京都白峯神社奉納演武（5月）、明治神宮奉納古武道大会（11月）、伊勢神宮（式年遷宮時）等である。

稽古場及び支部

○本部 習成館道場

〒160-0016 東京都新宿区信濃町11-12 習成館

第十八代宗家 柴田章雄

☎/FAX (03) 3341-8981

HP <http://www.shuseikan.com>

〒160-0016
東京都新宿区信濃町11-12 習成館
☎ (03) 3341-8981

陽流砲術

ようりゅうほうじゅつ

抱負

第45回日本古武道演武大会にて、皆さまに「陽流砲術」の演武を披露する機会をいただき、心より感謝申し上げます。
雑念を捨て「心眼掌一致」の精神で、本日は日頃より鍛錬してまいりました成果を、皆様に見ただけですよう門弟一同、精一杯務めさせていただきます。福岡藩に代々伝わって参りました砲術の歴史の一端を感じていただけたら幸いです。

由来

当流は九州筑前国52万3千石の福岡城主黒田氏の家臣阿部家に伝えられた砲術で、藩外不出黒田藩のお留め流として伝承された武術である。黒田如水公の鎧の胴中紋の日輪紋を流印として「陽流」と定められた。尾上家家宝の御判物「如水・長政・忠之」からも明らかのように藩中の名家。先祖は、村上源氏具平親王の後裔赤松氏より出ている。初代尾上右京之亮可親は和泉国岸和田出身の岸則虎の嫡子で、播磨国加古郡に領地を有していた尾上武則の養子となった。可親は黒田長政に仕えて多くの軍功を挙げた。時代が下り、13代鉄平友陸は砲術に長じ、阿部家により、その秘伝と大筒の伝授をうけ、代々伝承されている。尾上家秘蔵の大筒には「天正十八年泉州阿部高吉作」の銘がある。現在射手は家元尾上大筒城由を中心に先代の門人及び現主の門人数人に限られている。

系譜

尾上右京之亮可親^{初代} 藤太夫可保^{二代} 九郎太夫可正^{三代} 作之進可成^{四代} 藤太夫可直^{五代} 彌蔵可次^{六代} (黒田綱之公の息女を嫁とする) 九兵衛可勝^{七代} 作之進可寛^{八代} 彌蔵可成^{九代} 新之丞可敏^{十代} 新之丞可徳^{十一代} 駒次郎(後改め九郎平) 鉄平友陸^{十二代} 右之亮 城祐^{十三代} (大筒城祐) 城由^{十四代} 江(大筒城由)

流儀の特徴

陽流砲術は、刺子の胴衣、袴、胸皮を身につけ、陽流の五つの型を、大筒を砲架に据えるのではなく、砲身を晒で左手に結びつけ抱えて撃つ。

陽流に伝わる「陽流砲術即」「陽流砲術教歌卷」などの心得を伝えながら、常に作法を重んじ厳正な射技を行っている。

戦いにおいて、場所の状況により大音を発し、敵の戦意喪失を生じさせ、城門破壊、橋梁爆破、人馬殺傷(散弾元を使用)などを行う。

演武者

陽流 三の型 ほほつけ
師範 渡辺 利秀

陽流 二の型 ありあけ
師範 藤川 繁昌

陽流 四の型 座うちはなし
家元 尾上城由江

陽流 二の型 ありあけ
師範 渡辺 利秀

後見 師範 小金丸英俊

演武内容

一の型 たちはなし

直立にて筒を水平に構え、左足を曲げて、右の足にて支えとなす。

二の型 ありあけ

直立の姿勢より左・右の開き、体の安定をはかり、左右の腕にて筒を支える。

三の型 ほほつけ

座した姿勢より左膝に左腕を託し、筒を支え右頬に当てて、射の姿勢をなす。



第十六代家元

尾上大筒城由

〒812-0044
福岡県福岡市博多区千代4-3-15
☎(092) 641-4504

四の型 座うちはなし

座した姿勢のまま腰をのばし、左膝を曲げ筒を構える。

五の型 けたうち

座の姿勢のまま腰をのばし、両手に筒を支える。

(注) 五の型「けたうち」は撃発時反動強く、床尾を損傷するので大筒保存のため現在では型のための稽古。

活動状況

日本全国各地、ただし火薬使用可能な公安委員会の許可のある場所にて射技の公開をなす。年間実施回数は日本武道館を始め6回〜7回の実地射技を行っている。

稽古場及び支部

○練砲館砲術道場

(福岡市博多区千代4丁目3-15)

文化財指定

福岡市有形文化財指定



心形刀流剣術



代表
小林 強

強

〒519-0125
三重県亀山市東町1-8-26
☎(0595) 82-0614

抱負

第45回日本古武道演武大会の開催を心よりお祝い申し上げます。この度は心形刀流剣術を演武させていただく貴重な機会を得ましたことに感謝いたします。「心正しければ技正しく、心の修養足らざれば技乱れる」の教えを受けて、日々修練を積んで参りました。本日は、心正しく端正に刀技させていただきます。今後の各ご流派の益々の隆盛と諸先生方のご健勝を祈念し、ご挨拶いたします。

由来

心形刀流は江戸時代の初め、「本心刀流」をはじめとする諸流を学んだ伊庭是水軒秀明が創始した流派である。

八代目伊庭軍兵衛秀業の時、江戸下谷に道場を開き、「練武館」と名付け多くの門弟を指導した。北辰一刀流・神道無念流・鏡新明智流の三流派に心形刀流を加えた剣術道場は「江戸四大道場」と呼ばれた。幕末期、九代目伊庭軍兵衛秀俊は幕府講武所の師範役に、そして、「伊庭の小天狗」として知られる伊庭八郎秀頼も教授方に出仕したので、心形刀流は全国各地に伝播することとなった。

八代目伊庭軍兵衛秀業から免許皆伝を受けた伊勢国(現三重県)亀山藩士山崎雪柳軒は元治元年(1864)江戸から亀山に帰り、翌年「亀山演武場」を建設、

を刻んだ「亀山演武場」は令和3年(2021)に開場156年を迎えた。

系譜

流祖 伊庭是水軒秀明(1649-1713)
二代 伊庭軍兵衛秀康(1675-1739)
— 水谷忠辰— 水谷格寿— 岩間大助— 松浦静山
三代 伊庭軍兵衛直保(1708-1752)
— 大河原右膳— 柳剛流流祖 岡田惣右衛門
四代 伊庭軍兵衛秀直(1717-1762)
五代 伊庭軍兵衛秀矩(1744-1826)
六代 伊庭軍兵衛秀長(1771-1842)
七代 伊庭軍兵衛秀測(1790-1830)
八代 伊庭軍兵衛秀業(1810-1858)
— 亀山藩 初代 山崎雪柳軒

二代 市川権平
三代 加藤正斎
四代 加藤文郎
五代 小林正郎
六代 小林 強
九代 伊庭軍兵衛秀俊(1810-1886)
十代 伊庭想太郎(1851-1907)

流儀の特徴

心形刀流の流名の由縁と理念について、平戸藩主・松浦静山は、「剣技」の中で、「剣を抜いて敵と相対した時の人間の本心は、『撃たれるのではない』か」と思わず怯んでしまう心である。その一方で、心中には敵を撃ってやろうとする心もある。しかし、その心は上辺の血気であり、本心ではない。自分の本心をありのままに認め、いかなる場合も怯むことのない心を練ることで、技ははじめて形となって現われる。故に心、形の順序となり、『心形刀流』の流名となる。」と述べている。

心形刀流の伊庭道場は常に質実剛健で、特に幕末期は実践的な竹刀・防具を使用する荒稽古で有名であったという。突き技を多く取り入れているのが特徴で、亀山に伝承される心形刀流の形は「抜合」とよばれる一刀の居合術の他、二刀・太刀などの組太刀、また奥伝として坐突・柄捕の形がある。「枕刀」という武器も伝わる。

演武者

小林 強・加藤 尚大・原 謙一
振角 卓哉・中西 卓男・伊東 大輔

演武内容

抜合(表の形・裏の形)・太刀の形・二刀の形

活動状況

日本古武道協会・日本古武道振興会・全日本剣道連盟に加盟。日本武道館での日本古武道演武大会をはじめとして、鹿島神宮・下鴨神社・明治神宮・伊勢神宮・熱田神宮での奉納演武に参加している。また地元の剣道大会等でも演武を行い、伝統文化の保存と普及を図っている。平成4年に三重県平成文化賞、令和2年に「亀山市文化財保存・継承活動」の表彰を受けた。

稽古場

○亀山演武場

〒519-0152 三重県亀山市本丸町573

毎週火・土曜日 午後7時〜9時30分

<http://www.eonet.ne.jp/shingyououto/>

「心形刀流保存赤心会」

文化財指定

昭和26年 亀山市無形文化財指定
昭和50年 三重県無形文化財指定



佐分利流槍術

抱負

第45回日本古武道演武大会に出場させていただけることを、大変光栄に思い感謝しております。本大会では、佐分利流槍術の演武から、みなさまに礼儀、気力、古武道精神の大切さを発信でき



たらと考えております。

日本古来から伝わる古武道を発展、継承できるようにがんばりますので、よろしくお願いいたします。

由来

佐分利流槍術は佐分利猪之助重隆を開祖とする。重隆は初め富田流を学んだ。富田一家の武道は中条流の正系をくむ名流である。その一門の富田牛生は槍術に秀で、富田流槍術の開祖となる。重隆は牛生について学び、その妙旨を悟り、工夫を加え佐分利流を創始し開祖となった。関ヶ原の合戦では東軍に属し、勢州津の城を守り槍をもって大いに石田方を悩ました。その後、池田輝政に仕え老臣となり、子弟の育成に努めた。

門人多数ある中、岡田源五左衛門、佐々木左内の両人が最も秀で、これに佐分利の姓を与え、妙旨を伝えた。源五左衛門重賢は師の伝を継ぎ、左内は備中足守木下家槍術師家となり、多くの武勇伝を残した。4代目重勝より三原藩槍術師家となり隆盛を極めたが、8代目重武のとき明治維新となる。その後、倉橋誠太、吉永俊二、川瀬元一、川瀬一道と引き継がれ、古流の振興に努めている。

系譜

佐分利猪之助重隆二代—佐分利源五左衛門重賢三代—佐分利平藏重種四代—佐分利庄内重勝五代—佐分利文五左衛門重之六代—佐分利内次重真七代—佐分利文五左衛門重道八代—佐分利源五左衛門重武九代—佐分利誠太重昭十代—佐分利俊二重文十一代—佐分利元一重道十二代—佐分利一道重徳

流儀の特徴

当流は、槍は切るもの、刀は突くものを真髄としている。槍の全長は九尺、穂先は両刀両鑢、長さは二尺一寸を基準とする。鍵は穂先より二尺五寸下がったところに付している。また、鍵の位置に腕貫と称する房が付いてあり、長さ一丈一尺、太さ九耗前後である。



第十二代宗家

川瀬一道

〒726-0002
広島県府中市鶴飼町63-4
☎(0847) 45-4095

鍵は相手の武器、体勢を制して切るを基本とする。また、腕貫の使用は口伝、秘事につき略す。腕貫の体用は目録以上でないとい使用を許さない。

演武者

真槍之形 宗家 川瀬一道
立 方 前原 一教 北村 賢一

演武内容

鍵槍之形 立方が素槍、仕方が鍵槍を持って行う。

上段 立方胴に突いて来るのを右前で冠りて押さえ、十字に受け、引き回して左に捨て、小手を切つて的付。

中段 立方方面に突いて来るのを、仕方は右前に体を交わし、左上段に受け、頭上に巻き上げて右前に捨て付。

下段 相方下段の構、相方同時に掛かり槍を上下に三度打ち合いし、仕方槍を引き冠り、立方の槍を打ち落として残心。

目付 相方上段の構、相方同時に掛かり槍を上下に打合し、仕方はそのまま立方の手元に入り押付。

目付裏 相方中段の構、立方方面に突いて来るのを、仕方鍵にすくい上げ槍を引き胴に来るを、鍵で押さえ、そのまま槍をすり込みて小手を切り、槍を引き、残心。

真槍之形 真槍を用いて形を演ずる。

活動状況

毎年、東京、京都、岡山、広島神社、武道場などで演武を行っている。

稽古場及び支部

〒726-0002 広島県府中市鶴飼63-4
毎週火曜日午後8時〜10時

初實剣理方一流甲冑抜刀術



代表

神崎

勝

〒701-0204
岡山県岡山市南区大福164
☎(086) 281-1900

抱負

第45回日本古武道演武大会へ出場できますことを心から感謝し、光栄に存じます。

明治4年の廃藩置県により300弱の藩が廃止となりました。多くの流派が消滅する中、現代まで存続できましたことは、先人達が血と汗と修練により積み上げてきた賜です。

その技と心を継承し、作州津山藩に伝わる初實剣理方一流を次世代への伝承に尽力してまいる所存です。

この栄えある大会にて多くの人に見ていただき、疫病を吹き飛ばして感動を与えられるように心がけて演武に臨みます。

由来

流祖は、今枝佐仲藤原良台といひ竹栄軒一翁と号した。正保3年、伯耆国倉吉に生まれ、父、今枝佐仲良堅から家伝の今枝流剣術を学び、江戸に出て、伯父、今枝四郎左衛門良政について修行



系譜

流祖 今枝前佐仲藤原良台二代—今枝前佐仲良邑三代—今枝前佐仲良真四代
佐仲良尚五代—今枝前佐仲良全六代—今枝前佐仲良益七代—本郷前三尺真富八代
松尾圓助常倫九代—本郷所左衛門真典十代—松尾圓八藏十一代—松尾慎六盛十二代
井汲唯一貫十三代—今泉南八栄清十四代—吉田武四郎真好十五代—大山瀧水正武十六代
大山十三郎綾正光—藤田金一源久実—神崎勝

流儀の特徴

当流は、今枝流剣術の太刀抜刀を基本とする技が多く伝わっており、特に斬り合いの後、敵を倒して「止」を刺すこと。血振納刀の際、親指と人差し指で刀を挟み血糊を拭いて納刀するなど、古武士の厳しい武術である。

演武者

代表 神崎 勝
師範代 多賀 俊郎
世話代 神崎 勝馬

演武内容

初實剣
骨法
遠近
抜撃
裏廻
越足
左身剣
待勇剣
胸盡
陰中剣(試斬)

活動状況

- (1) 日本古武道演武大会
- (2) 岡山県古武道連盟主催(岡山県古武道祭)
- (3) 備前総社宮奉納演武
- (4) 吉備津彦神社奉納演武
- (5) 徳森神社奉納演武
- (6) 津山さくらまつり
- (7) 2003年 スペインオビエド市派遣日本武道団
- (8) 全日本剣道連盟 第四回バリ大会(2008年)
- (9) 日本・ブラジル交流百周年記念事業(2008年ブラジル派遣日本武道代表团)
- (10) 2014年ロシア連邦(モスクワ市)派遣日本武道代表团
- (11) 2019年オーストラリア共和国派遣日本武道代表团

稽古場及び支部

○岡山道場(岡山市出石町大河原ビル)
○倉敷支部(千田道場)

肥後古流長刀

抱負

前大会に続き、今回も4人で参加します。うち2人は初参加の男性です。

江戸時代末期に熊本に伝わって以来、藩校時習館での修練に始まり、明治時代以降は女学校や女子師範学校での教練を経て平成の今日まで、連綿と伝わってきた古流長刀の形と気合いを、気持ちを込めて演武します。

競技仕合（試合）を前提にする「スポーツな感じ」と異なり、古流長刀は歩き方、捌き方など基本動作をなによりも重視します。



由来

自分を律し、ひたすら訓練する中で少しずつ体得することができ、それが武術全般だけでなく、日頃の暮らしの中の所作も美しくすると信じています。

系譜

流祖は和泉国日根（現大阪府泉佐野市）の浪人亀井輝重で、肥後の浪士松本源次郎助次が日本廻国の途中、和泉国に至り亀井氏に師事し、長刀総状指南の奥義を受け、帰国して肥後藩に伝えた。

亀井輝重—松本源次郎助次—石寺可亭貞次—入江新内時陳—入江新次郎貞馨—小堀平右衛門闊有—入江太郎八貞伸—安田市助貞方—入江太郎八貞伸—村島貞譜—安田退三貞栄—三浦榮四郎—安田萬喜—木野静恵—蟻田久代子—近藤千代子—平田眞由美

流儀の特徴

肥後古流長刀は刃先四尺、柄四尺の大長刀で、この八尺の大長刀を自由自在に操れるように訓練する（稽古、仕合は櫓棒を用いる）。繰出し繰込みの技を特徴とし、手数少なく一刀必殺の術である。

演武者

宗家 平田眞由美
師範 西本 葉月
師範 廣田 直人
師範 島永 陸夫

演武内容

一、常の表
1 太刀合五本
2 長刀合三本



第十七代宗家
平田眞由美

活動状況

二、中段
1 太刀合二本
2 長刀合三本

稽古は熊本市の龍驤館、日曜日に宗家宅近くの神社境内で、午前10時から正午まで。毎年3月の熊本県古武道演武大会と10月の「熊本城」お城まつりに出演している。

最近、他流派経験者を含む男性の入門者が増えてきた。足の運び方、体の重心の落とし方、腰の使い方など基本動作をみっちり指導していることが理由のようで、うれしい限りである。

稽古場及び支部

○稽古場 龍驤館
〒862-0941 熊本市中央区出水1丁目4-7
○菊水支部
〒865-0126 熊本県玉名郡和水町前原451-2



〒865-0126
熊本県玉名郡和水町前原451-2
☎(0968) 86-4213

たけのうちちりゅうじゅうじゅうつ こしのまわりこぐそく

竹内流柔術 腰廻小具足



相伝家十三代目
竹内藤十郎

〒709-3104
岡山県岡山市北区建部町角石谷
1131
☎(086)722-3385

抱負

作州の山奥で竹内家が伝承している竹内流は、あと10年で創始五百周年。生首をとらないで生け捕りにする「捕手」の発想が戦国時代になされたとは驚きです。小刀や徒手空拳を駆使する勢いはそのままだに寸止めをし、「気合・気迫・残心」で相手を圧倒し降伏させる演武を心がけます。

由来

竹内流は、天文元年（1532）、作州堺和郷一ノ瀬城主竹内中務大輔源久盛によって創始された。この時に編み出された神伝捕手五ヶ条と武者捌は、秘伝として竹内家が現在に伝えている。

二代目久勝（久盛の次男）は20歳で必勝五ヶ条の技を会得し、23歳で諸国武者修行に立出、各地での真剣勝負を経て流儀を集大成した。そして、三代目久吉（久勝の長男）が諸国武者修行によって兵法自在の奥義を極め、腰廻小具足をはじめとする流儀を完成させるに至った。

なお、八代目久愛の遺志により、嫡男藤十郎（久種）が分家して相伝家を設け、流儀の業形と血脈が絶えるのを防ぐ措置が講じられた。そして、創流以来490年を経た今も、流儀の技と心が一子相伝により連綿と継承されている。

系譜

流祖 竹内中務大輔久盛—二代目 竹内常陸介久勝—三代目 竹内加賀介久吉—四代目 竹内藤一郎久次—竹内藤二郎久政—竹内藤三郎久重—竹内藤四郎久孝—竹内藤五郎久愛—竹内藤六郎久種—竹内藤七郎久守—竹内藤八郎久光—竹内藤九郎久博—竹内藤十郎久武（本名・竹内武夫）

流儀の特徴

竹内流は「捕手腰廻小具足」を中核とする総合武術である。なかでも、小刀を使う小具足組討と羽手と呼ばれる素手の組討は代表的な業形である。小刀は一尺二寸前後の脇差・鑑通・前差を常

用するが、その奥義は袋竹刀を使う稽古から小木刀や真剣を使う修練の体系的な積み重ねに隠されている。羽手は殺穴・急所への当て身を第一とし、これに続いて投げ技や留め技を展開する。いづれも攻撃してきた相手を生け捕りにするのが特徴である。

なお、竹内流の稽古は竹内家が代々相伝している伝統的な業形であり、控（二代目制定）では業を試すことは仕間敷き事とされている。また、三つ指の札や目付などに独特の作法がある。

演武者

師範 竹内藤十郎 師範代 竹内 秀将
師範代 竹内 勢至

演武内容

脇差落手 連続で留めをはずして逆転を図る小具足必勝技。
離 相手の力を利用して組み伏せる小具足冒頭の技。
清見 紅の目付けで左脇を留めて残心、目録第二の捕手。
右之手取 小刀を持つ右手を捕る、小具足裏の技。
大殺無外 抱えついた敵を投げて留める、小具足裏の技。
切落 腕を固めてしまふ捕手の特徴的な留め技。
負投 急所への当て身の後で投げ放ち、残心の心得。
紅葉狩 手を捕る回転必勝技で捕縄と連結。
大押 留めを経て迅縄で生け捕り、捕縄は秘伝。

活動状況

全国規模の古武道大会に参加演武するほか、岡山県古武道連盟主催の古武道祭には門人一同が毎年参加演武している。また、フランスやオランダ、ロシアでの海外武道交流、天皇陛下御即位20年奉祝・財団法人日本武道館開館45周年記念「日本武道祭」での演武、世界柔道選手権東京大会での「柔術の源流・竹内流」の特別披露、地方青少年柔道錬成大会模範演武など、多彩な活動を行っている。本部道場（相伝家稽古場）では、必要に応じて入門講座・教養講座・特別講座を開設している。

稽古場及び支部

なお、DVD『竹内流捕手腰廻小具足』柔術の源流の技と心を学ぶ（BABジャパン）が刊行されている。

○本部道場（相伝家稽古場）

〒709-3104 岡山市北区建部町角石谷1131

・竹内流武術社本部道場

毎週火曜日 午後7時半～

希望や必要により特別講座などを開設

（電話やEメールで日時・内容を予約）

Eメール take-pro@pol2online.net.jp

○支部（支部道場）

・竹内流岡山道場（岡山市）

・竹内流福山道場（広島県）

・広島大学古武道部

・竹内流東広島道場（広島県）

・岡山理科大学古武道部

・吉備高原学園高校古武道部

文化財指定

○道場一帯が『竹内流発祥の地』として岡山県指定史跡（昭和51年）になっている。



沖縄剛柔流武術



代表
東恩納盛男

〒900-0013
沖縄県那覇市牧志3-22-42
☎(098) 864-1673

抱負

第45回日本古武道演武大会に参加を許され、長い歴史と伝統を合わせ持つ全国の優れた古武道の継承者である高名な先生方とともに本日、日本武道館で演武できますことは、大変名誉であり光榮に存じます。日本武道館・日本古武道協会に心から感謝申し上げます。コロナ禍に負けないよう武道的気魄で、本日は精一杯演武を致します。

由来

沖縄剛柔流は宮城長順（1888〜1953）を流祖とする沖縄を代表する流派のひとつである。

剛柔流以前は那覇手と呼称され、那覇手を代表する武術家が



東恩納寛量でその高弟が宮城長順である。剛柔流は旧琉球王府の清国往還船船頭東恩納親雲上寛用の四男東恩納寛量（1853〜1915）が1867年（慶応3年）2月琉球王府の承認（保証人吉村御殿朝明）を得て、私費留学生として福建省福州へ渡り、福州学舎での3年間の勉学期間を含め15年間同地に留まって南派少林拳の達人リュウリウウコウ師より朝夕厳しい指導を受け、奥伝の技法を習得し、帰国後、その技法を琉球古伝の「手」と整合せしめ、沖縄独特の技法体系を沖縄伝統空手として確立したときに始まったものである。

沖縄剛柔流は「剛柔吞吐」といわれ、攻防の技はすべて呼吸法で極まり、その呼吸法の鍛錬型は剛の「三戦」と柔の「転掌」という基本型がある。その三戦と転掌で徹底的に呼吸法を練り、呼吸とともに心身を鍛えるのである。体力のない人には伝統器具でもって体力づくりを行い、攻防の技と強靱な精神と体力を向上させるために型の練習を徹底的に反復し、そして武道的気魄と人格を完成させるのが目的である。

系譜

宮城長順―宮城安―東恩納盛男

演武者

東恩納盛男 蔵元雅一

演武内容

型

テンシヨウ（転掌）
カキエー（靠基）

活動状況

稽古日

一般の部 月・土 午後8時〜10時
少年の部 月・水・金 午後7時〜8時

壮年の部 火・木・日 午後6時半〜8時
日本国内合宿（8月）・ヨーロッパ合宿（7月）・国際合宿（11月）・他各国合宿六ヶ所余
年間行事

現在沖縄を中心に全国的に普及発展するよう各地区で8月に合宿を行う。

また、7月にはヨーロッパ諸国ならびに近隣諸国が集まり、500〜700名規模の合宿を行っている。沖縄総本部では、国際指導者講習会を2年に一度10月に開催し、各国支部長ならびに6段以上の高段者を集め、正しい伝統技術の修得に努めている。

また、4年に一度開催する世界武道祭には世界各国から会員700名余が参加し、沖縄伝統文化と技術研鑽を通して国際友好親善を深めている。

2016年7月に沖縄で開催された第7回世界武道祭には、世界40余カ国から会員の1100名余の参加を得た。

稽古場及び支部

○沖縄総本部 東恩納道場

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志3-22-42

☎(098) 864-1673

国内支部

東京支部・神奈川支部・宮城県支部・千葉県支部・大阪府支部・兵庫県支部・愛知県支部・長崎県支部・愛媛県支部・滋賀県支部

海外支部

ヨーロッパ（十五カ国）・アジア（四カ国）・オセアニア（四カ国）・南北アメリカ（十カ国）・旧ソ連（十カ国）・南アフリカ・アンゴラ・スロバキア・ポーランド・アイスランド・ナイジェリア・アラブ首長国連邦

ほうきりゅういあいじゅつ 伯耆流居合術

抱負

第45回日本古武道演武大会が盛大に開催されることをお喜びすると同時に当流が今大会に参加させていただけることに感謝いたします。一昨年より始まった新型コロナ禍の中、当流もまた以前のような稽古を行うことができずにおりました。しかしながら門人一同可能な限り稽古の流れを途絶えさせぬように修練を重ねてまいりました。まだまだ修練不足の身ではありますが精一杯演武させていただきます所存であります。

由来

当流は、伯耆流居合術と称し、始祖・片山伯耆守久安は竹内流竹内中務大夫久盛の弟で、居合術中興の祖といわれる林崎甚助の伯父松庵より一子相伝の秘大刀十八刀を相伝されたという。戦国時代末（文禄5年正月）京の愛宕社に祈り、貫の一字を夢みて明悟した。故に一貫流と称したが、一般には片山伯耆流という。しかし抜刀伯耆流、真流、神流とも称したようである。

久安は、関白秀次に召され、営中に伯耆流の真価を説き、次いで秀頼が入門。その時、豊臣一族が師事した。さらに慶長15年、時の帝の勅諭により召されて太平の祈禱をし、極意、磯の波の一刀を天覧に入れ、従五位下伯耆守に叙せられた。

安永5年、肥後藩の星野角右衛門が防州に赴き、3代片山利介を訪ね流儀一切の筋を正し帰国、伯耆流は完全に星野家に伝承された。

系譜

流祖
片山伯耆守藤原久安―片山伯耆守藤原久隆―片山利介藤原久義―星野角右衛門実員―関郡馬経貴―片山友猪藤原久豊―星野龍介実寿―星野如雲実直―片山本蔵藤原久寿―星野九門実則―星野龍太実重―星野宣敏実昭―加納武彦

財間俊一郎
大窪敏明

流儀の特徴

当流の正面斬撃は、腹部まで斬り下ろす。
「居業・立業」共に近間の攻防が多い。
残心時の「臥龍の構」は、独自の構である。

演武者

○修道館道場

大窪 敏明・桑波田秀祐・井上優一郎

○北武会

大田 光俊・河野 清弘

演武内容

・居業

向之太刀

裏之勝

小手切

切付

抜留

突留

膝詰

胸之刀

左右之敵

・立業

追掛拔

円波

相合

逆波

浮舟

返抜

向詰

切先返

四方詰

・北武会

剣術五本



代表

大窪 敏明

稽古場及び支部

○本部道場（修道館道場）

〒660-0892 尼崎市東難波町4-17-1

☎（06）6482-0135

稽古日時 日・金曜日 午前10時

年6回 研修会（稽古後）

年2・3回 竹・巻藁による刀筋試し

○支部 伯耆流北武会



楊心流薙刀術

ようしんりゅうなぎなたじゅつ

抱負

「柳のごとくたおやかにして肉を切らせて骨を砕く」の極意のもと、先人の築き上げた伝統を学び、心身を磨き上げるべく日々稽古を行っております。近年の新型コロナウイルスという経験したことのない状況に置かれ、稽古を中止せざるを得ない時期もありましたが、大会出場を目標に頑張ってきました。本大会開催に伴う関係者の皆様の多大なるご尽力に感謝し、日頃の成果をご覧いただけるよう、精一杯の演武に努めさせていただきます。

由来

筑後柳河藩御止流楊心流薙刀術は、天正15年（1587）、豊臣秀吉九州平定の時、島津・大友氏の戦いの功績により、九州柳河藩（現福岡県柳川市）二代目藩主となった立花宗茂公が、秀吉没後の関ヶ原の戦いで大阪方に与して敗れ、奥州棚倉（現福島県棚倉町）に蟄居した折、警護の士として従った、秋山四郎兵衛によつて創始された。流祖・秋山四郎兵衛についての記録は残されておらず、生没年は明らかではないが、口伝によれば剣聖塚原卜傳（1490～1571）とほぼ同時代頃で、卜傳の晩年期の誕生とも言われている。

元和6年（1620）宗茂公が20年ぶりに再び柳河藩主に戻った際、正式に柳河藩の御止流となり、城に仕える御殿女中らの護衛武術となった。

その継承は、一子相伝の流派が多くある中、実力によるものとし、薙刀を中心に継承されてきた。

女性が宗家に選ばれた十二代鶴飼柳子の代に、楊心流薙刀術は九州柳河から広島県呉市に渡り、流祖よりの命脈は、当代小山宜子によって伝え継がれている。

系譜

始祖・天真正秋山四郎兵衛―大江千兵衛―三浦定右衛門―土肥新蔵―堀田甚内―堀田孫右衛門尉―星野角右衛門―星野龍内―星野平右衛門―調琴之介―松野清三郎―小山（旧姓 鶴飼）柳子―小山宜子

流儀の特徴

御殿女中がいつ、いかなる攻撃を受けても即座に対処した姿が現在も受け継がれており、振り袖着物姿に襷掛けで白足袋を着用し、襷や鉢巻きは包帯に代用するため、布を縁取りしないものを使用している。変幻自在華麗に七十余りの技を操り、「柳の如くたおやかにして肉を切らせて骨を砕く」の極意をもって敵に対処する。

薙刀のほか、剣・半棒・鎖鎌・長槍・短槍・柔を用いる総合武術であった。

演武者

第十三代宗家 小山 宜子

内藤真由美

賀谷 純

竹内 梨奈

川原 陽子

川崎 良平

和泉 実悠

沖廣 未歩

高田のぞみ

活動状況

厳島神社奉納 親と子の武道演武大会

広島教育祭武道大会

その他各種演武大会及び奉納演武を行っている。



第十三代宗家

小山 宜子

稽古場

呉市総合体育館（オークアリーナ） 毎週土曜日
清水ヶ丘高等学校 毎週火・金曜日

〒737-0001
広島県呉市阿賀北6-3-1
☎（0823）71-1746



りゅうきゅうおうけいひでんもとぶどうんでい

琉球王家秘伝本部御殿手



第十四代宗家

本部 朝正

〒597-0015
大阪府貝塚市堀2-22-6
☎(072) 431-2907

抱負

本部御殿手では、突き蹴りを主体とした体術を基礎とし、攻防においては素手においても武器を扱う場合でも、入身しての交叉法による攻撃を心がけます。それゆえ、敵の攻撃に対しては受けるのではなく、体捌きでかわしながら同時に攻撃を仕掛けるようにします。多人数戦に際しては、歩法を特に重視し、絶えず歩み続けながら立ち止まることなく、敵に対処するように致します。こうした諸点を演武において披露できればと願っております。

由来

当流は、琉球王国第二尚氏王統第十代尚質王の第六王子、尚弘信・本部王子朝平を始祖とする琉球王族・本部御殿に伝えられてきた武術である。「御殿」とは王族の家柄を意味し、「手」とは武術の意である。王朝時代、本部御殿の歴代当主は王位継承権を有する王子、按司の身位にあり、また武術に優れ代々本部御殿手を継承してきた。廃藩置県後は、第十一代当主・本部朝勇が継承者であった。弟には空手家として有名な本部朝基（本部流開祖）がいる。朝勇は息子達への継承を望んだが、王国滅亡後の家運の衰退とともに息子達は本土へ移住してしま



系譜

継承が困難になった。このため、弟子・上原清吉を通じて和歌山に住む次男・朝茂に伝えたが、先の大戦で朝茂が死去したため、戦後ふたたび甥の本部朝正（朝基嫡男）に伝授され現在に至っている。

第十代尚質王^一尚弘信・本部王子朝平^二本部按司朝完^三本部按司朝智^四本部王子朝隆^五本部按司朝恒^六本部按司朝救^七本部王子朝英^八伊野波按司朝徳^九本部按司朝章^十本部按司朝真^{十一}本部朝勇^{十二}上原清吉^{十三}本部朝茂^{十四}本部朝正

流儀の特徴

本部御殿手では、突き蹴りを主体とした体術の稽古から始まり、次第に相手を傷つけることなく無抵抗にしようとする取手（トウイテイ）と呼ばれる投げ技・関節技の修業へと進む。取手の稽古と平行して各種武器術も併せて修業する。武器術では、琉球王族が所持していた刀剣類のほかに、箆、櫓、鳥刺し棒など、日常道具も武器として使用する。このように剛と柔の技を積み重ね修業していく、やがて奥義である武の舞「舞手（モイテイ）」へと至る。

演武者

本部 朝行 宗家代理・中宮 誠 達士八段
本部 直樹 教士七段・加藤 慎一 教士七段
片山 修 教士七段・石崎 順二 五段
勝沼 悠 五段・本部 朝豊 四段・鳥海 真 四段
川田 竜也 三段・鶴蒔浩太郎 二段

演武内容

素手相対動作
武器相対動作

活動状況

大道館（総本部）では、週三日の普段の稽古の他に、毎年国内外での各種演武会への参加や講習会・セミナーの開催等の活動を通して普及に努めている。各支部では普段の稽古の他に、それぞれ空手道選手権大会や地元の古武道大会などに出場・参加している。

稽古場及び支部

▽大道館（総本部）

大阪府貝塚市堀2-22-6

▽支部

国内9支部、海外8支部



琉球古武術

抱負

第45回日本古武道演武大会の御開催をお祝い申し上げます。聖地日本武道館において開催されますこの機会を賜わり、名譽と喜びを感じております。歴史を重ねる本大会が、より多くの斯道に携わる者に最高の自己研鑽の場が与えられることに感謝いたします。緊張と期待の入り混じる中、一途に演武に臨む次第です。よろしくお願い申し上げます。



由来

琉球の古武術は徒手空拳の空手と陰陽一体両輪の関係にあり、琉球古武術の要素と技法を奥深く秘蔵し、武器毎に特色技を包含している。現存する型の大部分は200年から数百年前後の父祖達人の足跡である。

原始集落の時代を経て歴史に現れ始めたのは今から700年程前のことである。琉球の南山、中山、北山の三山が割拠した時代から、それらが統合された100余年の間の戦いに使用された武器の使用法もあつたといわれている。

時代の変遷を経過して古武術が衰微していることを憂慮した屋比久孟伝は、大正初期、琉球古武術研究会を興してその振興に努力した。その門下の平信賢が集大成した40余の型と、平信賢の最高直門井上元勝が師の命により確立した各武器の技術体系を併せ保存振興し、現在に至る。

系譜

(実戦時代) — 添石 — 知念志喜屋仲 — 油屋山城 — 山根知念 — 屋比久孟伝 — 平信賢 — 井上元勝 — 井上貴勝

流儀の特徴

徒手空拳とともに琉球の武術を形成するものであり、八種の武器に特色がある。特に棒術は伝来の各型の中で白眉のものである。現在、8種の武器を使用する40余の型とその根本技術を中核とし、編成した各武器の基本技、各種組手型の技術体系を併せて保存する。

演武者

師範 増淵 淳一 五段 梅田 寛
師範 高橋 淳也 五段 小口 卓



琉球古武術保存振興会会長
井上 貴勝

演武内容

棒術の型 周氏の棍小 棒術の型として現存する20余種の型のうちの一つである。

棒術・連続分解組手 型の内容を対棒による連続組手で説明する。
トンファー術・分解組手 型の内容を対棒による3本の組手で説明する。

サイ術・分解組手術 型の内容を対棒による3本の組手で説明する。

鎌術・型 鎌川の大 鎌術の型として現存する三種の型のうちのひとつである。徒手でいえば掛け手、くり手、ひじ当て系統の技法が含まれている。

活動状況

総本部を中心に国内外各支部等で活動。国内外会員を対象とする国際セミナー、研修会、講習会等の開催、その他国内外の演武会参加等、正しい琉球古武術の保存と振興に努める。

稽古場及び支部

○豊栄稲荷神社内 蔵脩館道場

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-4-7

☎(03) 5477-11020

火曜日(第1週を除く) 午後6時30分開始

ホームページ <http://www.ryukyukobujutsuhozonshinkokai.jp>

○支部

清水、富士宮、小平、藤沢、和歌山県、静岡、小島、春清館、川口、市川、いわき、八王子、桜美林大学古武道部、オランダ、英国、南アフリカ、フィンランド、カナダ、スウェーデン、ロシア、ギリシャ、デンマーク、ドイツ、米国、イスラエル等20ヶ国

〒154-0016
東京都世田谷区弦巻3-24-12 504
☎(03) 5477-11020



第 12 回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会

21 流派が伝統の技を披露



第 12 回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会が令和 3 年 10 月 10 日、武神・武甕槌大神を祀る鹿島神宮で、2 年ぶりに開催されました。今回は出場流派を 21 流派に絞り、コロナ対策を講じて行われました。大会の様子は日本武道館公式 YouTube チャンネルでご覧いただけますので、是非ご覧ください。



日本古武道協会

活動紹介

日本古武道協会の活動を紹介し
ます。

組織

昭和54年2月17日、日本武道館の
提唱により、古武道の中央統括機関
として「日本古武道協会」が発足し
ました。以来、日本武道館、加盟流
派の支援と協力を得ながら、古武道
の保存振興のため各種事業に取り組
んでいます。

役員

令和4年2月現在、会長は高村正
彦日本武道館会長、理事長は臼井日
出男日本武道館理事長が務めていま
す。

◎理事会・総会の開催

日本古武道協会では、正会員によ
る会員総会が、本会の重要な案件を
決定する議決機関です。理事会・総
会を年1回、5月末頃に開催し、前

年度の事業報告・収支決算と新年度
の事業計画・収支予算を審議・承認
しています。また、常任理事会と古
武道功労者表彰審議会を10月末に開
催し、日本古武道演武大会開催や古
武道功労者選考など、重要事項を審
議・決定しています。

◎事務局

日本古武道協会の事務局は、設立
当初から日本武道館内に置かれてい
ます。

◎加盟流派・会員

日本古武道協会の加盟流派は、令
和4年2月現在、全国各地に伝承さ
れている77流派に及んでいます。

日本古武道協会の会員は、各流派
の宗家・代表者を正会員とし、各流
派の修業者や正会員と師弟関係にあ
る者を準会員とし、それに賛助会員
を加え、現在の総会員数は9百名を
数えます。

事業

日本古武道協会は、「会員の融和、
協調をはかるとともに、我が国固有
の文化財として、古武道を保存・振

興すること」(会則第3条)を目的に、
日本武道館の協力を得て、古武道の
保存・継承のための各種事業を展開
しています。



日本古武道協会設立の契機となった記念すべき第1回大会（昭和53年2月19日）



昭和54年2月17日、古武道の中央統括機関として「日本古武道協会」が発足



第12回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（令和3年10月10日）。社殿前に設置された特設演武場で演武を奉納

◎日本古武道演武大会

日本古武道演武大会は、日本武道館と日本古武道協会の共催により、国庫補助事業として、毎年2月に日本武道館で実施しています。

日本古武道演武大会の開催は、日本古武道協会の活動の中心となる事業であり、全国各地に伝わる古武道各流派の中から厳選した35流派が日本武道館の大道場に会し、古武道の神髄を披露する、名実ともに国内最大規模を誇る古武道大会です。

第1回大会は日本武道館の主催で昭和53年2月19日に開催され、日本古武道協会設立の契機となりました。

◎鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会

平成22年から、武の神様である「武甕槌大神」を祀る鹿島神宮を舞台に、鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会を、日本古武道協会と日本武道館の共催で開催しています。「会員の術技向上と親睦」を目的に、毎年10月に30流派程度が参加して、1泊2日の日程で行われています。開催にあたっては、鹿島神宮と地元鹿嶋市の多大な協力を得て実施しています。

◎海外派遣事業

日本武道館が毎年、国庫補助事業として実施する海外派遣事業に、古武道2、3流派を派遣し、古武道の神髄を海外で披露しています。

◎古武道記録映画製作への協力

昭和53年度から昭和63年度にかけて、日本武道館が実施した「古武道記録映画」の保存事業に協力し、日本各地に伝わる古武道84流派の映像を16ミリフィルムに収録しました。現在、日本武道館でDVDの貸し出し（教育・関係団体は無料）を行っています。

◎古武道功労者表彰

永年、古武道の保存振興に寄与し、特に顕著な功績を挙げた個人の功績を顕彰するため、平成22年度に制定した「古武道功労者表彰規程」に基づき、加盟流派の中から毎年2名を「古武道功労者」として表彰しています。

◎広報活動

広報活動として、「日本古武道協会会報」を年1回発行し、会員間の連絡・協調を図っています。また、

日本武道館発行の月刊「武道」誌上で、協会や加盟流派の活動紹介を行うとともに、ホームページを開設し、歴史、組織、事業、加盟流派の紹介など、協会の活動を国内外に広く発信しています。

◎地方青少年錬成大会での古武道模範演武披露会

日本武道館と全国都道府県立武道館協議会、9武道の各道連盟が共催して実施している「地方青少年武道錬成大会」（国庫補助事業）の開催にあわせて、「古武道模範演武披露会」を毎年2、3カ所程度で実施しています。

大会に参加する少年少女に、全国各地に伝わる郷土の文化としての古武道に触れてもらい、古武道への理解を深めてもらうことで、古武道の保存・継承の一助とするとともに、現代武道の更なる発展を図ることを目的としています。少年少女が本物の武器・武具に触れ、古武道の技を体験する貴重な機会となっています。

◎地方古武道大会の後援及び開催助成金交付

地方における古武道の普及振興を

推進するため、日本古武道協会加盟
流派が主催する都道府県単位以上の
地方古武道大会に対して後援する
とともに、開催助成金を交付してい

ます。
これまで開催実績のある大会は次
のとおりです(出場流派・会場・時期)。

①東日本古武道交流演武大会(戸田
派武甲流薙刀術他計12流派、東京
都・虎ノ門金刀比羅宮、6月頃)

②鹿島神宮奉納古武道演武大会(鹿
島新當流剣術他計11流派、茨城県・
鹿島神宮、6月)

③西日本古武道大会(円心流居合据
物斬剣法他計17流派、大阪府・大
阪市立阿倍野スポーツセンター、
6月)

④岡山県古武道祭(竹内流柔術腰廻
小具足他計13流派、岡山県・岡山
武道館、11月)

⑤熊本県古武道演武大会(雲弘流剣
術他計18流派、熊本県・熊本武道
館、3月)

⑥ひたちなか市古武道演武大会(無
比無敵流杖術・為我流派勝新流柔
術他計5流派、茨城県・ひたちな
か市松戸体育館、9・10月頃)

◎文化財指定促進

現在、加盟流派のうち19流派が県

又は市区町村から、無形又は有形文
化財・史跡などに指定されています。

日本武道館と日本古武道協会

では、古武道の文化財指定をさらに推
進するため、毎年3月に武道議員連
盟、日本武道協議会、日本武道館の
三者で開催している武道振興大会に
おいて、「武道の源流である一千数
百年の歴史を有する古武道の保存・
継承を図る」ため、「文化財保護法に
我が国が世界に誇る『古武道』の名
称を明記し、全国各地の古武道の文
化財指定が推進されるよう」に文部
科学省へ要望し続けています。

◇おわりに

日本古武道協会は設立以来40年余、
古武道の保存・振興を目的に、加盟
流派はもとより日本武道館、各武道
団体、国・文部科学省、そして全国
各地の古武道愛好者に支えられなが
ら各種事業を展開し、着実な歩みを
続けてきました。日本伝統の古武道
の明るい未来へ向け、本会加盟の各
流派の先生方、日本武道館、そして
日本古武道協会が三位一体となって
協力し、我が国が世界に誇る古武道
の保存・継承・振興がさらに進むよ
う努めてまいります。

天真正伝香取神道流剣術が 古武道流派から初の文化庁長官表彰

日本古武道協会加盟流
派の天真正伝香取神道流
剣術(飯篠快貞第20代宗
家)が古武道流派から初
の「令和2年度文化庁長
官表彰」の栄誉に輝きま
した。

文化庁長官表彰は、文
化活動に優れた成果を示
し、我が国の文化の振興
に貢献された方々、又は、
日本文化の海外発信、国
際交流に貢献された方々
に対し、その功績をたた
え文化庁長官が表彰する
ものです。表彰式は令和
2年12月17日、都内会議
室で開催され、表彰者・
団体が出席して厳粛に行
われました。式には飯篠
快貞第20代宗家が出席、
宮田亮平長官より表彰状
が手渡されました。

▶表彰を受ける飯篠快貞
天真正伝香取神道流剣
術第20代宗家

▼宮田長官を囲んで令和2年
度受章者全員で記念撮影



国際武道大学

体育学部 ◆武道学科（9コース） ◆体育学科（6コース）

千葉県勝浦市新官 841 TEL0470-73-4111 FAX0470-73-4148



月刊秘伝

毎月14日発売！

- A4変形判 ●148頁
- 定価1,000円(税込)
- 年間定期購読料 12,000円(税込)

本物を求める入門者、
稽古者、研究者のための
専門誌

世界の古武術から護身術、療術、
身体開発法にいたるまで、
多彩な身体技法と身体情報を
毎月お届けいたします！

古今東西の身体文化を
愛する方のための総合情報サイト

web秘伝

www.webhidden.jp

秘伝

検索



DVD 古武術 黒田鉄山 × 空手 中達也 **好評発売中**

神技の稽古会

(全二巻 柔術編、剣術居合編)



力では辿り着けない、
武術の極意がここに！

武術の道を真摯に探究し続ける
空手家・中達也師範が、自身の
武術観を変えた人と敬意を払う
古流武術家・黒田鉄山師範。
その黒田師範が考案する黒田
式訓練法を黒田師範自らの指導
の下、中師範が全二巻にわたり
体験していきます。

■指導・監修：黒田鉄山 出演：中達也 ■各巻 5,500円(税込)

BOOK **空手！** **好評発売中**

四大流派の神髄



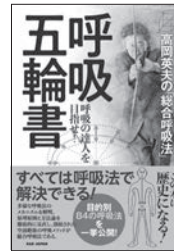
空手は一つではない
から奥深く、面白い！

柔道や剣道とは異なり、様々な
流派が存在する空手。
最強の徒手空拳を求め、4人の
流祖が完成させた術理体系の深
奥を知り、技に活かす！修行する
空手家はもちろん、競技空手の
選手も必読！

■「月刊秘伝」特別編集 ■A5判 ■188頁 ■定価1,760円(税込)

BOOK **呼吸法で解決できる！** **好評発売中**

呼吸五輪書



大反響御礼！
早くも重版決定！！

呼吸の達人を目指せ！！様々な目
的に応じて細分化されたメソッド
は、武術やスポーツでのパフォー
マンス・アップから健康や免疫
力向上、精神力や集中力を求め
る方まで、あらゆるニーズに対
応する！呼吸法ならこの1冊でコ
ンプリート！

■高岡英夫 著 ■A5判 ■336頁 ■定価2,200円(税込)

DVD 門弟7千人を誇った
江戸時代の一大流派 **好評発売中**

浅山一傳流兵法



名流からの実践的な
術理を学ぶ！！

江戸時代に隆盛を誇り、現在は、
剣・棒・杖・居合・鎌・体術など、
様々な武技が伝承されている「浅
山一傳流兵法」。明治期の警察
が採用したことで有名な、その
実践的な術理を第二十二世・関
展秀宗家が丁寧に解説。

■関展秀 指導・監修 ■53分 ■価格5,500円(税込)

BOOK あらゆる“戦う者たち”必見！！ **好評発売中**

武術の絶対力とは ゼロ化すれば必勝！



攻撃力を高める前に
すべきことがある！

なんでもない攻撃に最大威力を
宿す、なんでもないようで“奇
跡”な技法を一挙収録！鍼灸師
でもある武術家の著者が説く、
あらゆる手段を尽くして相手を
弱体化させ、技を“効く状態”
にしよう。まるで“盲点”だっ
た古武術技法を公開！！

■吉田朗 著 ■四六判 ■160頁 ■定価1,540円(税込)

BOOK 戦う刀匠 **好評発売中**

刀を究めればわかる 武の練り方



隠された秘訣は
刀にあり！！

刀匠、剣術家、合気道家、3つの顔
で武の真髄を見つめて続けた著
者が説く、あらゆる技を実効化
させる、極限的なコツと体の違い
方を伝授。刀術が求めるこれらの
原則を身につければ、あらゆる技
は“本当にかかる”ものになります。

■松葉國正 著 ■四六判 ■192頁 ■定価1,540円(税込)

DVD日本の古武道

日本武道館監修、日本古武道協会後援で昭和53年～62年に
制作された16mmフィルムの貴重な映像記録集をDVDで発売！

ラインアップは全96タイトル!! 古武術の技法研究・貴重な映像資料として最適！

- | | | | |
|--|--|---|--|
| <p>剣術 春取神道流剣術／柳生新陰流剣術／伝流
剣術／示現流剣術／鞍馬流剣術／小野派一刀流
剣術／北辰一刀流剣術／心形刀流剣術／津口派一刀
流剣術／直心影流剣術／兵法二天一流剣術／馬庭
念流剣術／一刀正伝無刀流剣術／天然理心流剣術
／野太刀自派流剣術／鎌井蛙流剣術／タイ捨流剣術
／神道無念流剣術／甲源一刀流剣術／一刀流中西
派流剣術</p> <p>柔術 大東流合気柔術／関口新心流柔術／本體楊
心流柔術／気楽流柔術／柳心介流柔術／起剣流
柔術／為勢自得天真流柔術／竹内流柔術／腰廻小
具足／心月無想柳流柔術／板心一流／高木流柔術・九</p> | <p>鬼神流棒術／天神真楊流柔術／淡川流柔術</p> <p>居合 田宮流居合／立身流居合／初実剣理方
一流甲冑流居合／伯耆流居合／新田宮流拔刀術／
鐘巻流拔刀術／林崎夢想流居合／関口流拔刀術
／円心流居合／堀物新／水崎流居合／無外流居合
／信流居合／貫心流居合</p> <p>体術・組討・拳法 荒木流拳法／諸貴流和術／
柳生心眼流鎖組打／柳生心眼流体術／荒木流軍用
小具足／長尾流鎖術</p> <p>槍術 佐分利流槍術／尾張貫流槍術／宝蔵院流高
田流槍術／一心流鎖鎖術／一角流十手術</p> | <p>武器術 二刀神影流鎖鎖術／根岸流手裏剣術／
直心流鎖鎖術／明府真影手裏剣術</p> <p>空手 和道流柔術拳法／糸洲流空手／琉球古武術
／本部御殿手古武術／沖繩の古武術</p> <p>水術 水府流水術／岩倉流水術／小堀流水術／臼
杵山内流水術</p> <p>高専柔道 歴史に生きる得意技編／寝技の真髄【
寝技における攻めと守り】／寝技の真髄【絞技・関節技
編】／寝技の真髄【抑込編】</p> <p>薙刀 天道流薙刀術／直心影流薙刀術／肥後古流
長刀／戸田派武甲流薙刀術／楊心流薙刀術</p> | <p>弓術 薩摩日置流腰矢／小笠原流弓馬術</p> <p>砲術 陽流砲大筒／森重流砲術／関流砲術</p> <p>棒術・杖術 神道夢想流杖術／竹生島流棒術／
無比無敵杖術／無辺流杖術</p> <p>日本古武道演武大会
第8回(昭和60年)／第20回(平成9年)／その他</p> <p>■制作・著作／財団法人 日本武道館
■販売／株式会社BABジャパン
■DVD各巻 10,780円(税込)</p> <p>※注：「琉球古武術」はVHSビデオのみの販売です。</p> |
|--|--|---|--|

Original Japanese video site for Budo and Bujutsu

BUDO JAPAN.com

Produced by BAB JAPAN Tokyo

Our site offers a choice of original Japanese videos by the greatest Japanese masters, a choice that has not been available before. It is a must for all martial art enthusiasts.

VISIT OUR WEBSITE BUDO JAPAN.COM FOR A VARIETY OF BUDO VIDEOS IN ENGLISH.

●Feature Articles You can read many articles about martial arts in Japan on BUDOJAPAN.com for free.	●Video on Demand You can easily discover many streaming videos by the greatest Japanese masters, available through Vimeo On Demand (VOD).	[Ryuji Shirakawa's Aikido] 63 min. Soft Movement and Kuzushi	[Naginata, the most powerful weapon] 59 min.
--	--	---	---

[Wado-Ryu Karate-Do] 104 min.
Ura-no-Kumite
The ideal Kumite combinations

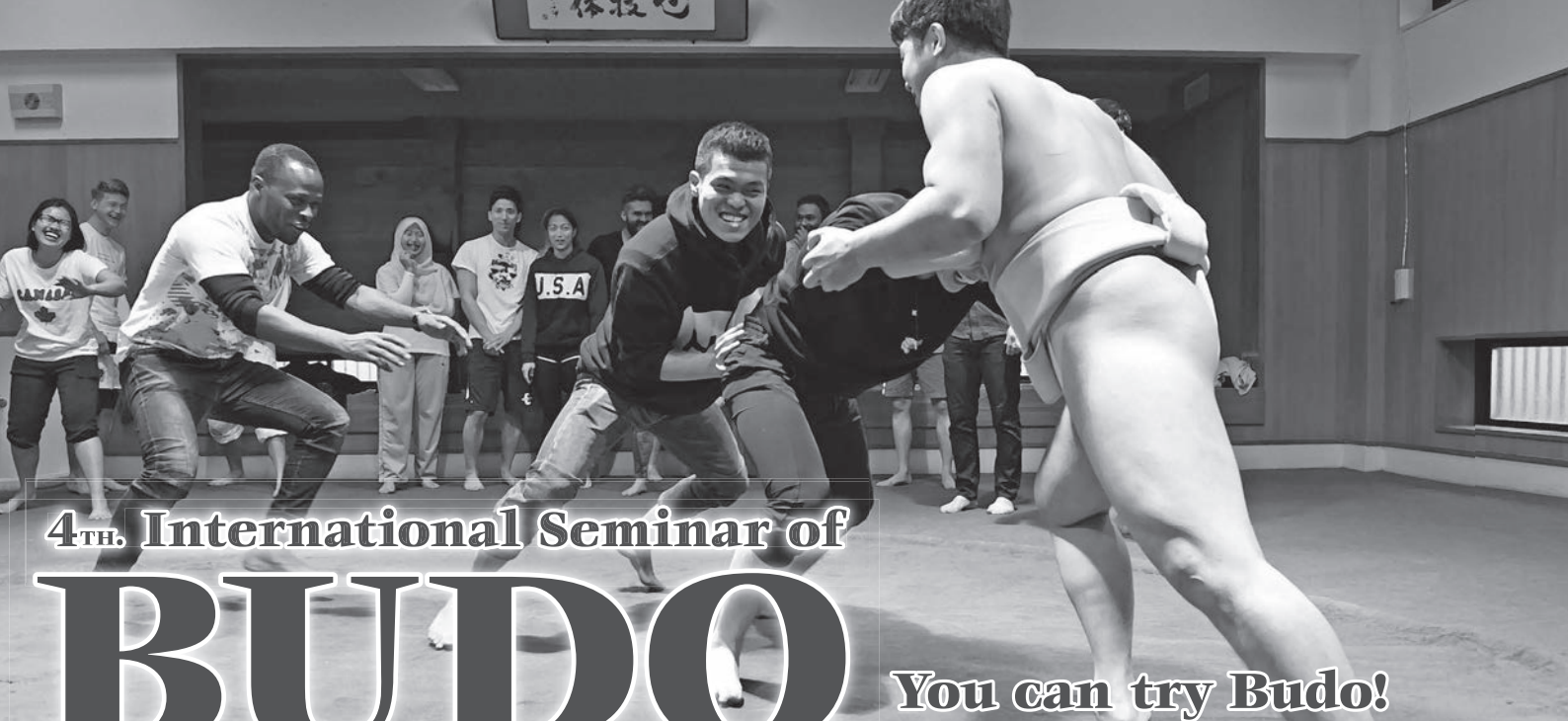
全国どこでも送料無料(カード払い等、先払いの場合)で配送いたします!! スマートフォンからも注文可能です!

購入方法 ○お手軽なお電話で(平日10:00-18:00) TEL: 03-3469-0135 ○HPから https://www.hidden-shop.jp/

○FAX: 03-3469-0162 (24時間)

(株)BABジャパン 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-30-11 4・5F

秘伝ウェブショップ 検索



4TH. International Seminar of **BUDO** **CULTURE**

for Foreign Exchange Students and Embassy Staff

You can try Budo!

To provide foreign exchange students and foreign embassy staff in Japan knowledge on the theory and techniques of budo, as well as its history and culture, through a wide range of lectures, together with practical experience in each of the nine modern budo arts. It is hoped that the seminar will contribute to the international understanding and development of budo, and foster international goodwill.

Dates: March 5 (Sat.) to March 6 (Sun.), 2022

Venue: Nippon Budokan Training Center

(582 Sawakura, Katsuura-shi, Chiba-ken 299-5231)

THE NINE MODERN BUDO ARTS



Jūdō

Jūdō was created by Kanō Jigorō in 1882. Kanō studied various styles of jujutsu, and investigated the principle of kuzushi (destabilising the opponent) and organised a rational system of techniques.



Kendō

Kendō is a martial way and sport where competitors wearing protective armour score points against each other by striking designated body targets with bamboo swords.



Kyūdō

Kyūdō is the martial art of Japanese archery in which practitioners shoot a stationary target. The ultimate objective of kyūdō is to subdue one's own ego. Archers give themselves completely to each shot, but do not react to success or failure.



Sumō

Sumō is a Japanese form of wrestling rich in history and tradition which has now become a fast-paced and vigorous modern sport practised in many countries around the world.



Karatedō

Karatedō is an unarmed martial art originating in Okinawa. It was devised as a means of self-protection against an attacker by utilising every part of the body to strike, kick, and punch.



Aikidō

Aikidō is a modern martial way which was created by Ueshiba Morihei. He borrowed movements from traditional martial arts as well as adding a spiritual dimension.



Shorinji kempo

Shorinji Kempo was founded in Japan in 1947 by Doshin So as a form of humanistic education, with the goal of developing individuals who are able to create a better society.



Naginata

The naginata is a glaive-like weapon with a curved, single-edged blade fixed to one end. The weapon itself has a history in Japan spanning roughly 1000 years, and gave rise to a fighting art that managed to adapt to the times throughout its long history.



Jūkendō

Jūkendō is a martial way based on fighting with bayonets. Practitioners wear armour and compete with wooden rubber-capped replica-rifles by making thrusting attacks to the opponent's chest, side, throat, hand, and shoulder.

■ Language of Seminar

Lectures/Instruction will be conducted in Japanese and English.

■ Criteria for Participation

- (1) Foreign exchange student in Japan.
- (2) Foreign embassy or consulate staff in Japan.
- (3) Foreign budo practitioner recommended by one of the budo federations.

Participants must meet one of the above criteria to be eligible. (Experience in budo is not necessary.)

■ Number of Participants: 30

■ Participation Fee: Free

■ How to Apply

Applicants should fill in the application forms provided and send it to the address below, or send the required information by email.

■ Application Deadline

Friday January 28, 2022 *Registrants will be sent a letter of confirmation after the cutoff date.

■ Participant Assistance

All accommodation costs and meals over the course of the seminar will be provided by the Nippon Budokan.

* Participants are expected to pay their own travel expenses to and from the seminar.



For More Information

- Organizer: Nippon Budokan Foundation
- Sponsor: Japan Sports Agency, Ministry of Foreign Affairs, Japanese Budo Association
- Assistance: International Budo University



公益財団法人

日本武道館



小笠原流の伝書を読む

弓馬術礼法小笠原道場三十一世宗家 小笠原清忠 著

四六判・上製・322頁・定価2,640円

鎌倉時代から江戸時代にいたる武家礼法で、弓術、弓馬術と結びついた小笠原流。伝書や教歌の原文を記して、その教えが現代にどう活かされているのか具体的事例を挙げながら解説。「礼に始まり礼に終わる」武道修業者必読の一書。



大東流合気柔術 琢磨会 その技法と合気之術

大東流合気柔術琢磨会総務長

森 恕 著

四六判・上製・232頁・定価2,200円

中興の祖・武田惣角から久琢磨に、そして森恕に受け継がれた神秘の武術。小手を駆使した関節技・急所技から、抜き合気・入れ合気・触れ合気・前肩詰め合気などの合気之術まで、今まで門外不出とされてきた数々の技法の神髄と極意を、琢磨会総務長が明らかにする。



平法 天真正伝香取神道流

天真正伝香取神道流師範 大竹 利典 著

四六判・上製・296頁・定価2,640円

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。



マンガ・日本武道風土記 (上・下巻)

漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう 著

上巻B5判・248頁・定価1,100円/下巻B5判・248頁・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ね、ペンとスケッチブックを携えて徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の史料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。遠くへ足を運べない今、マンガの世界で日本各地を巡ってみては。



編集・発行 公益財団法人 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

南房総かつうら NIPPON BUDOKAN TRAINING CENTER

日本武道館研修センター

耐震補強工事平成13年実施

当センターは公益財団法人日本武道館の運営です。
安価な料金で、良質なサービスをご提供いたしております。

武道を修練する人たちの道場施設をはじめ、広く一般の皆様にもご利用いただける施設です。柔・剣道などの武道大会や合宿はもちろん、文化系サークル合宿、社員研修や講習会、中学・高校の課外活動、各種セミナーや会議・会合、グループや家族旅行などのご宿泊にも最適です。

また、ご予算に応じて、特別料理(舟盛り・寿司盛り)も承っております。

皆様のご利用を心よりお待ちしております。



大道場…1000畳の広さ(分割使用可)冷暖房完備



弓道場…9人立ち、男女更衣室、冷暖房、男女トイレ完備



第1研修室…武道の稽古にも使用可



相撲道場…シャワー・トイレ完備



宿泊室A(和室・定員5人)10部屋



宿泊室B(洋室・定員7人)30部屋



ロビー



食堂 ビュッフェ形式で食べ放題! (夕食同一料金で屋外バーベキューに変更可)



●武道を目的とした宿泊(1泊夕食・朝食付き)

区分	宿泊室A	宿泊室B
大人	7,040円	6,490円
小・中学生 幼児無料	6,710円	6,270円

・幼児の室料は無料です。・昼食料金…990円
・食事はビュッフェ形式。
・宿泊利用での施設使用料は無料です。ただし、宿泊を伴わない場合は、別途使用料金を頂きます。

●武道目的以外の宿泊(1泊夕食・朝食付き)

区分	宿泊室A	宿泊室B
大人	7,370円	6,930円
小・中学生 幼児無料	6,820円	6,600円

武道の合宿をはじめ、文化系(書道等)、スポーツの合宿、研修・講習会、その他会議、パーティー(式典等)、サークル、個人の方などに幅広くご利用いただいております。

●お問い合わせ・ご予約・お申し込み先は…

日本武道館研修センターまで

〒299-5231 千葉県勝浦市沢倉582

TEL 0470-73-2111 FAX 0470-73-2819

日本武道館ホームページ又はGoogleマップで館内の施設が確認できます。

日本武道館研修センター



日本古武道協会加盟流派

(宗家・相伝家・流派代表者・連絡先)

諸賞流和やわら

第六十八代宗家 高橋厚吉

〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通六一五一—一〇〇六
☎(〇一九) 六五一—九九〇二

為我流派勝新流柔術

第十三代宗家 根本憲一唯之

〒311-1204 茨城県ひたちなか市平磯遠原町三一—二
☎(〇二九) 二六三—六九一七

氣樂流柔術

第十九代宗家 飯島文夫

〒379-2106 群馬県前橋市荒子町一一七〇
☎(〇二七) 二六八—二七六〇

天神真楊流柔術

師範家 久保田修弘

〒352-0033 埼玉県新座市石神五一—一八
☎(〇四二) 四五六—八六八八

天神真楊流柔術

第七代宗家 柴田孝一

〒350-1137 埼玉県川越市砂新田一一六—四八
☎(〇四九) 二四二—七〇九八

長谷川流和術やわら

第十七代宗家 桑原 巡

〒343-0113 埼玉県北葛飾郡松伏町ゆめみ野一一四—一二
☎(〇四八) 九九二—三〇九六

大東流合気柔術

本部長 近藤昌之

〒130-0015 東京都墨田区横網一一二—三一
☎(〇三三) 三五一—七二四四六

起倒流柔術

代表 井上佳郎

〒776-0014 徳島県吉野川市鴨島町知恵島一二七六—六
☎(〇八八三) 二六—〇一五三

大東流合気柔術 琢磨会

総務長 小林 明彦

〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋一一五一—四
メゾンドール高麗橋六〇五
☎(〇六) 六二二—三三七〇〇

澁川流柔術

十二世師範 吉野明嗣

〒553-0007 大阪府大阪市福島区大開二—五—八
☎(〇六) 七一六—四〇四四二

心月無想柳流柔術

宗家十二世 岩永源三郎正義

〒660-0892 兵庫県尼崎市東難波町四—一七—一
☎(〇六) 六四八—二〇一四八

本體楊心流柔術

第十九代宗家 井上恭一

〒663-8233 兵庫県西宮市津門川町二—二—五
☎(〇七九八) 三五—一一八〇

高木流柔術・九鬼神流棒術

第十九代宗家 楠原康正

〒661-0982 兵庫県尼崎市食満二—一三—一五
☎(〇八〇) 三八〇—二四八四

関口新心流柔術

第十三代宗家 関口芳夫

〒640-8413 和歌山県和歌山市島橋東ノ丁一一二〇
☎(〇七三) 四五五—七〇二一

竹内流柔術 腰廻小具足

相伝家十三代目 竹内藤十郎

〒709-3104 岡山県岡山市北区建部町角石谷二—三—二
☎(〇八六) 七二二—三三八五

竹内流柔術 日下捕手開山

第十四代宗家 竹内藤一郎久宗

〒709-3104 岡山県岡山市北区建部町角石谷二—二—四
☎(〇八六) 七二二—三三八〇

澁川一流柔術

代表 森本邦生

〒738-0034 広島県廿日市市宮内一四八〇
☎(〇八二九) 三八—三四四一

卜傳流剣術

第十二代宗家 小山秀弘

〒036-8335 青森県弘前市春日町一
☎(〇一七二) 三三—一六〇四五

當田流剣術

十九代宗家 神 亮太

〒036-8354 青森県弘前市上鞆師町二—一—一
Mac弘前コート二—一〇四
☎(〇九〇) 四四七—二〇七八

溝口派一刀流剣術

代表 長沼悟詮

〒965-0817 福島県会津若松市千石町三—四—三—三〇二
☎(〇二四二) 八八—〇〇九〇

北辰一刀流剣術

代表 小澤 智

〒310-0062 茨城県水戸市北見町二―二六
☎(〇二九) 二二二―四七二九

鹿島新當流剣術

第六十五代宗家 吉川常隆

〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中一―三―三九
☎(〇二九九) 八二―八四二一

甲源一刀流剣術

第十世宗家 逸見義清

〒368-0201 埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄一六七
☎(〇四九四) 七九―〇七七九

天真正伝香取神道流剣術

第二十代宗家 飯篠快貞

〒287-0017 千葉県香取市香取一八二七
☎(〇四七八) 五七―三一六一

立身流兵法

第二十二代宗家 加藤 紘

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央四―八―八―六F
☎(〇四三) 二二二―〇四四八

鹿島神傳直心影流剣術

二代宗本部長 岩佐 勝

〒273-0003 千葉県船橋市宮本三―八―一七
☎(〇四七) 四三三―三〇五九

小野派一刀流剣術

第十八代宗家 矢吹裕二

〒155-0043 東京都目黒区東山三―一―一二
目黒東山ハイツ二―五二一
☎(〇三) 三七九―一六五八二

神道無念流剣術

代表 小川 武

〒204-0011 東京都清瀬市下清戸一―一七―四三―一八
☎(〇四二) 四九三―八七〇八

鞍馬流剣術

第十八代宗家 柴田章雄

〒160-0016 東京都新宿区信濃町一―一二
☎(〇三) 三三四―一八九八一

天然理心流剣術

十代宗家 平井正人

〒181-0011 東京都三鷹市井口一―一七―三二
☎(〇四二二) 三一―一七二五

柳生新陰流兵法剣術

第二十二世宗家 柳生耕一

〒463-0015 愛知県名古屋守山区西島町一〇―一
柳生会
☎(〇五二) 七九二―七一六

心形刀流剣術

代表 小林 強

〒519-0125 三重県亀山市東町一―八―二六
☎(〇五九五) 八二―〇六一四

初實剣理方一流剣術

第十七代宗家 植月 求

〒709-4334 岡山県勝田郡勝央町平二二九
☎(〇八六八) 三八―三四二九

兵法二天一流剣術

第十二代宗家 加治屋孝則

〒803-0824 福岡県北九州市小倉北区板櫃町二〇―二―一〇二
☎(〇七〇) 五四四―五五九三

野田派二天一流剣術

第二十一代師範 荒木章博

〒860-0047 熊本県熊本市西区春日一―三―一五
☎(〇九六) 三三四―一五九二

雲弘流剣術

第十九代宗家 井上弘道尤雲

〒860-0046 熊本県熊本市西区横手四―二―一二
☎(〇九六) 二〇―一三五一九

兵法タイ捨流

十五代宗家 上原エリ子

〒869-4224 熊本県八代市鏡町塩浜三〇七―二
兵法タイ捨流龍泉館
☎(〇九六五) 三七―八〇〇九

示現流兵法剣術

第十三代宗家 東郷重賢

〒892-0842 鹿児島県鹿児島市東千石町二―二
☎(〇九九) 二二二―五四三〇

野太刀自顕流剣術

代表 森山清隆

〒890-0046 鹿児島県鹿児島市西田二―一三―二三
☎(〇九九) 二五四―五八五三

林崎夢想流居合術

宗家 奥山観禪

〒996-0213 山形県最上郡大蔵村赤松三二六
☎(〇二三三) 七五―二三三七〇

無雙直傳英信流居合術

第廿一代宗家 関口高明

〒144-0051 東京都大田区西蒲田七―五〇―二
西蒲田ロイヤルハイツ八〇二
☎(〇三) 三七三―九二七六

田宮流居合術

代表 妻木達夫

〒250-0853 神奈川県小田原市堀之内一〇三—一
☎(〇四六五) 三七—八六〇一

関口流抜刀術^{いあい}

第十六代宗家 松岡秀樹

〒861-5280 熊本県熊本市西区松尾二—二七—四三
☎(〇九六) 三二九—四三六七

竹生島流棒術

第十八代宗家 松浦寛澄

〒856-0807 長崎県大村市宮小路三—一九三七—二
☎(〇九五七) 五五—一六八六

水鷗流居合剣法・正木流鎖鎌術

水鷗流十五代・正木流十二代 勝瀬善光

〒424-0037 静岡県静岡市清水区袖師町一四〇—二
☎(〇五四) 三六六—二一五八

尾張貫流槍術

第十三世継承者 加藤伊三男

〒454-0821 愛知県名古屋市中川区宗円町二—二四
☎(〇五二) 三六一—二五二三

戸田派武甲流薙刀術

第二十一代宗家 建入久代

〒250-0005 神奈川県小田原市中町一—一〇—二二四〇九
☎(〇四六五) 二二三—一一五五

伯耆流居合術

代表 大窪敏明

〒660-0892 兵庫県尼崎市東難波町四—一七—一
☎(〇六) 六四八二—〇一三五

風傳流槍術

十二代宗家 今西春禎

〒561-0817 大阪府豊中市浜一—八—二三
☎(〇六) 六三三二—〇三七一

天道流薙刀術

第十七代宗家 木村恭子

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪一—三六—三
☎(〇三) 三三三四—九一一一

円心流居合据物斬剣法

五世宗家 増本孝和

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町二—二〇—五七七〇七
☎(〇六) 六六二三—六三〇九

宝蔵院流高田派槍術

流派代表 駒喜多 学

〒619-0212 京都府木津川市梅谷宮ノ谷一二三
☎(〇七七四) 七三一五五五七

直心影流薙刀術

第十九代宗家 荻原晴子

〒671-2213 兵庫県姫路市川西台一—六三
☎(〇七九) 二六六一—一六五一

貫心流居合術

宗家 松本秀邦

〒690-1401 島根県松江市八束町江島八三〇
☎(〇八五二) 七六一—三三五五

佐分利流槍術

第十二代宗家 川瀬一道

〒726-0002 広島県府中市鶴飼町六三—四
☎(〇八四七) 四五—四〇九五

楊心流薙刀術

第十三代宗家 小山宜子

〒737-0001 広島県呉市阿賀北六—三一—一
☎(〇八二三) 七一—一七四六

初實剣理方一流甲冑拔刀術

代表 神崎 勝

〒701-0204 岡山県岡山市南区大福一六四
☎(〇八六) 二八一—一九〇〇

無比無敵流杖術

十五代宗家 根本憲一

〒311-1204 茨城県ひたちなか市平磯遠原町三一—二
☎(〇二九) 二六三—六九一七

肥後古流長刀

第十七代宗家 平田眞由美

〒865-0126 熊本県玉名郡和水町前原四五—一二
☎(〇九六八) 八六一—四二二三

鐘捲流拔刀術

第十二代宗家 檜原正士

〒709-0871 岡山県岡山市東区瀬戸町塩納四九五
☎(〇八六) 九五三—一一六四

神道夢想流杖術

代表 富永彰三

〒819-0373 福岡県福岡市西区周船寺三一—五—一三
☎(〇九二) 八〇六—四三七二

琉球古武術

琉球古武術保存振興会会長 井上貴勝

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻三—二四—一二一五〇四
☎(〇三) 五四七七—一〇二〇

和道流柔術拳法

三代宗家 大塚博紀

〒177-0031 東京都練馬区三原台三―二一―三
☎(〇三) 三九二三―四四六七

糸洲流空手

四世宗家 坂上節明

〒240-0026 神奈川県横浜市保土ヶ谷区権太坂
三―六―一―二二四
☎(〇四五) 七一六―二三七七

琉球王家秘伝本部御殿手

第十四代宗家 本部朝正

〒597-0015 大阪府貝塚市堀二―二二―六
☎(〇七二) 四三二―二九〇七

金硬流唐手・沖縄古武術

代表幹事 早坂ゆかり

〒301-0005 茨城県龍ヶ崎市川原代町四〇七三―二
☎(〇二九七) 八五―三四七七

沖縄剛柔流武術

代表 東恩納盛男

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志三―二二―四二
☎(〇九八) 八六四―一六七三

柳生心眼流甲冑兵法

総本部長 星 國雄

〒021-0021 岩手県一関市中央町二―九―四
☎(〇一九一) 二三―七四二九

柳生心眼流體術

十一世宗家 梶塚靖司

〒247-0007 神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷一―一七―一
吉岡写真事務所内
☎(〇四五) 八九三―三四二九

森重流砲術

代表師範 青木 孝

〒226-0019 神奈川県横浜市緑区中山五―三〇―十七
☎(〇四五) 九三一―一五三〇

陽流砲術

第十六代家元 尾上城由江

〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代四―三一―五
☎(〇九二) 六四一―四五〇四

荒木流拳法

第十七代宗家 菊池邦光

〒372-0033 群馬県伊勢崎市南千木町二三五―一
☎(〇二七〇) 二六一―一五六〇

荒木流軍用小具足

代表師範 千葉 明

〒253-0002 神奈川県茅ヶ崎市高田二―一三―八
☎(〇四六七) 五二―九一二八

根岸流手裏剣術

第七代宗家 早坂義文

〒301-0005 茨城県龍ヶ崎市川原代町四〇七三―二
☎(〇二九七) 八五―三四七七

小笠原流弓馬術

第三十一世宗家 小笠原清忠

〒251-0037 神奈川県藤沢市鵠沼海岸二―一七―四
☎(〇四六六) 三四―四〇八九

二刀神影流鎖鎌術

第七代宗家 細川 隆

〒781-2155 高知県高岡郡日高村九頭五三〇―八
☎(〇八八九) 二四―五三〇九

武田流合気之術

四十五世宗家 日影 渉

〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮一―二六―一六―二〇三
☎(〇九〇) 六二九八―一二四二

日本古武道協会

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園二―三
日本武道館内
☎(〇二三) 三三二―六―五一―一四
HP <http://www.nihonkobudokyokukai.org>

日本古武道協会 役員名簿

監事	理事	常任理事	会長
根本 憲一	飯 寫 文夫	江渡 聡徳	高村 正彦
平井 正人	吉川 常隆	飯篠 快貞	白井日出男
柳生 耕一	吉川 英夫	菊池 邦光	
松本 秀邦	東恩納盛男	小澤 智	
長沼 悟詮	長尾 進	竹内藤十郎	
関口 芳夫	藤堂 良明		
小林 強	神崎 勝		
木村 恭子	勝瀬 善光		
	小山 秀弘		
	内田 康介		
	植月 求		



第45回 日本古武道演武大会 運営組織図



大会役員

大会会長 高村 正彦 日本武道館会長 日本古武道協会会長	大会委員長 白井日出男 日本武道館理事長 日本古武道協会理事	大会実行委員長 吉川 英夫 日本武道館理事 事務局局長 日本古武道協会常任理事	大会実行副委員長 内田 康介 日本古武道協会理事・事務局局長	主催 (公財)日本武道館 日本古武道協会	後援 スポーツ庁 NHK 読売新聞社	協賛 日本武道協議会 全国都道府県立武道館協議会
------------------------------------	--------------------------------------	---	--------------------------------------	----------------------------	-----------------------------	--------------------------------

大会実行委員

大会総務総括 鈴木 達也 日本武道館 振興部長	大会総務副総括 中島 昭博 同振興部振興課長	大会総務 田谷 将俊 同振興課副主事	沢登 英徳 同振興課副主事	松林 裕樹 同振興課主任	鶴 麻奈美 同振興課主任	志村 春樹 同振興課事務員	大会進行 篠崎 浩之 同振興部副参事兼普及課長	松尾 貴之 同普及課主事	今寺 直人 同普及課主任	新井つかさ 同普及課主任	大倉 優貴 同普及課主任	中村 武路 同普及課事務員	大貫 雛子 同業務課事務員	石川 啓 同総務部副参事兼施設課長	大会設営 畑 俊和 同施設課副主事	穴澤 祐一 同施設課副主事	新井 竜介 同施設課主任	増岡 翔太 同施設課主任	柿沼 慧 同施設課事務員	大会記録 末吉 潤 同出版広報課主任	長澤 克成 同出版広報課主任	大会会計 青木 元樹 同会計課主任	長末 論 同会計課主任	大会接待 佐藤 英美 同総務課副主事
-------------------------------	------------------------------	--------------------------	------------------	-----------------	-----------------	------------------	-------------------------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	------------------	----------------------	-------------------------	------------------	-----------------	-----------------	-----------------	--------------------------	-------------------	-------------------------	----------------	--------------------------

YouTube 生配信について

今大会は、演武の様子を動画配信サイト YouTube「【公式】公益財団法人日本武道館」チャンネルにてライブ配信いたしますので、お知らせいたします



表紙題字：加藤 東陽（東京学芸大学名誉教授）

本文デザイン：株式会社 三友社

第45回 日本古武道演武大会 大会プログラム

令和4年2月6日 発行

編集・発行 公益財団法人 日 本 武 道 館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2番3号
TEL 03-3216-5134 / FAX 03-3216-5117
印刷・製本 株 式 会 社 三 友 社

《不許複製・禁転載》

山は富士 酒は白雪



JAPAN HERITAGE
日本遺産

「伊丹諸白」と「灘の生一本」
下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷

超特撰 白雪伊丹諸白 本醸造
一・八ℓ瓶詰



超特撰 白雪伊丹諸白 本醸造
七二〇ml瓶詰



超特撰 白雪
伊丹 諸白
いたみもろはく
本醸造



インターナショナル・ワイン・チャレンジ
2021 SAKE 部門
トロフィー受賞

KONISHI

— 山は富士 酒は白雪 — 小西酒造株式会社

飲酒は20歳になってから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒はおいしく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。